

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite
文書バージョン: 4.2 – 2015-11-12

SAP BusinessObjects BI カスタマイゼーションガイド



目次

| | | |
|----------|---|-----------|
| 1 | ドキュメント履歴 | 6 |
| 2 | はじめに | 7 |
| 2.1 | このガイドについて | 7 |
| | 用語 | 8 |
| 2.2 | 開始する前に | 9 |
| | SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのカスタマイズ | 9 |
| | SAP Crystal Reports のカスタマイズ | 12 |
| | SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ | 14 |
| 3 | Business Intelligence プラットフォームインストーラのカスタマイズ | 15 |
| 3.1 | 概要 | 15 |
| 3.2 | Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート (Windows) | 15 |
| 3.3 | Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート (Unix または Linux) | 16 |
| 3.4 | サーバイnstallプログラムをダウンロードする | 17 |
| 3.5 | カスタマイズプロセスの計画 | 18 |
| | ベストプラクティス | 18 |
| 3.6 | 設定ファイルの作成 | 20 |
| | 設定ファイルの概要 | 20 |
| | 製品名の変更 | 21 |
| | ユーザ入力のカスタマイズ | 29 |
| | インストール画面の削除 | 30 |
| | キーコードの埋め込み | 30 |
| | 機能の削除 | 31 |
| | 要件の確認の回避 | 31 |
| | サポートされていない Red Hat Linux プラットフォームでのインストール | 32 |
| | 言語パックの削除 | 33 |
| | WDeploy ツールの実行回避 | 33 |
| | デフォルトデータベースの削除 | 34 |
| | リソースの変更 | 34 |
| | Collaterals フォルダのアイテムの削除 | 37 |
| 3.7 | ツールの実行 | 38 |
| | コマンドラインパラメータ | 39 |
| 3.8 | アップデートインストールプログラムのカスタマイズ | 41 |
| | アップデートインストールプログラムに関するよくある質問 | 41 |

| | | |
|----------|---|-----------|
| | アップデートインストールプログラムのクイックスタート | 42 |
| | アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 | 43 |
| 3.9 | BI プラットフォームカスタマイゼーションの ID およびコード | 45 |
| | 機能 ID | 45 |
| | ショートカットデプロイメントユニット ID (Windows のみ) | 48 |
| | 文字列 ID | 49 |
| | 言語コード | 50 |
| | インストール画面とプロパティ ID | 51 |
| 4 | Web アプリケーションのカスタマイズ | 59 |
| 4.1 | 概要 | 59 |
| | 基本概念 | 59 |
| | カスタマイズのテスト | 61 |
| 4.2 | クイックスタート | 61 |
| 4.3 | BI 起動パッドのカスタマイズ | 63 |
| | ファビコンイメージをカスタマイズする | 63 |
| | ロゴをカスタマイズする | 63 |
| | その他のユーザインタフェース要素のカスタマイズ | 64 |
| | BI ワークスペースおよび複合モジュールの操作 | 66 |
| | BI 起動パッドの名前を変更する | 68 |
| 4.4 | OpenDocument のカスタマイズ | 69 |
| 4.5 | Crystal Reports JavaScript ビューアのカスタマイズ | 70 |
| | ビューアのカスタマイズ | 70 |
| 5 | SAP Crystal Reports 2011 のカスタマイズ | 73 |
| 5.1 | 概要 | 73 |
| 5.2 | Crystal Reports のクイックスタート | 73 |
| 5.3 | インストールプログラムをダウンロードする | 74 |
| 5.4 | カスタマイズプロセスの計画 | 75 |
| | ベストプラクティス | 75 |
| 5.5 | 設定ファイルの作成 | 76 |
| | 設定ファイルの概要 | 77 |
| | 製品名の変更 | 78 |
| | デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ | 85 |
| | インストール画面の削除 | 86 |
| | キーコードの埋め込み | 87 |
| | 機能の削除 | 87 |
| | 要件の確認の回避 | 88 |
| | 言語パックの削除 | 88 |
| | リソースの変更 | 88 |

| | | |
|----------|---|------------|
| | Collaterals フォルダのアイテムの削除 | 91 |
| 5.6 | レポートデザイナーのカスタマイズ | 92 |
| | スプラッシュ画面のカスタマイズ | 93 |
| | 開始ページのカスタマイズ | 93 |
| | メニュー文字列のカスタマイズ | 94 |
| | OEM カスタマイズファイルのデプロイメント | 95 |
| 5.7 | ツールの実行 | 96 |
| | コマンドラインパラメータ | 97 |
| 5.8 | アップデートインストールプログラムのカスタマイズ | 99 |
| | アップデートインストールプログラムに関するよくある質問 | 99 |
| | アップデートインストールプログラムのクイックスタート | 100 |
| | アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 | 101 |
| 5.9 | Crystal Reports のカスタマイズで使用する ID とコード | 103 |
| | 機能 ID | 103 |
| | ショートカットデプロイメントユニット ID | 106 |
| | 文字列 ID | 106 |
| | 言語コード | 107 |
| | インストール画面とプロパティ ID | 108 |
| 6 | SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ | 110 |
| 6.1 | はじめに | 110 |
| 6.2 | Crystal Reports for Enterprise のクイックスタート | 110 |
| 6.3 | インストールプログラムのダウンロード | 112 |
| 6.4 | カスタマイズプロセスの計画 | 112 |
| | ベストプラクティス | 113 |
| 6.5 | 設定ファイルの作成 | 114 |
| | 設定ファイルの概要 | 114 |
| | 製品名の変更 | 115 |
| | デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ | 119 |
| | インストール画面の削除 | 119 |
| | 要件の確認の回避 | 120 |
| | 言語パックの削除 | 120 |
| | リソースの変更 | 121 |
| | Collaterals フォルダのアイテムの削除 | 123 |
| 6.6 | レポートデザイナーのカスタマイズ | 124 |
| | スプラッシュ画面のカスタマイズ | 124 |
| | 開始ページのパーツの非表示 | 125 |
| | プログラム内の文字列のカスタマイズ | 127 |
| | ヘルプメニューのカスタマイズ | 128 |

| | | |
|-----|---|-----|
| | 概要ダイアログボックスのイメージの変更 | 131 |
| | OEM カスタマイズファイルのデプロイメント | 131 |
| | .properties ファイルの属性 | 132 |
| 6.7 | ツールの実行 | 134 |
| | コマンドラインパラメータ | 135 |
| 6.8 | Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズで使用する ID とコード | 136 |
| | 文字列 ID | 136 |
| | 言語コード | 137 |
| | インストール画面 ID とプロパティ ID | 138 |

1 ドキュメント履歴

以下の表は、ドキュメントの拡張の概要です。

| バージョン | 日付 | 説明 |
|---|-------------|--|
| SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 | 2013 年 5 月 | このドキュメントの初版です。 |
| SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 サポートパッケージ 1 | 2013 年 8 月 | <ul style="list-style-type: none">追加された節: サポートされていない Red Hat Linux プラットフォームでのインストール [32 ページ]更新された節: 設定フォルダのカスタマイズ [28 ページ] デフォルトのインストールディレクトリは、Program Files (x86) のサブフォルダにする必要があります。 |
| SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 サポートパッケージ 2 | 2013 年 11 月 | <ul style="list-style-type: none">SAP システムランドスケープディレクトリ (SLD) は、非表示機能となり自動的にインストールされるようになったため、機能コード PlatformServers.SystemLandscape Supplier へのすべての参照は削除されました。 |
| SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2 | 2015 年 11 月 | ブランド変更によりガイドを更新しました。 |

2 はじめに

2.1 このガイドについて

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム、SAP Crystal Reports Designer、および SAP Crystal Reports for Enterprise をカスタマイズできるツールおよびテンプレートのセットを提供します。このガイドでは、これらのツールおよびテンプレートを使用してカスタマイズする方法を説明します。

顧客のニーズに応じて、機能や言語パックを削除してインストールプログラムおよびインストールされている製品のサイズを縮小することができます。また、システムを差別化し、独自の企業ブランディングを適用する場合に、製品名、ロゴ、色などのユーザーインターフェース要素で製品の外観をパーソナライズすることができます。ロゴの変更のようなシンプルなカスタマイズや、完全に外観を変える細かいカスタマイズが可能です。

カスタマイズが製品のライフサイクルを通してサポートされることが最も大切です。将来のアップグレードや更新での変更を容易に管理できます。

このガイドは、SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 製品をカスタマイズするすべてのユーザを対象としています。すべての内容を読む必要はありません。[開始する前に \[9 ページ\]](#)の節では、製品カスタマイズの主要領域ごとの適切なワークフローを説明し、どこに必要な情報があるかが示されています。

ガイドの表記規則

以下の変数は、このマニュアル全体を通して使用しています。

| 変数 | 説明 |
|--------------|---|
| <INSTALLDIR> | BI プラットフォームがインストールされているファイルパス。 Windows マシンの場合、デフォルトのファイルパスは C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\ です。 |

2.1.1 用語

BI プラットフォームのドキュメントでは、次の用語が使用されます。

表 1:

| 用語 | 定義 |
|---------------------------------------|---|
| アドオン製品 | BI プラットフォームで動作する一方、独自のインストールプログラムがある製品で、SAP BusinessObjects Explorer などがあります。 |
| 監査データストア (ADS) | 監査データを保存するために使用されるデータベースです。 |
| BI プラットフォーム | SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの略語です。 |
| バンドルされたデータベース、バンドルされた Web アプリケーションサーバ | BI プラットフォームに同梱されているデータベースまたは Web アプリケーションサーバのことです。 |
| クラスタ (名詞) | 1 つの CMS データベースを使用し、同時に動作する 2 つ以上の Central Management Server (CMS) です。 |
| クラスタ化する (動詞) | <p>クラスタを作成することです。</p> <p>たとえば、クラスタを作成するには以下の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. マシン A に CMS および CMS データベースをインストールします。2. マシン B に CMS をインストールします。3. マシン B の CMS がマシン A の CMS データベースを使用するように指定します。 |
| クラスタキー | <p>CMS データベースでキーを解読するのに使用されます。</p> <p>CCM を使用してクラスタキーを変更できますが、パスワードのようにキーをリセットすることはできません。暗号化されたコンテンツが含まれており、紛失しないようにすることが重要です。</p> |
| CMS | Central Management Server の略語です。 |
| CMS データベース | BI プラットフォームに関する情報を保存するために CMS で使用されるデータベースです。 |
| デプロイメント | 1 つ以上のマシンにおいてインストール、設定、実行されている BI プラットフォームソフトウェアのことです。 |
| インストール | インストールプログラムによって 1 つのマシン上に作成される BI プラットフォームファイルのインスタンスです。 |
| マシン | BI プラットフォームソフトウェアがインストールされるコンピュータです。 |

| 用語 | 定義 |
|--------------------------------|---|
| メジャーリリース | 4.0 のような、ソフトウェアのフルリリースです。 |
| 移行 | <p>BI コンテンツを以前のメジャーリリース (XI 3.1 など) から、アップグレード管理ツールを使用して移行するプロセスです。</p> <p>この用語は、同じメジャーリリースのデプロイメントには適用されません。昇格を参照してください。</p> |
| マイナーリリース | 4.2 のような、ソフトウェアの一部のコンポーネントのリリースです。 |
| ノード | 同じマシンで実行され、同じ Server Intelligence Agent (SIA) で管理される BI プラットフォームサーバのグループです。 |
| パッチ | 特定のサポートパッケージバージョンの小規模な更新です。 |
| 昇格 | BI コンテンツを同じメジャーリリース (4.0 から 4.0 など) のデプロイメント間で、プロモーションマネジメントアプリケーションを使用して移行するプロセスです。 |
| サーバ | BI プラットフォームのプロセスの 1 つです。サーバは、1 つ以上のサービスをホストします。 |
| Server Intelligence Agent(SIA) | サーバの停止、起動、起動など、サーバのグループを管理するプロセスです。 |
| サポートパッケージ | マイナーリリースまたはメジャーリリースに対するソフトウェアの更新です。 |
| Web アプリケーションサーバ | 動的コンテンツを処理するサーバです。たとえば、4.2 用にバンドルされた Web アプリケーションサーバは Tomcat 8 です。 |
| アップグレード | 移行プロセスを完了するために必要な計画、準備、移行、後処理のことです。 |

2.2 開始する前に

このガイドでは SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite の製品ごとのさまざまな種類のカスタマイズについて説明します。カスタマイズを計画している製品について説明している節のみをお読みください。

2.2.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのカスタマイズ

ユーザは、Business Intelligence プラットフォームデプロイメントのさまざまな側面をカスタマイズできます。

- インストールプログラムのカスタマイズ

インストールされる製品サイズを小さくするため、機能、言語パック、およびリソースを削除できるほか、製品名の変更、画像の変更、不要なインストール画面の非表示、キーコードの組み込み、およびユーザ入力項目の事前生成が可能です。このドキュメントの「“Business Intelligence プラットフォームのインストーラのカスタマイズ”」の[概要 \[15 ページ\]](#)を参照してください。

- BI 起動パッドおよび OpenDocument Web アプリケーションのカスタマイズ

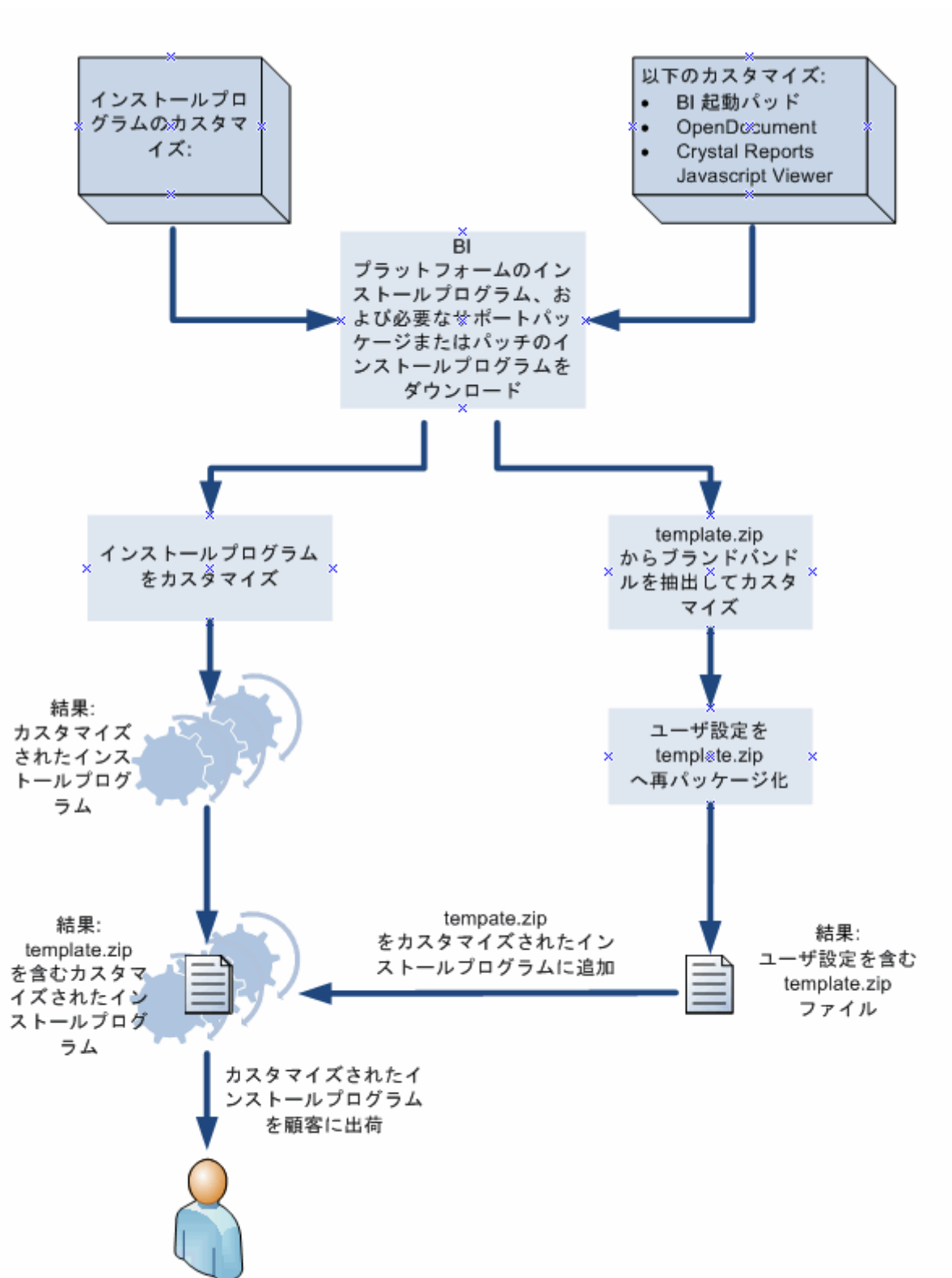
Web アプリケーションにアクセスするのに使用されるタイトルおよび URL を変更できます。カスタム画像およびカスケーディングスタイルシート (CSS) を使用して、これらのアプリケーションの外観およびブランディングを変更できます。このドキュメントの「“Web Application のカスタマイズ”」の[概要 \[59 ページ\]](#)を参照してください。

- Crystal Reports JavaScript API レポートビューアのカスタマイズ

カスタム画像およびカスケーディングスタイルシート (CSS) を使用して、ロゴを変更したり、ビューアのビジュアルスタイルをカスタマイズできます。既存の JavaScript API に独自のイベントおよびアクションリスナを追加したり、独自の外部 JavaScript ファイルを追加することができます。

このドキュメントの [Crystal Reports JavaScript ビューアのカスタマイズ \[70 ページ\]](#)を参照してください。

Web アプリケーション、インストールプログラム、およびその両方をカスタマイズできます。次の図は、すべての種類のカスタマイズが実行されるワークフローを示しています。

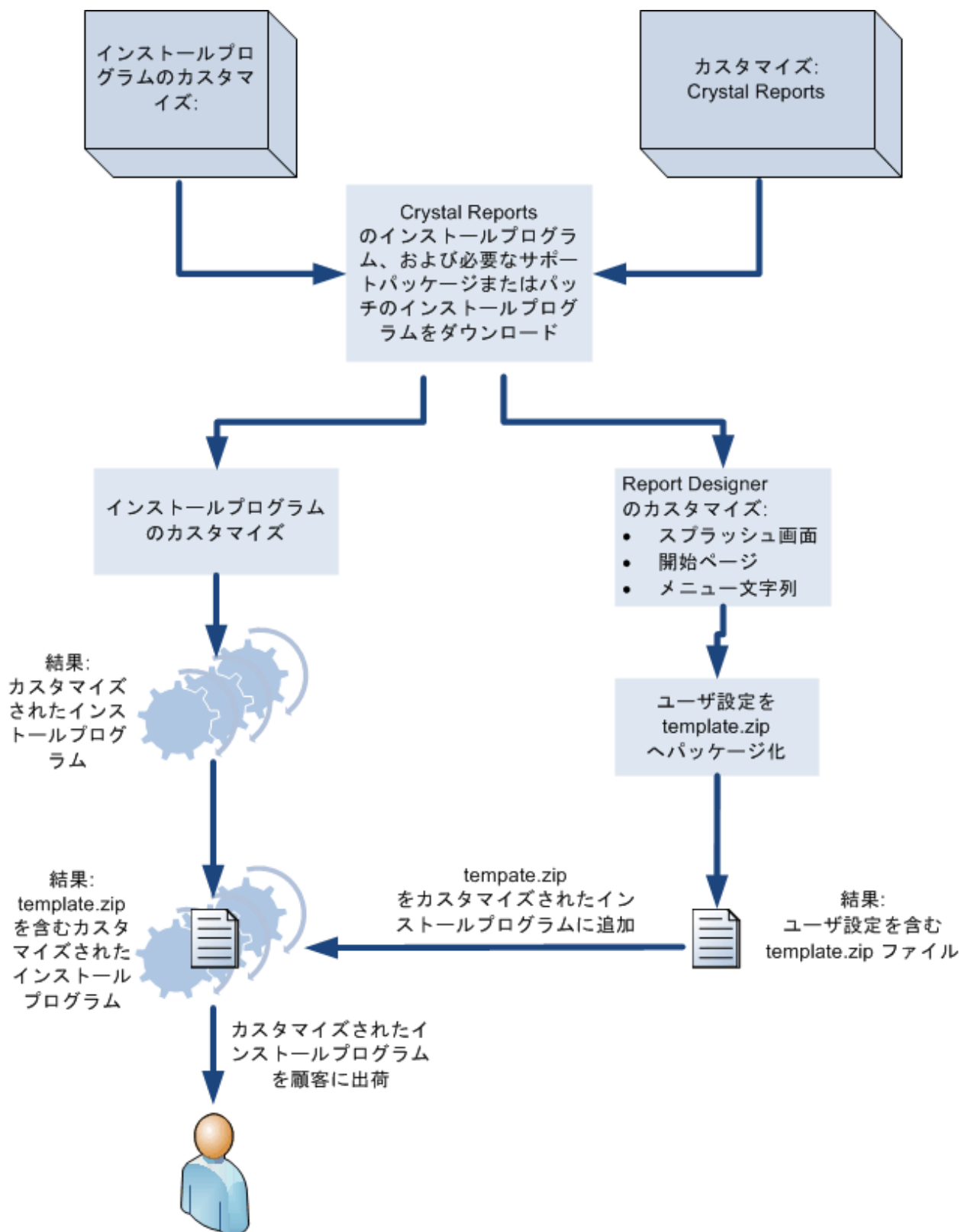


2.2.2 SAP Crystal Reports のカスタマイズ

SAP Crystal Reports ユーザのデザインとカスタマエクスペリエンスを、拡張およびパーソナライズするために実行できる多くのユーザ設定があります。

- SAP BusinessObjects カスタマイズツールをインストールして実行します。詳細については、[Crystal Reports のクイックスタート \[73 ページ\]](#)を参照してください。
- SAP Crystal Reports インストールプログラムをカスタマイズする場合、外観を変更したり、ウィザードで不要な画面を非表示にしたりできるほか、クライアントマシンでインストールされる製品サイズを小さくするため、使用しない機能を削除することができます。
このドキュメントの「“SAP Crystal Reports 2011 のカスタマイズ”」の[概要 \[73 ページ\]](#)を参照してください。
- レポートデザイナをカスタマイズする場合は、デフォルトのスプラッシュ画面または開始ページを変更できます。また、レポートデザイナの製品名、メニュー、およびその他の内容もカスタマイズできます。
このドキュメントの[レポートデザイナのカスタマイズ \[92 ページ\]](#)を参照してください。

次の図は、すべての種類のカスタマイズが実行されるワークフローを示しています。



2.2.3 SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ

SAP Crystal Reports for Enterprise では、プログラムのデザインをパーソナライズしてユーザのカスタマエクスペリエンスを拡張するために、さまざまなカスタマイズを行うことができます。

- 外観を変更したり、不要な画面を非表示にしたり、使用しないファイルを削除することで、インストールプログラムをカスタマイズして、クライアントマシンにインストールされた製品のサイズを削減できます。
詳細については、このドキュメントの節“SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ”の [はじめに \[110 ページ\]](#) を参照してください。
- デフォルトのスプラッシュ画面または開始ページを変更することでレポートデザイナーをカスタマイズできます。また、レポートデザイナーの製品名、メニュー、およびその他の内容もカスタマイズできます。
詳細については、このドキュメントの節“SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ”の [レポートデザイナーのカスタマイズ \[124 ページ\]](#) を参照してください。

3 Business Intelligence プラットフォームインストーラのカスタマイズ

3.1 概要

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームは、パートナーが再パッケージして販売することができます。特定の顧客ベースをターゲットにしたり、独自の製品として再販するために、インストールされている製品およびインストールプログラムをカスタマイズすることができます。SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームおよびそのインストールプログラムを、次のような変更でカスタマイズできます。

- 製品サイズの縮小
- 製品名の変更
- インストールプログラムのデフォルトプロパティの変更
- インストールプログラムの画面の非表示

カスタマイズを行うには、設定ファイルを作成して変更点を指定し、SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを実行してカスタマイズされたインストールプログラムを作成します。ユーザはインストールプログラムを使用して、カスタマイズされたバージョンの製品をインストールできます。

カスタマイゼーションツールは Windows と Unix で利用できます。フルインストールプログラム、サポートパッケージインストールプログラム、およびパッチインストールプログラムのカスタマイズに使用できます。

i 注記

このツールは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームクライアントツールではカスタマイズを実行しません。

3.2 Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート (Windows)

この節では、カスタマイゼーションツールを実行して SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム (BI プラットフォーム) のインストールプログラムをカスタマイズする方法を説明します。このツールに付属するサンプル設定ファイルを使用します。このチュートリアルを完了すると、カスタマイズしたインストールパッケージを実行し、カスタマイズされたバージョンの BI プラットフォームをインストールできます。

カスタマイズには、デフォルトのインストールタイプの変更、機能の削除、製品キーコードのハードコーディング、デフォルトのインストールフォルダの変更、製品名の変更、および Windows [スタート] メニューのセントラル設定マネージャのショートカットの変更が含まれます。これらの詳細は設定ファイルの節で説明します。

1. カスタマイゼーションツールを設定します。

- a. 開発マシン上に C:\SAPCustomTool\packages などの作業フォルダを作成します。
- b. BI プラットフォームインストールパッケージのコンテンツを C:\SAPCustomTool\packages にコピーします。
インストールパッケージには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。手順については、[サーバインストールプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#) を参照してください。
- c. (オプション) サンプル設定ファイルにキーコードを追加します。
XML エディタで C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_boe.xml ファイルを開き、PutYourKeyCodehere を BI プラットフォームのキーコードに置き換えます。設定ファイルにキーコードを入力しない場合は、カスタマイズした BI プラットフォームをインストールした後に、セントラル管理コンソールを使用して入力することができます。
- d. C:\SAPCustomTool\output フォルダを作成します。
このフォルダは空にする必要があります。
- e. コマンドプロンプトで次のコマンド `cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool` を実行します。
CustomizationTool フォルダには、実行可能な `customizationtool.exe` とサンプル設定ファイル `example_customization_win_boe.xml` が含まれます。

2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
customizationtool.exe xml=example_customization_win_boe.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:\SAPCustomTool\output logDetail=error > C:\oemlog.log
```

カスタマイズしたインストールプログラムが C:\SAPCustomTool\output に作成されていることを確認します。ログファイル `oemlog.log` にエラーが記録されていないことを確認します。

i 注記

カスタマイゼーションツールの完了には数分かかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

3. C:\SAPCustomTool\output\setup.exe を使用してカスタマイズした SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールプログラムを実行します。

BI プラットフォームは、設定ファイルに記述されたカスタマイズ内容でインストールされます。

3.3 Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート (Unix または Linux)

この節では、カスタマイゼーションツールを実行して SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム (BI プラットフォーム) のインストールプログラムをカスタマイズする方法を説明します。このツールに付属するサンプル設定ファイルを使用します。このチュートリアルを完了すると、カスタマイズしたインストールパッケージを実行し、カスタマイズされたバージョンの BI プラットフォームをインストールできます。

カスタマイズには、デフォルトのインストールタイプの変更、機能の削除、製品キーコードのハードコーディング、デフォルトのインストールフォルダの変更、および製品名の変更が含まれます。これらの詳細は設定ファイルの節で説明します。

1. カスタマイゼーションツールを設定します。

a. 開発マシン上に /usr/jdoe/bip/package などの作業フォルダを作成します。

b. BI プラットフォームインストールパッケージのコンテンツを /usr/jdoe/bip/package にコピーします。

インストールパッケージには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。手順については、[サーバインストールプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#) を参照してください。

c. (オプション) サンプル設定ファイルにキーコードを追加します。

XML エディタで /usr/jdoe/bip/package/Collaterals/Tools/CustomizationTool/example_customization_linux_boe.xml ファイルを開き、PutYourKeyCodehere を BI プラットフォームのキーコードに置き換えます。設定ファイルにキーコードを入力しない場合は、カスタマイズした BI プラットフォームをインストールした後に、セントラル管理コンソールを使用して入力することができます。

d. /usr/jdoe/bip/output フォルダを作成します。このフォルダは空にする必要があります。

e. /usr/jdoe/bip/package/Collaterals/Tools/CustomizationTool フォルダに移動します。

このフォルダには、実行可能な customizationtool.sh とサンプル設定ファイル example_customization_linux_boe.xml が含まれます。

2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
/customizationtool.sh xml=example_customization_linux_boe.xml packageDir=/usr/jdoe/bip/package outputDir=/usr/jdoe/bip/output logDetail=error &> custombip.log
```

インストールプログラムおよびインストールされている製品で表示されるカスタマイズは、設定ファイル /usr/jdoe/bip/package/Collaterals/Tools/CustomizationTool/example_customization_linux_boe.xml に記述されています。

カスタマイズしたインストールプログラムが /usr/jdoe/bip/output に作成されていることを確認します。ログファイル custombip.log にエラーが記録されていないことを確認します。

i 注記

カスタマイゼーションツールの完了には数分かかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

3. コマンドプロンプトから /usr/jdoe/bip/output/setup.sh を使用して、カスタマイズした BI プラットフォームインストールプログラムを実行します。

BI プラットフォームは、設定ファイルに記述されたカスタマイズ内容でインストールされます。

3.4 サーバインストールプログラムをダウンロードする

1. <https://support.sap.com/home.html> > [ダウンロード] に移動します。

2. [Installations and Upgrades] > [A-Z Index] を選択します。

3. ▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.2 ▶ を選択します。

4. [Installation and Upgrade] を選択し、プラットフォームを選択します。

5. SBOP BI PLATFORM <バージョン> SERVER というタイトルのすべてのパッケージと、必要な追加アドオン製品を選択してから、Web サイトの指示に従ってこれらのパッケージをダウンロードして抽出します。

ソフトウェアのダウンロードには時間がかかることがあります。システム管理者に連絡して、会社のファイアウォールがダウンロード処理を終了しないようにする必要があります。

サポートパッケージおよびパッチは、BI プラットフォームソフトウェアに対する更新を含むインストールプログラムです。これらは、<https://support.sap.com/home.html> > **ダウンロード** > *Support Packages and Patches* > *A-Z Index* からダウンロードすることができます。サポートパッケージとパッチのインストールの詳細については、SAP BusinessObjects BI Suite のアップデートガイドを参照してください。

i 注記

- ユーザは、ダウンロードに SAP ダウンロードマネージャを使用する必要があります。ダウンロードマネージャを使用せずにサーバイnstallプログラムをダウンロードすると、ダウンロードが失敗するか、一部が実行されません。
- solaris および air tar ファイルを抽出するには、ユーザが抽出にデフォルト tar ユーティリティではなく gnu tar または gtar を使用する必要があります。そうしないと、インストールが失敗します。

3.5 カスタマイズプロセスの計画

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを使用するには次を実行します。

1. インストールプログラムをダウンロードします。[サーバイnstallプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#)を参照してください。
2. 必要なカスタマイズを決定します。[設定ファイルの作成 \[20 ページ\]](#)を参照してください。
3. 設定ファイルを作成してカスタマイズを指定します。
4. カスタマイゼーションツールを実行して、カスタマイズしたインストールプログラムを作成します。
5. カスタマイズしたインストールプログラムを実行して、カスタマイズされたバージョンの SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム をインストールします。

3.5.1 ベストプラクティス

この節では、カスタマイズしたインストールプログラム作成のための推奨事項を説明します。

設定ファイルの検証

ツールを実行する前に設定ファイルを検証することをお勧めします。コマンドラインパラメータ `validate` を使用します。

製品サイズの縮小

ユーザは、より小さいインストールプログラムやより小さいインストール済み製品を好みます。製品をできるだけ小さくするために次を実行します。

- 不要な任意の言語パックを削除します。
- 不要な任意の機能を削除します。
- Collaterals フォルダから不要な任意のアイテムを削除します。
- 不要な場合は、デフォルトのデータベースを削除します。

カスタマイズした名前の一貫した割り当て

製品名とバージョン番号は、インストールプログラムおよびインストールした製品の複数の場所に表示されます。次の場所でカスタマイズを確認してください。

- 製品名、製品バージョン、製品メジャーバージョン
- Windows の [\[スタート\]](#) メニューエントリおよびすべての機能のショートカット
- Windows の [\[プログラムの追加と削除\]](#) ユーティリティ
- デフォルトのインストールフォルダ

すべての言語での名前変更の考慮

サポートされるすべての言語でカスタマイズした名前の表示を考慮することをお勧めします。

パッチインストールプログラムを、メインインストールプログラムと整合性のあるものに変更します。

サポートパッケージやパッチにもメインリリースと同じカスタマイズを適用する必要があります。カスタマイズしたメインインストールプログラムをリリースし、異なるカスタマイズのサポートパッケージまたはパッチインストールプログラムをリリースすると、予測できない結果が生じる場合があります。標準的なロールバック手順で修復できない可能性があります。

サポートパッケージおよびパッチのロールバックインストール、変更インストール、修正インストールのテスト

ロールバック、変更、および修正は、メインインストールパッケージと整合する方法でカスタマイズされた場合に、カスタマイズされたサポートパッケージおよびパッチでサポートされます。これらのシナリオをテストすることをお勧めします。

関連情報

[コマンドラインパラメータ \[39 ページ\]](#)

3.6 設定ファイルの作成

次の節では、設定ファイルの編集によるインストールプログラムのカスタマイズについて説明します。

- 製品名の変更
 - 製品名とバージョン番号のカスタマイズ
 - Windows の [スタート] メニューのショートカットのカスタマイズ
 - Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティのカスタマイズ
 - 設定フォルダのカスタマイズ
- ユーザ入力のカスタマイズ
- インストール画面の削除
- キーコードの埋め込み
- 機能の削除
- 要件の確認の回避
- 言語パックの削除
- WDeploy ツールの実行回避
- デフォルトデータベースの削除
- リソースの変更
 - インストールプログラム内の画像の変更
 - 使用許諾契約の変更
- Collaterals フォルダのアイテムの削除

3.6.1 設定ファイルの概要

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールは、設定ファイルの情報をを使用してカスタマイズを実行します。設定ファイルは XML ドキュメントです。XML 要素を使用してカスタマイズを記述します。サンプル設定ファイルは、インストールプログラムの次のフォルダにあります。

表 2:

| プラットフォーム | サンプル設定ファイルの場所 |
|----------------|---|
| Windows | Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_boe.xml |
| Unix または Linux | Collaterals/Tools/CustomizationTool/ example_customization_linux_boe.xml |

ファイルは次の形式である必要があります。

```
<oem name="<Any name>">
  <cloneProduct sourceId="product.businessobjects64-4.0-core-32">
    ...
    ...
  </cloneProduct>
</oem>
```

完全インストールプログラムの設定ファイルは oem.xml などの任意の名前を持つことができます。

サポートパッケージインストールプログラムの設定ファイルは、[アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 \[43 ページ\]](#)の節で説明します。

注記

設定ファイルは、正しい XML 構文で記述する必要があります。XML エディタを使用してファイルを作成および編集し、ツールを実行する前に形式が正しいことを確認します。

例

この例のファイルでは次のカスタマイズを指定しています。

- 製品ロング名をすべての言語で *Custom Company Server* に変更します。
- 製品ショート名をすべての言語で *CustomCS* に変更します。
- インストール画面 [[インストールタイプの選択](#)] を削除し、インストールタイプを *Custom* に設定します。
- インストールパッケージに含まれる言語パックを、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語のみに指定します。

```
<oem name="CustomCompanyServer">
  <cloneProduct sourceId="product.businessobjects64-4.0-core-32">
    <replaceString id="product.boe64_name" value="Custom Company Server"
      lang="all"/>
    <replaceString id="product.boe64_shortcode" value="Custom CS" lang="all"/>
    <replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
    <removeDialog id="ChooseInstallType.dialog"/>
    <languageIncludeList value="en;fr;de;it;zh_CN"/>
  </cloneProduct>
</oem>
```

3.6.2 製品名の変更

次の方法で製品名を変更できます。

- 製品名とバージョン番号をカスタマイズします。
- Windows の [[プログラムの追加と削除](#)] エントリをカスタマイズします。(Windows のみ)
- 機能のショートカットの [[スタート](#)] メニューエントリをカスタマイズします。(Windows のみ)
- デフォルトのインストールフォルダをカスタマイズします。

次の節でこれらの手順を説明します。

3.6.2.1 製品名とバージョン番号のカスタマイズ

製品名とバージョン番号をカスタマイズすることができます。replaceString でカスタマイズする文字列 ID を指定します。

```
<replaceString id="<string id>" value="<new value>" lang="<language list>"/>
```

製品名とバージョン番号を表す文字列は、製品ロング名、製品ショート名、製品バージョン番号、製品メジャーバージョン番号の 4 つです。製品の完全名は、製品ロング名とバージョン番号で構成されます。製品ショート名と製品メジャーバージョンは、Windows のショートカットメニューで使用されます。

表 3:製品名とバージョン番号

| 文字列の説明 | 文字列 ID | デフォルト値 |
|--------------|-------------------------|---------------------------------|
| 製品のロング名 | product.boe64_name | SAP BusinessObjects BI プラットフォーム |
| 製品のショート名 | product.boe64_shortcode | BI プラットフォームサーバ |
| 製品のバージョン | product_version | 4.1 |
| 製品のメジャーバージョン | product_majorversion | 4 |

i 注記

製品バージョンと製品メジャーバージョンは同時にカスタマイズする必要があります。たとえば、製品バージョンを 1.0 に変更した場合は、製品メジャーバージョンも 1 にカスタマイズする必要があります。そうしないと、メニューのバージョン番号と製品のバージョン番号が一致しません。

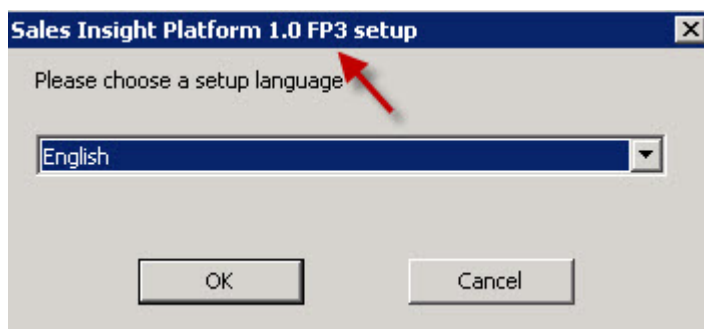
言語ごとに新しい名前を指定することができます。

例

英語の製品ロング名を *Sales Insight Platform* に変更し、製品ショート名を *Sales Platform* に変更します。フランス語の製品ロング名を *Sales Insight Platform (French)* に変更し、製品ショート名を *Sales Platform (French)* に変更します。英語とフランス語の両方の製品バージョンを *1.0* に変更し、製品メジャーバージョンを *1* に変更します。英語とフランス語以外の言語では、製品名とバージョン番号はデフォルト値のままです。

```
<replaceString id="product.boe64_name" value="Sales Insight Platform" lang="en"/>
<replaceString id="product.boe64_shortcode" value="Sales Platform" lang="en"/>
<replaceString id="product.boe64_name" value="Sales Insight Platform (French)"
lang="fr"/>
<replaceString id="product.boe64_shortcode" value="Sales Platform (French)"
lang="fr"/>
<replaceString id="product_version" value="1.0" lang="en;fr"/>
<replaceString id="product_majorversion" value="1" lang="en;fr"/>
```

このカスタマイズは次のように表示されます。バージョン番号 “FP3” が削除されていないことに注意してください。



インストールプログラムから “FP3” のインスタンスを削除する

インストールプログラムを実行するときに、製品名に “FP3” のインスタンスが表示される場合があります。“FP3” を削除するには、次のファイルの行を修正します。

表 4:

| ファイル名 | 元の行 | 変更された行 |
|---|--|--|
| dunit \\product.businessobjects64-4.0-core-32\\setup.ui.framework\\uitext\\BusinessObjects64\\product.lang_<language code>.uitext.xml | <string id="productname_patch" value=" FP3"/> | <string id="productname_patch" value=""/> |
| dunit \\product.businessobjects64-4.0-core-32\\setup.ui.framework\\uitext\\framework\\setup.ui.framework.lang_<language code>.uitext.xml | <string id="product_patch" value="FP3"/> | <string id="product_patch" value=""/> |
| 同上 | <string id="product_patch_prespace" value=" FP3"/> | <string id="product_patch_prespace" value=""/> |

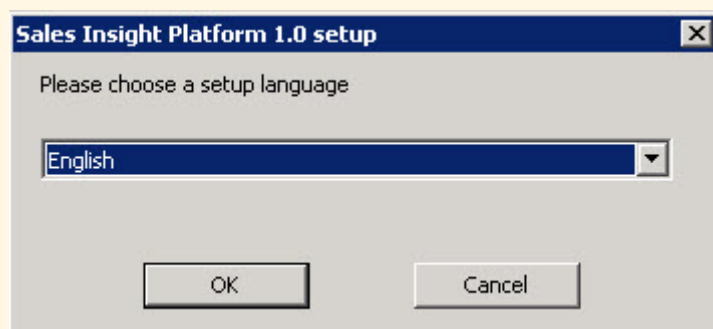
インストールプログラムでサポートされる各言語で 1 つのファイルを変更する必要があります。言語コードの一覧については、[言語コード \[50 ページ\]](#)を参照してください。カスタマイゼーションツールを実行し、次にインストールプログラムを実行すると、すべての“FP3” インスタンスが削除されます。このプロセスは将来のリリースで簡素化されます。

例

英語のインストールプログラムから“FP3”を削除するには、次のファイルを変更します。

- product.lang_en.uitext.xml
- setup.ui.framework.lang_en.uitext.xml

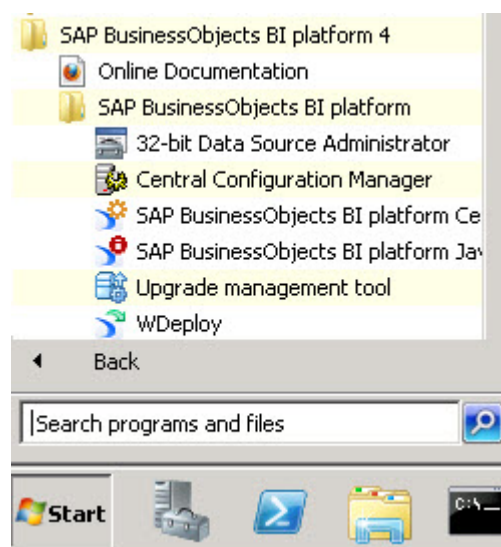
このカスタマイズは次のように表示されます。



3.6.2.2 Windows の [スタート] メニューのショートカットのカスタマイズ (Windows のみ)

Windows の [スタート] メニューには、セントラル管理コンソールや BI 起動パッドなどの機能へのショートカットが含まれます。各ショートカットの名前、場所、ツールヒントをカスタマイズできます。カスタマイズしていないショートカットは、デフォルトの [スタート] メニューの [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] に分類されます。

英語のインストールでのデフォルトの [スタート] メニューは次のようになります。



各機能の場所、ショートカット名、ツールヒントをカスタマイズするには、shortcut 要素を使用します。

```
<shortcut duSourceId="<shortcut deployment unit ID>">
  <arg id="linkFullPath" value="<full path to shortcut link>" lang="<language list>" />
  <arg id="description" value="<tooltip string>" lang="<language list>" />
</shortcut>
```

表 5:

| 属性 | 値 |
|------------|--|
| duSourceId | <p>変更するショートカットデプロイメントユニット ID。典型的な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">product.businessobjects64.shortcut.ccm-4.0-core セントラル設定マネージャproduct.businessobjects64.shortcut.infoview-4.0-core BI 起動パッドproduct.businessobjects64.shortcut.cmc-4.0-core セントラル管理コンソール <p>sourceId 値の完全な一覧については、ショートカットデプロイメントユニット ID (Windows のみ) [48 ページ]を参照してください。</p> |

| 属性 | 値 |
|--------------|---|
| linkFullPath | <p>ショートカットリンクへの完全パス。ショートカットリンクには .lnk を追加してください。追加しない場合はリンクが作成されません。ショートカットリンクは、[スタート] メニューまたはデスクトップに配置することができます。SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールでは、リンクが正しく作成されます。</p> <p>言語ごとに 1 つのリンクを指定することができます。言語コードの一覧については、言語コード [50 ページ]を参照してください。</p> |
| 説明 | <p>マウスをショートカットの上に置くと表示されるツールヒントの文字列。言語ごとに 1 つのツールヒントを指定することができます。</p> |

i 注記

次のショートカットに対しては、リンクはカスタマイズできますが、ツールヒントはカスタマイズできません。

- BI 起動パッド (旧 InfoView)
- オンラインマニュアル
- InfoView に保存された WACS
- Web アプリケーションコンテナサーバ

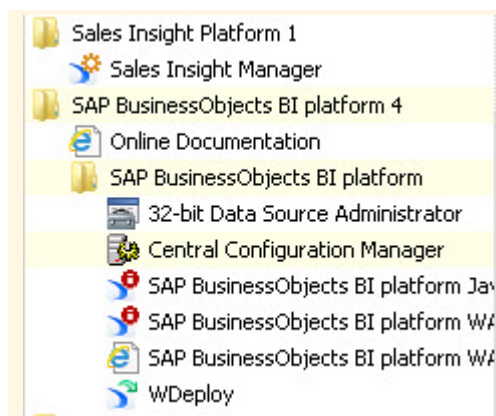
これは将来のリリースで解決されます。

例

この例では、**セントラル管理コンソール**のショートカット名を、英語では *Sales Insight Manager*、フランス語では *Sales Insight Mnager (French)* にカスタマイズし、[スタート] メニューエントリにショートカットを *Sales Insight Platform 1* という名前で配置しています。さらに、ツールヒントを英語では *Launch Sales Manager*、フランス語では *Launch Sales Manager (French)* にカスタマイズしています。他のすべての言語に対しては、ショートカット名とツールヒントは変更されません。

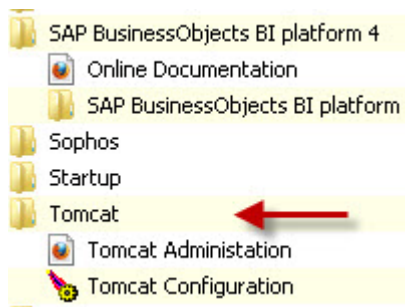
```
<shortcut duSourceId="product.businessobjects64.shortcut.cmc-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Sales Insight Platform 1\Sales Insight Manager.lnk" lang="en"/>
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Sales Insight Platform 1 (French)\Sales Insight Manager (French).lnk" lang="fr"/>
  <arg id="description" value="Launch Sales Manager" lang="en"/>
  <arg id="description" value="Launch Sales Manager (French)" lang="fr" />
</shortcut>
```

このカスタマイズは次のように表示されます。



Tomcat ショートカットの変更

Tomcat のショートカットには、次のように [\[Tomcat 管理\]](#) と [\[Tomcat 設定\]](#) の 2 つがあります。



このショートカットをカスタマイズするには追加のステップが必要です。この shortcut 要素を使用して [\[Tomcat 管理\]](#) リンクをカスタマイズします。pathToTarget 要素をメモします。

```
<shortcut duSourceId="product.businessobjects64.shortcut.tomcat-4.0-core"
pathToTarget="http://localhost:[TomcatConnectionPort]/manager/html">
  <arg id="linkFullPath" value="<full path to shortcut link>" lang="<language list>" />
  <arg id="description" value="<tooltip string>" lang="<language list>" />
</shortcut>
```

この shortcut 要素を使用して [\[Tomcat 設定\]](#) リンクをカスタマイズします。pathToTarget 要素をメモします。

```
<shortcut duSourceId="product.businessobjects64.shortcut.tomcat-4.0-core"
pathToTarget="[INSTALLDIR]tomcat\bin\tomcat7w.exe">
  <arg id="linkFullPath" value="<full path to shortcut link>" lang="<language list>" />
  <arg id="description" value="<tooltip string>" lang="<language list>" />
</shortcut>
```

例

この例では、[\[Tomcat 管理\]](#) ショートカットの名前を英語とフランス語のインストールで *tomcat(english and french) shortcut1*、ドイツ語のインストールで *tomcat(German) shortcut1* にカスタマイズしています。[\[スタート\]](#) メニューエントリ

にショートカットを *[Company Programs]* という名前で配置します。ツールヒントは英語とフランス語で *tomcat(english and french) shortcut1*、他のすべての言語で *tomcat (all others) shortcut1* にカスタマイズします。

```
<shortcut duSourceId="product.businessobjects64.shortcut.tomcat-4.0-core"
pathToTarget="http://localhost:[TomcatConnectionPort]/manager/html">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs
\tomcat(english and french) shortcut1.lnk" lang="en;fr"/>
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\tomcat
(German) shortcut1.lnk" lang="de"/>
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\tomcat
(all others) shortcut1.lnk" lang="it;zh_cn"/>
  <arg id="description" value="tomcat(english and french) shortcut1"
lang="en;fr"/>
  <arg id="description" value="tomcat (German) shortcut1" lang="de" />
  <arg id="description" value="tomcat (all others) shortcut1"
lang="it;zh_cn" />
</shortcut>
<shortcut duSourceId="product.businessobjects64.shortcut.tomcat-4.0-core"
pathToTarget="[INSTALLDIR]tomcat\bin\tomcat7w.exe">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs
\tomcat(english and french) shortcut2.lnk" lang="en;fr"/>
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\tomcat
(German) shortcut2.lnk" lang="de"/>
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\tomcat
(all others) shortcut2.lnk" lang="it;zh_cn"/>
  <arg id="description" value="tomcat(english and french) shortcut2"
lang="en;fr"/>
  <arg id="description" value="tomcat (German) shortcut2" lang="de" />
  <arg id="description" value="tomcat (all others) shortcut2"
lang="it;zh_cn" />
</shortcut>
```

3.6.2.3 プログラムの追加と削除ユーティリティのカスタマイズ (Windows のみ)

[プログラムの追加と削除] (ARP) ユーティリティでの表示名、発行者、アイコンをカスタマイズできます。バージョン番号はカスタマイズできません。次の要素を使用します。

```
<arp duSourceId="product.businessobjects64.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="<publisher name>"/>
  <arg id="display_name" value="<product name>" lang="<language list>"/>
  <arg id="display_icon" value="<full path to icon>"/>
</arp>
```

Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティに表示されるアイコンは通常 16x16 です。アイコン作成の詳細については Windows のドキュメントを参照してください。

例

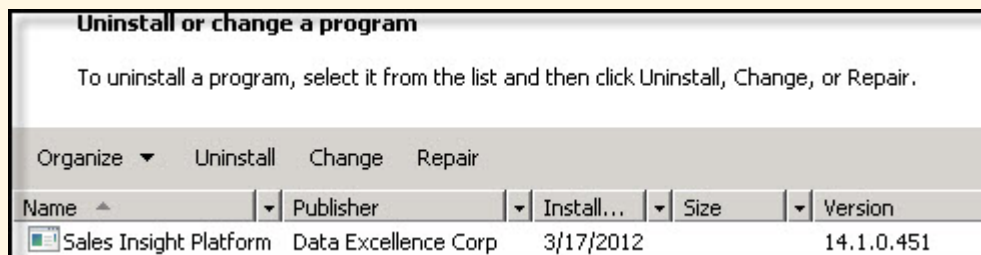
Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティ内の製品名を *Sales Insight Platform* に変更します。この変更は英語のインストールにのみ有効です。発行者を *Data Excellence Corp* に変更します。表示アイコンを *C:\SAPCustomTool\DEC_logo.ico* にあるアイコンに置き換えます。

i 注記

この例を使用するには、DEC_logo.ico アイコンを C:\SAPCustomTool に配置する必要があります。

```
<arp duSourceId="product.businessobjects64.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="Data Excellence Corp"/>
  <arg id="display_name" value="Sales Insight Platform" lang="en"/>
  <arg id="display_icon" value="C:\SAPCustomTool\DEC_logo.ico"/>
</arp>
```

このカスタマイズは次のように表示されます。



3.6.2.4 設定フォルダのカスタマイズ

デフォルトのインストールフォルダをカスタマイズできます。replaceProperty 要素で id="InstallDir" を使用します。

```
<replaceProperty id="InstallDir" defaultValue="<default installation folder>" />
```

Windows インストールおよび Unix インストールの両方でこの要素を使用します。

i 注記

Windows のインストールの場合、デフォルトのインストールフォルダは C:\Program Files (x86) のサブフォルダです。C:\Program Files (x64) のサブフォルダではありません。

例

デフォルトのインストールフォルダを C:\Program Files (x86)\SalesDataInsight に変更します。

```
<replaceProperty id="InstallDir" defaultValue="C:\Program Files
(x86)\SalesDataInsight" />
```

3.6.3 ユーザ入力のカスタマイズ

インストールプログラムで収集されるユーザ入力のデフォルト値をカスタマイズできます。replaceProperty 要素で id="<property id>" を使用して新しいデフォルト値を指定します。

```
<replaceProperty id="<property id>" defaultValue="<value to use as default value>" />
```

プロパティ ID の一覧については、[インストール画面とプロパティ ID \[51 ページ\]](#)を参照してください。

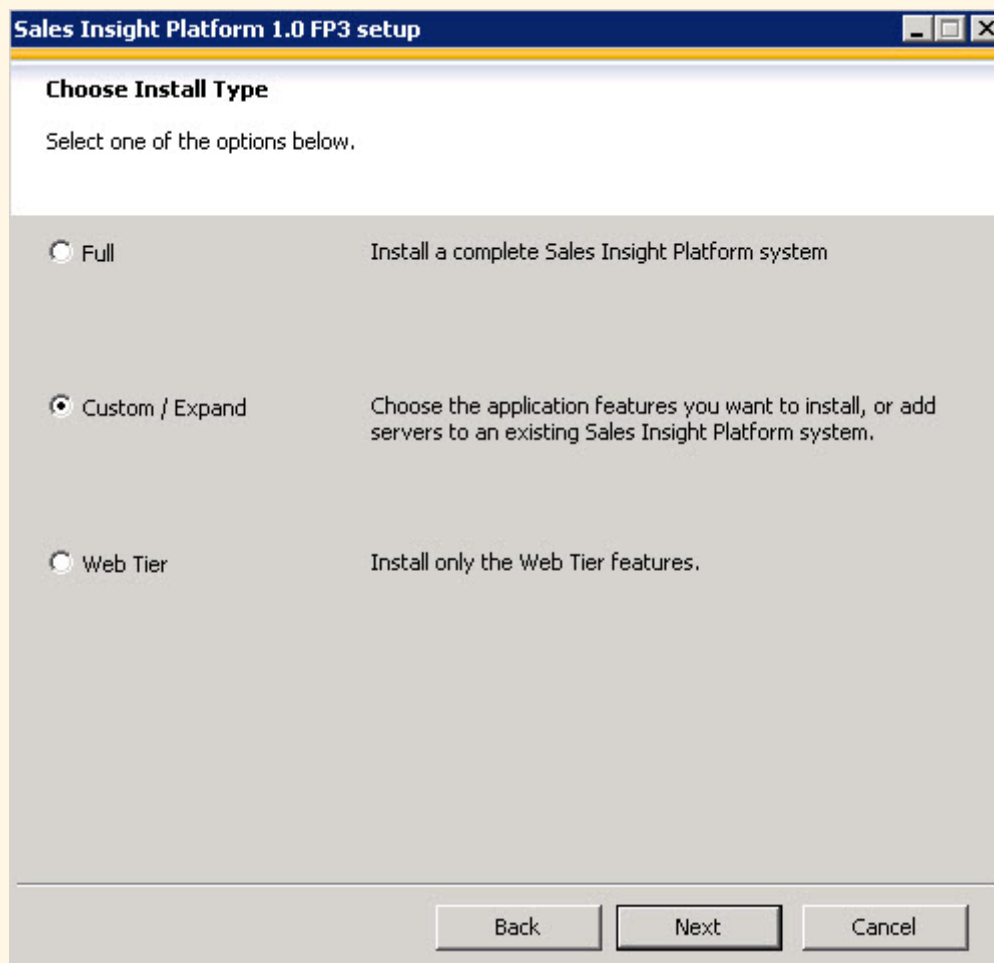
Windows のインストールプログラムは、ダイアログボックス、ラジオボタン、およびその他のユーザインタフェース要素を使用してユーザ入力を収集します。Unix および Linux のインストールプログラムは、コンソール入力を使用してユーザ入力を収集します。どちらのインストールプログラムも同じ方法でカスタマイズできます。

例

インストール画面 [\[インストールタイプの選択\]](#) では、デフォルトのインストールタイプは [\[フル\]](#) です。この例では、デフォルトのインストールタイプを [\[カスタム/拡張\]](#) に変更しています。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom" />
```

このカスタマイズは次のように表示されます。



3.6.4 インストール画面の削除

インストールプログラムからインストール画面を削除することができます。`removeDialog` 要素でインストール画面 ID を使用します。

```
<removeDialog id="<installation screen ID>" />
```

インストール画面 ID の一覧については、[インストール画面とプロパティ ID \[51 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例では、インストール画面 [[Java Web アプリケーションサーバの選択](#)] を削除する方法を示します。

```
<removeDialog id="ChooseWebAppServer.dialog" />
```

3.6.5 キーコードの埋め込み

インストールプログラムにキーコードを埋め込み、ユーザが入力しないですむようにできます。必要な作業は次のとおりです。

- キーコードのデフォルト値の指定
- ユーザがキーコードを入力するインストール画面の削除

例

`replaceProperty` 要素で `id="ProductKey"` を使用してデフォルトのキーコードを指定します。キーコードの形式は `XXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XX` にする必要があります。

`removeDialog` 要素で `id="EnterProductKey.dialog"` を使用して、ライセンスキーを入力するインストール画面を削除します。

```
<replaceProperty id="ProductKey" defaultValue="XXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XX" />
<removeDialog id="EnterProductKey.dialog" />
```

関連情報

[インストール画面とプロパティ ID \[51 ページ\]](#)

[ユーザ入力のカスタマイズ \[29 ページ\]](#)

[インストール画面の削除 \[30 ページ\]](#)

3.6.6 機能の削除

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームは、多くのオプション機能で構成されています。インストールプログラムから機能を削除することができます。removeFeature 要素で id="<feature id>" を使用します。

```
<removeFeature id="<Feature ID>" />
```

機能 ID の一覧については、[機能 ID \[45 ページ\]](#)を参照してください。

機能の削除を指定した場合、SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールは、この機能に属する実行可能機能、インストール画面、ファイルをすべて削除します。不要な機能を削除することは、カスタマイズしたプログラムのサイズを縮小する際に効果的です。

i 注記

すべてのデータベースアクセスコンポーネントは削除しないでください。Connection Server が正しく起動し、機能するために、データベースアクセスコンポーネントを少なくとも 1 つ残しておく必要があります。

例

Crystal Reports 機能を削除します。すべての Crystal Reports サーバ、ファイル、リソースを削除します。

```
<removeFeature id="CrystalReportsServers" />
```

関連情報

[機能 ID \[45 ページ\]](#)

3.6.7 要件の確認の回避

要件とは、ホストマシンに必ず存在している条件で、インストールプログラムを成功させるためのものです。インストールプログラムの開始前にこれらの前提条件の有無が確認され、[\[要件の確認\]](#) 画面に結果が表示されます。[\[要件の確認\]](#) 画面を削除すると、要件の確認は実行されません。removeDialog 要素で id="CheckPreRequisites.dialog" を使用します。

i 注記

要件の確認を他の手段で行う場合は、このインストール画面を削除することをお勧めします。要件が満たされない場合は、インストールプログラムは成功しません。

例

この例では、[\[要件の確認\]](#) 画面を削除し、要件の確認の実行を回避します。

```
<removeDialog id="CheckPreRequisites.dialog" />
```

3.6.8 サポートされていない Red Hat Linux プラットフォームでのインストール

BI プラットフォームインストールプログラムでは、サポートされていないプラットフォームでのインストールはできません。ただし、一部のプラットフォーム (Red Hat クローンなど) はサポートされていませんが、BI プラットフォームインストールを正常にホストできます。事前要件のチェックを削除して、次のタスクを使用してサポートしていないプラットフォーム上で BI プラットフォームインストールを実行できます。

1. setup.sh からリソースのチェックを削除します。
 2. product.seed.xml から事前要件のチェックを削除します。
 3. 選択したプラットフォームで事前要件を満たしているかを手動で確認します。
1. setup.sh ファイルから次のセクションを削除します。このセクションでは、ディレクトリ /etc/redhat-release のリソースの可用性を検証しています。このセクションを削除する必要があります。

```
# Verify that the system has the libraries required to run the setupengine.
# Because the setup engine is 32bit, it requires 32bit libraries, however
# some linux distrobutions do not ship 32bit binaries by default, therefore
# we need to check for glibc-2.12-1.7.el6.i686 or higher on RedHat and libstdc++33-32bi
# on SuSE
osname=`uname -s`
if [ "$osname" = "Linux" ]; then
    if [ -f "/etc/redhat-release" ]; then
        version=`cat /etc/redhat-release | sed 's/.* \([0-9,.*\)] .*/\1/'`
        if [ "$version" = "6.0" ]; then
            glibc=`rpm -qa | grep glibc.*i686 | awk -F- '{ if (NF == 3)
split($2,a,"."); if (((a[1] == 2) && (a[2] >= 12)) || ( a[1] > 2)) glibcFound =
"true"} END { print glibcFound }'`
            if [ "$glibc" = "" ]; then
                requiredLibs="$requiredLibs" glibc-2.12-1.7.el6.i686 or higher."
            fi
        fi
    fi
    if [ -f "/etc/SuSE-release" ]; then
        version=`cat /etc/SuSE-release | grep "VERSION = 11"`
        if [ "$version" != "" ]; then
            libstd=`rpm -q -a | grep libstdc++33-32bit`
            if [ "$libstd" = "" ]; then
                requiredLibs="$requiredLibs libstdc++33-32bit"
            fi
        fi
    fi
    if [ "$requiredLibs" != "" ]; then
        echo "Installation aborted. The following libraries are required to run
the installer:$requiredLibs"
        exit 0
    fi
fi
```

2. dunit/product.businessobjects64-4.0-core-32/product.seed.xml ファイルから次のセクションを削除します。このセクションで、インストール済みのパッチを確認する /etc/redhat-release ファイルを使用しています。このセクションを削除する必要があります。

```
<prerequisite id="CheckPatchLevel"
description="#prerequisite.CheckPatchLevel.description#"
reason="[CheckPatchLevelFailReason]" type="warn">
    <condition property="IsFailedPatchLevelCheck" value="0"/>
</prerequisite>
```


3. カスタマイズ済みのインストールプログラムを実行するオペレーティングシステムがすべての事前要件を満たしていることと、すべての必須ライブラリがインストールされていることを確認します。setup.sh および product.seed.xml から削除されたセクションを参照します。次のマニュアルも参照してください。
 - SAP サポートポータル の SAP BusinessObjects セクションにある製品出荷マトリックス (サポートされているプラットフォーム/PAR) <https://support.sap.com/home.html>
 - Business Intelligence プラットフォームインストールガイド (UNIX) の Red Hat Linux の追加要件を参照してください。

3.6.9 言語パックの削除

ユーザはインストールプログラムでインストールする言語パックを選択できます。言語パックには、インストールされている製品で使用されるすべての文字列の翻訳バージョンが含まれます。インストールプログラムには、可能な限りすべての言語パックがデフォルトで含まれます。組み入れる言語パックを指定することができます。languageIncludeList 要素で言語コードのリストを使用します。

```
<languageIncludeList value="<list of language codes>" />
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[50 ページ\]](#)を参照してください。

i 注記

言語パックはサイズが大きくなります。組み入れる言語パックを少なくすると、インストールプログラムは小さくなります。

例

英語、フランス語、およびドイツ語をインストールプログラムの言語パックに組み入れます。ユーザはインストール時にこのリストから選択できます。

```
<languageIncludeList value="en;fr;de" />
```

3.6.10 WDeploy ツールの実行回避

デフォルト以外の Web アプリケーションサーバをインストールする場合、インストール完了後に WDeploy ツールが実行されます。Windows プラットフォームの WDeploy は GUI ツールで、Unix および Linux プラットフォームではスクリプトです。

この機能はオフにすることができます。replaceProperty 要素で defaultValue="0" を使用します。

例

```
<replaceProperty id="LaunchWDeploy" defaultValue="0" />
```

3.6.11 デフォルトデータベースの削除

デフォルトデータベースはインストールプログラムに含まれ、ユーザはシステムデータベースとして使用することを選択できます。デフォルトデータベースは Sybase SQL Anywhere です。

デフォルトデータベースが不要な場合は、それを削除し、ユーザに別のデータベースを使用してもらうことができます。デフォルトデータベースを削除することは、インストールプログラムのサイズを縮小する際に効果的です。

デフォルトデータベースを削除する

<removeFeature> 要素で id="PlatformServers.IntegratedDB.SQAnywhere" を使用します。インストール画面 [デフォルトデータベースまたは既存のデータベースの選択] を削除し、ユーザ入力プロパティを [既存のデータベースの使用] に設定することをお勧めします。



例

この例では、デフォルトデータベースを削除します。さらに、インストール画面 [デフォルトデータベースまたは既存データベースの選択] を削除し、ユーザ入力プロパティを [既存のデータベースの使用] に設定します。

```
<removeFeature id="PlatformServers.IntegratedDB.SQAnywhere"/>
<removeDialog id="SelectDataSource.dialog"/>
<replaceProperty id="SelectIntegratedDatabase" defaultValue="0"/>
```

3.6.12 リソースの変更

インストールプログラムは、画像ファイルおよびテキストファイルをリソースとして次のフォルダに保存します。

\dunit\product.businessobjects64-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources

このフォルダのリソースをカスタマイズできます。次のリソースはよくカスタマイズされます。

- インストールプログラム内の画像
- インストールプログラム内の使用許諾契約

リソースは次の方法でカスタマイズします。

1. カスタムリソースフォルダを作成します。たとえば、Windows では、C:\SAPCustomTool\MyResources です。このファイルは任意の名前を持てますが、ユーザに表示されます。カスタマイズするすべてのリソースを同じフォルダに使用します。
2. 元のリソースと同じ名前とファイルパスで新しいリソースを作成し、それをカスタムリソースフォルダに配置します。具体例については、関連項目を参照してください。
3. 設定ファイルに <resources> 要素を追加し、カスタムリソースフォルダの場所を指定します。たとえば、次のようにします。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\SAPCustomTool\MyResources"/>
```

cleanTarget

属性 `cleanTarget='yes'` と設定すると、カスタマイゼーションツールはオリジナルの `resources` フォルダを削除し、カスタムリソースフォルダ内のリソースのみを使用します。このオプションはお勧めできません。

関連情報

[インストールプログラム内の画像のカスタマイズ \[35 ページ\]](#)

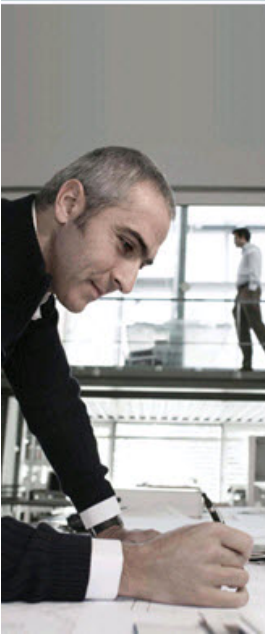

[使用許諾契約のカスタマイズ \[36 ページ\]](#)


3.6.12.1 インストールプログラム内の画像のカスタマイズ

[ようこそ] 画面、すべての画面の上部の画像、進捗ダイアログのビルボードなど、インストールプログラムの画像をカスタマイズできます。画像は `resources` フォルダにファイルとして保存されます。

`dunit\product.businessobjects64-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources`

表 6:resources フォルダの画像ファイル

| 画像名 | ファイル名 | サイズ (横 x 縦) | デフォルトの画像 |
|------------------|----------------|--------------|--|
| [ようこそ] 画面 | dialogFull.bmp | 500 x 400 px |  |
| すべての画面の 上部の画像 | dialogTop.bmp | 500 x 83 px |  |

| 画像名 | ファイル名 | サイズ (横 x 縦) | デフォルトの画像 |
|---------------|---------------|--------------|--|
| 進捗ダイアログのビルボード | billboard.bmp | 500 x 193 px |  |

画像をカスタマイズするには、新しい画像ファイルを作成し、カスタムリソースフォルダにファイルを配置し、設定ファイルに `resources` 要素を追加します。



例

Windows プラットフォームの [ようこそ] 画面の画像のカスタマイズ

1. `C:\SAPCustomTool` に `MyResources` フォルダを作成します。
2. 新しい画像ファイル `dialogFull.bmp` を作成し、`C:\SAPCustomTool\MyResources` フォルダに配置します。
3. 設定ファイルに次のような `resources` 要素があることを確認します。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\SAPCustomTool\MyResources"/>
```

関連情報

[リソースの変更 \[34 ページ\]](#)

3.6.12.2 使用許諾契約のカスタマイズ

インストール中にユーザに表示される使用許諾契約をカスタマイズできます。使用許諾契約は `resources` フォルダにテキストファイルとして保存されます。

```
dunit\product.businessobjects64-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\<language code>
```

たとえば、Windows プラットフォームでは、英語の使用許諾契約は次の場所にあります。

```
dunit\product.businessobjects64-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\en\license_en.rft
```

Unix および Linux プラットフォームでは、英語の使用許諾契約は次の場所にあります。

```
dunit/product.businessobjects64-4.0-core-32/setup.ui.framework/resources/en/license_en.txt
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[50 ページ\]](#)を参照してください。

使用許諾契約をカスタマイズするには、新しい使用許諾ファイルを作成し、カスタムリソースフォルダにファイルを配置し、設定ファイルに `resources` 要素を追加します。



Windows プラットフォームでの日本語の使用許諾契約のカスタマイズ

日本語の使用許諾契約は次の場所にあります。

```
dunit\product.businessobjects64-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\ja  
\license_ja.rtf
```

日本語の使用許諾契約をカスタマイズするには次を実行します。

1. `C:\SAPCustomTool\MyResources` に `ja` フォルダを作成します。
2. 新しい使用許諾契約ファイル `license_ja.rtf` を作成し、`C:\SAPCustomTool\MyResources\ja` に配置します。
3. 設定ファイルに次のような `resources` 要素があることを確認します。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\SAPCustomTool\MyResources"/>
```

関連情報

[リソースの変更 \[34 ページ\]](#)

3.6.13 Collaterals フォルダのアイテムの削除

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム インストールプログラムは、ツール、サンプル、およびドキュメントをインストールプログラムの `Collaterals` フォルダに保存します。デフォルトでは、カスタマイズされたインストールプログラムは、デフォルトの `Collaterals` フォルダにデフォルトのコンテンツを保持します。カスタマイズしたインストールプログラムプログラムのサイズを削減するため、`Collaterals` フォルダから不要なアイテムを削除できます。`collaterals` 要素で `cleanTarget="yes"` および `sourcePath="<full path to custom Collaterals folder>"` を使用します。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="<full path to custom Collaterals  
folder>"/>
```

i 注記

カスタマイゼーションツールがオリジナルフォルダを新しいフォルダに置き換えるためには、`cleanTarget` 属性を `yes` に設定する必要があります。

Collaterals フォルダからアイテムを削除する

1. 既存の Collaterals フォルダのコンテンツを新しい場所、たとえば C:\SAPCustomTool\Utilities (Windows) にコピーします。
2. カスタマイズしたインストールプログラムで不要な任意のアイテムを C:\SAPCustomTool\Utilities から削除します。詳細については、下記を参照してください。
3. 設定ファイルに <collaterals> 要素を追加し、カスタム Collaterals フォルダの場所を指定します。たとえば、次のようになります。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="C:\SAPCustomTool\Utilities"/>
```

表 7:Collaterals フォルダ内のアイテムの説明

| フォルダ | 説明 | 削除ケース |
|---|---|---|
| Collaterals > Add-Ons > SAP | SAP システムとの接続を提供します。 | SAP システムへの接続が必要でない場合に削除します。 |
| Collaterals > Add-Ons > Subversion | Subversion は、ライフサイクルマネジメント (LCM) で使用されるデフォルトバージョンのコントロールシステムです。 | LCM 機能が削除されている場合に削除します。 |
| Collaterals > Add-Ons > Tivoli Agent | サーバ監視機能は、IBM Tivoli と統合可能で、このアイテムが接続を提供します。 | IBM Tivoli との統合が必要ではない場合に削除します。 |
| Collaterals > Customization Template | 必要なテンプレートファイルです。 | このフォルダを削除しないでください。 |
| Collaterals > DiagnosticsAgent7.3 | SAP Solution Manager Diagnostics (SMD) エージェントです。SMD は、インストールされている製品のトラブルシューティングで SAP サポートツールが使用します。 | SMD 機能が削除されている場合に削除します。 |
| Collaterals > Docs | SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームでサポートされる各言語のドキュメントです。 | カスタマイズしたインストールプログラムに含まれていない任意の言語を削除します。言語コードの一覧については、 言語コード [50 ページ] を参照してください。 |
| Collaterals > Tools > CustomizationTool | SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールです。 | インストールプログラムをカスタマイズする必要がない場合は、このフォルダを削除します。 |
| Collaterals > Tools > LCM command line tool | ライフサイクルマネジメント (LCM) のコマンドラインユーティリティです。 | LCM 機能が削除されている場合に削除します。 |
| Collaterals > Tools > wdeploy | WDeploy は、Tomcat 以外の Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションをデプロイするときに使用します。 | 削除はおすすめしません。ユーザが Tomcat のみを使用する場合に限り削除します。 |

3.7 ツールの実行

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールは、次の場所にある SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールパッケージに付属しています。

Collaterals\Tools\CustomizationTool

Windows プラットフォームでは、このツールは customizationtool.exe です。Unix および Linux プラットフォームでは、このツールは customizationtool.sh です。

この節では、コマンドラインパラメータについて説明します。

注記

カスタマイゼーションツールの完了には数分かかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

例

この例では、Windows プラットフォームでカスタマイゼーションツールを実行しています。この例を使用するには、次の処理を実行する必要があります。

- C:\SAPCustomTool に、設定ファイル oem.xml を作成します。
- SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールパッケージを C:\SAPCustomTool\packages フォルダにダウンロードします。[サーバインストールプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#)を参照してください。
- C:\SAPCustomTool に output フォルダを作成します。

```
C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool
\customizationtool.exe
xml=C:\SAPCustomTool\oem.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:
\SAPCustomTool\output
logDetail=error > C:\oemlog.log
```

3.7.1 コマンドラインパラメータ

表 8: 必須パラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 (Windows) |
|------------|--|---|
| xml | 設定ファイルへの完全パス | xml=example_customization_win_b oe.xml |
| packageDir | 変更するインストールプログラムを含むフォルダへの完全パスです。 インストールパッケージは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのインストールを開始するために SAP Service Marketplace からダウンロードされます。それには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。 | packageDir=C:\SAPCustomTool \packages |
| outputDir | カスタマイズしたインストールプログラムが作成されるフォルダへの完全パスです。ツール実行前は空である必要があります。 | outputDir=C:\SAPCustomTool \output |

表 9:オプションパラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 (Windows) |
|--------------|--|--|
| baselinePath | <p>カスタマイズした以前の完全インストールプログラムまたはアップデートインストールプログラムのすべてに関するオリジナルのカスタマイズされていないバージョンを含むルートフォルダの完全パス。</p> <p>Windows の場合はセミコロン (;)、Unix の場合はコロン (:) を使用して、複数のルートフォルダを区切ります。</p> | <p>SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 サポートパッケージ 5 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 4.0 SP2 (完全インストール)、4.0 SP4 をすでにカスタマイズしているとします。この場合、4.0 サポートパッケージ 5 をカスタマイズし、4.0 SP2 完全インストールおよび SP4 アップデートインストールのカスタマイズされていないパッケージのルートフォルダパスを指定します。たとえば、カスタマイズされていないパッケージが次のディレクトリ構造内にあるとします。</p> <pre>C:\productUpdates\4.0\ \SP2 Full\ \SP4\</pre> <p>この場合、値を baselinePath=C:\productUpdates\4.0\ に設定します。</p> <p>baselinePath パラメータの詳細および例については、アップデートインストールプログラムのカスタマイズ [41 ページ]を参照してください。</p> |
| logDetail | <p>ロギングレベルの詳細です。デフォルト値は info です。設定可能な値は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> error warn info debug trace | logDetail=warn |
| action | <p>ツールモード。指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> generate (デフォルト値) ツールは指定したカスタマイズを実行します。 validate ツールは設定ファイルを検証しますが、カスタマイズは実行しません。 | action=validate |

関連情報

[Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート \(Windows\) \[15 ページ\]](#)

[Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート \(Unix または Linux\) \[16 ページ\]](#)

3.8 アップデートインストールプログラムのカスタマイズ

アップデートインストールプログラムとは、既存の BI プラットフォームソフトウェアに対するアップデートを含むマイナーリリース、サポートパッケージまたはパッチのことです。サポートパッケージはパッチより多くの更新が含まれますが、更新頻度は少なくなります。SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを使用してこれらのアップデートインストールプログラムをカスタマイズできますが、コマンドラインおよび設定ファイルの修正が必要になります。

3.8.1 アップデートインストールプログラムに関するよくある質問

サポートパッケージとパッチの入手場所

1. <https://support.sap.com/home.html> > [Software Downloads] に移動します。
2. ソフトウェアの検索タブで A-Z Index の下の Support Packages and Patches をクリックします。
3. B > SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) > SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) > SBOP BI PLATFORM 4.1 > Comprised Software Component Versions > SBOP BI PLATFORM SERVERS 4.1 > <プラットフォーム>を選択します。
4. サポートパッケージまたはパッチを選択し、Web サイトの説明に従ってオブジェクトをダウンロードおよび抽出します。

カスタマイズできるのはアップデートインストールプログラムのどの部分ですか。

アップデートインストールプログラムにもメインインストールプログラムでのカスタマイズと同様のカスタマイズを行うことができます。マイナーリリース、サポートパッケージおよびパッチアップデートにあるインストール画面の数が少ないため、すべてのカスタマイズ手順を適用できるわけではありません。必要なカスタマイズを判断するため、マイナーリリース、サポートパッケージまたはパッチをカスタマイズする前にそれらを実行することをお勧めします。

アップデートインストールプログラムはどのようにカスタマイズできますか。

アップデートインストールプログラムは BI プラットフォーム (完全インストール) のメインインストールプログラムと同じアーキテクチャを使用しているため、コマンドラインと設定ファイルを一部変更することで、[設定ファイルの作成 \[20 ページ\]](#) および [ツールの実行 \[38 ページ\]](#) に記載されているようにカスタマイズツールを使用できます。この節の [アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 \[43 ページ\]](#) を参照してください。

すべてのマイナーリリース、サポートパッケージおよびパッチアップデートのカスタマイズとインストールが必要です。

いいえ。カスタマイズされていない BI プラットフォームと同様、必要な更新のみをインストールする必要があります。これはマイナーリリース、サポートパッケージ、パッチ、またはこの 3 種類のアップデートの有効な任意の組み合わせのいずれかとなります。

BI プラットフォームのカスタマイズされたインストールに対してカスタマイズされていないアップデートをインストールできますか。

はい。カスタマイズされたアップデートでもカスタマイズされていないアップデートでも、現在のカスタマイズされたインストールに適用できます。ただし、カスタマイズされていないマイナーリリース、サポートパッケージまたはパッチのインストールプログラムでは、メインインストールプログラムに対して作成したブランドやインストールのカスタマイズ（削除された機能やショートカットの変更など）が表示されません。

BI プラットフォームのカスタマイズされたバージョンをお客様に配布していますが、アップデートインストールプログラムのカスタマイズを変更したいと思います。これは可能でしょうか。

このシナリオはサポートされていません。アップデートインストールプログラムに対して行ったカスタマイズは、オリジナルのカスタマイズと整合する必要があります。

3.8.2 アップデートインストールプログラムのクイックスタート

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサポートパッケージ 4 (完全インストール) などのメインインストールプログラムを [Business Intelligence プラットフォームのクイックスタート \(Windows\) \[15 ページ\]](#) の説明に従ってカスタマイズおよびインストールし、カスタマイズされていないインストールプログラムが C:\SAPCustomTool\packages にあることを確認します。

この節では、SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを実行して、サポートパッケージ（アップデートインストール）のインストールプログラムをカスタマイズする方法を説明します。カスタマイゼーションツールに付属するサンプル設定ファイルを使用します。サンプル設定ファイルに、メインインストールプログラムの <cloneProduct> 要素、サポートパッケージのアップデートインストールプログラムの <clonePatchProduct> 要素があることを確認します。

i 注記

この例は、サポートパッケージが <https://support.sap.com/home.html> で利用できる場合にのみ実行できます。

1. BI プラットフォーム 4.0 サポートパッケージのインストールプログラムを C:\SAPCustomTool\SupportPackage にダウンロードします。
2. 設定ファイルの <clonePatchProduct> 要素の product_version が、ダウンロードしたサポートパッケージのバージョン番号と一致することを確認します。製品名とバージョン番号のカスタマイズ [21 ページ] を参照してください。

- BI プラットフォーム 4.0 サポートパッケージをカスタマイズし、カスタマイズされたインストールプログラムを C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage に配置します。次のコマンドを実行します。

```
customizationtool.exe xml=example_customization_win_boe.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\SupportPackage baselinePath=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage logDetail=error > C:\oemlog_SP04.log
```
- C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage\setup.exe を使用して、BI プラットフォーム 4.0 サポートパッケージのカスタマイズされたインストールプログラムを実行します。

3.8.3 アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法

設定ファイルの作成 [20 ページ] およびツールの実行 [38 ページ] に記載の設定ツールを使用して、以下の相違点を踏まえて、マイナーリリース、サポートパッケージおよびパッチのアップデートインストールプログラムをカスタマイズします。

- 設定ファイルには、cloneProduct 要素ではなく、正しい製品 ID の clonePatchProduct 要素が必要です。
- 設定ファイルには、更新するメインインストールパッケージをカスタマイズするときに使用される、完全な元の <cloneProduct> 要素が、変更されずに含まれている必要があります。特にカスタマイズで機能を削除する場合には、予期しない結果が発生する可能性があるため、<cloneProduct> 要素の機能は追加または削除しないでください。
- 設定ファイルには複数の clonePatchProduct を含めることができません。たとえば、サポートパッケージとパッチの両方をカスタマイズする場合、2 つの設定ファイル (サポートパッケージの cloneProduct と clonePatchProduct がある設定ファイルと、パッチの cloneProduct と clonePatchProduct がある設定ファイル) を作成する必要があります。
- baselinePackages コマンドを使用して、すべての要件インストールプログラムを参照してください。

すべての設定ファイル要素およびコマンドラインパラメータをアップデートインストールプログラムのカスタマイズに使用できますが、それらすべてがマイナーリリース、サポートパッケージまたはパッチのすべてに適用されるわけではありません。最初にアップデートのインストールプログラムを実行してカスタマイズする箇所を判断し、設定ファイルの作成 [20 ページ] および BI プラットフォームカスタマイゼーションの ID およびコード [45 ページ] に記載の情報を使用してカスタマイゼーションファイルを作成します。

設定ファイルで製品バージョンを指定する

サポートパッケージおよびパッチの設定ファイルには、次のように clonePatchProduct 要素に製品バージョンを含める必要があります。

```
<oem name="<any name>">
  <clonePatchProduct sourceId="<product version>">
    ...
  </clonePatchProduct>
</oem>
```

設定ファイルの product version は、カスタマイズするインストールプログラムのバージョン番号と一致している必要があります。バージョン番号を参照するには、dunit フォルダで次の形式の名前のフォルダを検索します。

product.boe64.patch-4.x.x.x-core-32

このフォルダの名前を product version に使用します。

例

この設定ファイルの例では、製品バージョンが `product.boe64.patch-4.1.0.1-core-32` の SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 パッチ 1 をカスタマイズしています。この設定ファイルでは、製品ロング名を *Custom Company Server*、製品ショート名を *Custom CS* にカスタマイズしています。

```
<oem name="Custom Patch Tool">
  <clonePatchProduct sourceId="product.boe64.patch-4.1.0.1-core-32">
    ...
  </clonePatchProduct>
</oem>
```

baselinePath パラメータを使用する

コマンドラインパラメータの `baselinePath` を使用して、カスタマイズした以前の完全インストールプログラムまたはアップデートインストールプログラムのすべてに関するオリジナルのカスタマイズされていないバージョンを含むルートフォルダのパスを指定します。そのため、オリジナルのインストールパッケージを保管する必要があります。

注記

このパラメータは、4.0 Feature Pack 3 で導入された `baselinePackages` パラメータに置き換わるものです。

`baselinePath` パラメータの値を単純化するために、1つのルートフォルダのパスを指定します。この場合、カスタマイゼーションツールでは不要なファイルとフォルダが無視されます。または、`baselinePath` の値で Windows の場合はセミコロン (;)、Unix の場合はコロン (:) を使用して、複数のルートフォルダを指定します。Windows での次の例を考えてみます。

例

4.0 SP5 Patch 2 のカスタマイズ

BI プラットフォーム 4.0 サポートパッケージ 5 パッチ 2 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 4.0 SP2 (完全インストール)、4.0 SP4、4.0 SP5、4.0 SP5 Patch 1 をすでにカスタマイズしているとします。また、カスタマイズされていないインストールプログラムが次のディレクトリ構造内にあるとします。

```
C:\productUpdates\4.0\
  \SP2 Full\
  \SP4\
  \SP5\
  \SP5 Patch 1\
```

`baselinePath` パラメータをルートフォルダに設定します。

`baselinePath=C:\productUpdates\4.0\`



例

4.1 SP 1 のカスタマイズ

BI プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 1 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 4.0 SP2（完全インストール）、4.0 SP4、4.0 SP5、4.1 をすでにカスタマイズしているとします。また、カスタマイズされていないインストールプログラムが次のディレクトリ構造内にあるとします。

```
C:\productUpdates\
  \4.0\
    \SP2 Full\
    \SP4\
    \SP5\
  \4.1\
    \Full\
```

baselinePath パラメータをルートフォルダに設定します。

```
baselinePath=C:\productUpdates\
```

3.9 BI プラットフォームカスタマイゼーションの ID およびコード

次の節には、インストールプログラムのカスタマイズに使用できるすべての ID とコードの一覧があります。

- 機能 ID
- ショートカットデプロイメントユニット ID (Windows のみ)
- 文字列 ID
- 言語コード
- インストール画面とプロパティ ID

3.9.1 機能 ID

removeFeature 要素でこれらの ID を使用して、機能およびそのコンポーネントをインストールプログラムおよびインストールされている製品から削除します。

たとえば、次の ID は、JavaWebApps1 や IntegratedTomcat を含むすべての Web Tier コンポーネントを削除します。

```
<removeFeature id="WebTier"/>
```

- ○ root: (すべての機能の削除)
 - WebTier: (以下のすべての Web Tier コンポーネントの削除)
 - JavaWebApps1 Java Web アプリケーション
 - IntegratedTomcat (バンドルされている Tomcat Web アプリケーションサーバのインストール)

i 注記

Web Tier 機能を削除すると、Web Tier コンポーネントがインストールプログラムから削除されます。ただし、**WebTier** ラジオボタンはインストールタイプの選択画面に表示されたままです。つまり、ユーザに

は、フル、カスタム/拡張、および Web Tier の 3 つのラジオボタンが表示されたままになります。これは既知の問題で、修正予定です。

- Servers: (以下のすべてのサーバコンポーネントの削除)
 - PlatformServers: (以下のすべてのプラットフォームサーバの削除)
 - CMS (Central Management Server)
 - FRS (File Repository Servers)
 - PlatformServers.IntegratedDB.SQAnywhere (バンドルされた Sybase SQL Anywhere データベースサーバの削除)
 - PlatformServers.EventServer
 - PlatformServers.WebAppContainerService (WACS)
 - AdaptiveProcessingServer (プラットフォーム処理)
 - AdaptiveJobServer (スケジュール)
 - Platform.RestWebService
 - Platform.Action.Framework.backend:(Insight to Action フレームワーク)
 - Subversion (Subversion バージョン管理システム)
 - ConnectionServices: (以下のすべての接続コンポーネントの削除)
 - ConnectionProcService
 - DataFederatorServices: (以下のすべてのデータフェデレーションコンポーネントの削除)
 - DataFederatorQueryService
 - AdvancedAnalysisServices: * 以下のすべての Analysis コンポーネントの削除
 - MultidimensionalAnalysisServices (MDAS)
 - BExWebApplicationsService
 - CrystalReportsServers: (以下のすべての SAP Crystal Reports コンポーネントの削除)
 - CrystalReportsProcServices (SAP Crystal Reports 処理)
 - CrystalReportSchedulingServices
 - CrystalReport2011ProcServices (SAP Crystal Reports 2011 スケジュール)
 - CrystalReport2011SchedulingServices (SAP Crystal Reports 2011 スケジュール)
 - WebIServers: (以下のすべての Web Intelligence コンポーネントの削除)
 - WebIProcServer (Web Intelligence 処理)
 - WebISchedulingServices (Web Intelligence スケジュール)
 - XcelsiusServers (ダッシュボード)
 - MobileServices
 - MobileServers
 - MobileAddon (Mobile 用 CMS プラグイン)
 - IntegrationServers: (以下のすべての統合コンポーネントの削除)
 - BWPublisherServer (SAP BW 認証および SAP BW Publisher のサポート)
- MultitenancyManager
- AdministratorTools: (以下のすべての管理者ツールの削除)
 - UpgradeManager (アップグレードマネジメントツール)
- DeveloperTools: (以下のすべての開発ツールコンポーネントの削除)
 - BOE64bitNETSDK (64 ビット SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム .NET SDK)

- DataAccess (以下のすべてのデータベースアクセスコンポーネントの削除)

i 注記

すべてのデータベースアクセスコンポーネントは削除しないでください。Connection Server が正しく起動し、機能するために、データベースアクセスコンポーネントを少なくとも 1 つ残しておく必要があります。

- DataAccess.DataFederator
- DataAccess.HPNeoView
- DataAccess.MySQL
- DataAccess.GenericJDBC
- DataAccess.GenericODBC
- DataAccess.GenericOLEDB
- DataAccess.OptionalDataDirectODBC
- DataAccess.MaxDB
- DataAccess.SAPHANA
- DataAccess.Salesforce (Salesforce.com)
- DataAccess.Netezza
- DataAccess.Microsoft_AnalyticalServices
- DataAccess.MicrosoftExchange
- DataAccess.MicrosoftOutlook
- DataAccess.Microsoft_SQLServer
- DataAccess.Microsoft_Access
- DataAccess.Ingres
- DataAccess.Greenplum
- DataAccess.IBMDB2
- DataAccess.Informix
- DataAccess.ProgressOpenEdge
- DataAccess.Oracle
- DataAccess.Sybase
- DataAccess.Teradata
- DataAccess.SAPBW
- DataAccess.SAPERP
- DataAccess.XMLWebServices
- DataAccess.OData
- DataAccess.Excel
- DataAccess.SAP (SAP BW および R/3 システムのセキュリティとデータアクセス)
- DataAccess.PersonalFiles
- DataAccess.JavaBean
- DataAccess.OpenConnectivity
- DataAccess.HSQLDB
- DataAccess.Derby
- DataAccess.HadoopHive
- DataAccess.Essbase

- `DataAccess.Peoplesoft` (PeopleSoft Enterprise)
- `DataAccess.JDEdwards` (JD Edwards EnterpriseOne)
- `DataAccess.Siebel` (Siebel Enterprise サーバ)
- `DataAccess.OracleEBS` (Oracle E-Business Suite)
- `DataAccess.Universe` (SAP BusinessObjects ユニバース)
- `DataAccess.MyCube` (OLAP キューブ)
- `DataAccess.XML`
- `DataAccess.ADO.NET`
- `DataAccess.COMData`
- `DataAccess.DataSet` (データセットコンシューマ)
- `DataAccess.SymantecACT`
- `DataAccess.BDE` (IDAPI データベース DLL)
- `DataAccess.CDO` (Crystal データオブジェクト)
- `DataAccess.FieldDefinitions`
- `DataAccess.FileSystem`
- `DataAccess.NTEventLog`
- `DataAccess.WebActivityLog`
- `DataAccess.Btrieve` (一般的なデータベースドライバ)
- `DataAccess.dBase`
- `DataAccess.UWSC` (ユニバーサル Web サービスコネクタ (UWSC))
- Samples: (サンプルレポートとデータソースの削除)

関連情報

[機能の削除 \[31 ページ\]](#)

3.9.2 ショートカットデプロイメントユニット ID (Windows のみ)

`shortcut` 要素でデプロイメントユニット ID を使用して、Windows の [\[スタート\]](#) メニューに表示されるプログラムショートカットの場所と名前を変更します。

表 10: ショートカットデプロイメントユニット ID

| ショートカットデプロイメントユニット ID | ショートカットターゲット |
|--|--------------|
| <code>product.businessobjects64.shortcut.wdeploy-4.0-core</code> | WDeploy |
| <code>product.businessobjects64.shortcut.ccm-4.0-core</code> | セントラル設定マネージャ |
| <code>product.businessobjects64.shortcut.cmc-4.0-core</code> | セントラル管理コンソール |

| ショートカットデプロイメントユニット ID | ショートカットターゲット |
|---|----------------------|
| product.businessobjects64.shortcut.infoview-4.0-core | BI 起動パッド (InfoView) |
| product.businessobjects64.shortcut.odbc-4.0-core | 32 ビットデータソース管理者 |
| product.businessobjects64.shortcut.onlinedoc-4.0-core | オンラインマニュアル |
| product.businessobjects64.shortcut.tomcat-4.0-core | Apache Tomcat。 |
| product.businessobjects64.shortcut.upgrade-4.0-core | アップグレードマネジメントツール |
| product.businessobjects64.shortcut.wacs.infoview-4.0-core | InfoView に保存された WACS |
| product.businessobjects64.shortcut.wacs-4.0-core | Web アプリケーションコンテナサーバ |

関連情報

[Windows の \[スタート\] メニューのショートカットのカスタマイズ \(Windows のみ\) \[24 ページ\]](#)

3.9.3 文字列 ID

インストールプログラムのすべての文字列の値を変更できます。すべての言語および特定の言語に対して文字列を置き換えることができます。たとえば、`replaceString` 要素を使用して、次のように設定します。

```
<replaceString id="productname" value="Sales Data Insight lang="all"/>
```

表 11:よく変更される文字列

| 文字列 ID | 説明 |
|-------------------------|--------------|
| product.boe64_name | 製品のロング名 |
| product.boe64_shortname | 製品のショート名 |
| product_version | 製品のバージョン |
| product_majorversion | 製品のメジャーバージョン |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[21 ページ\]](#)

3.9.4 言語コード

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールでは、これらの言語コードを使用して、次のサポートされている言語を表します。

表 12:

| language | コード |
|-----------------|-------|
| 英語 | EN |
| チェコ語 | CS |
| デンマーク語 | DA |
| オランダ語 | NL |
| フィンランド語 | FI |
| フランス語 | FR |
| ドイツ語 | DE |
| ハンガリー語 | HU |
| イタリア語 | IT |
| 日本語 | JA |
| 韓国語 | KO |
| ノルウェー語 (ブークモール) | NB |
| ポーランド語 | PL |
| ポルトガル語 | PT |
| ルーマニア語 | RO |
| ロシア語 | RU |
| 簡体字中国語 | zh_CN |
| スロバキア語 | SK |
| スペイン語 | ES |
| スウェーデン語 | SV |
| タイ語 | TH |
| 繁体字中国語 | zh_TW |
| トルコ語 | TR |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[21 ページ\]](#)

[Windows の \[スタート\] メニューのショートカットのカスタマイズ \(Windows のみ\) \[24 ページ\]](#)

[プログラムの追加と削除ユーティリティのカスタマイズ \(Windows のみ\) \[27 ページ\]](#)

[言語パックの削除 \[33 ページ\]](#)

[使用許諾契約のカスタマイズ \[36 ページ\]](#)

3.9.5 インストール画面とプロパティ ID

インストールプログラムから画面を削除するには、removeDialog 要素でインストール画面 ID を使用します。たとえば、この要素を使用して [ユーザ情報](#) 画面を削除するには、次のようにします。

```
<removeDialog id="EnterProductKey.dialog"/>
```

ユーザ入力を事前に入力するには、プロパティおよびプロパティ値を使用します。たとえば、この要素を使用して、デフォルトのインストールタイプを [\[custom\]](#) に設定するには、次のようにします。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
```

i 注記

プロパティ値では、大文字と小文字が区別されます。

表 13: インストール画面 ID と関連プロパティ

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|------------------|-----------------------------|-------------------------------|--|
| 前提条件のチェック | CheckPreRequisites.dialog | 適用外 | 適用外 |
| インストーラ言語の選択 | SelectUILanguage.dialog | SortedAvailableSetupLanguages | インストールプログラムが実行される言語コードセットです。たとえば、"en;ja" です。 |
| | | SetupUILanguage | インストールプログラムが実行される言語を示す単一の言語コードです。たとえば、"en" です。 |
| インストールウィザードへようこそ | ShowWelcomeScreen.dialog | 適用外 | 適用外 |
| 使用許諾契約 | ShowLicenseAgreement.dialog | 適用外 | 適用外 |
| 製品登録の設定 | EnterProductKey.dialog | RegisteredUser | ユーザー名 |
| | | RegisteredCompany | 会社名 |
| | | ProductKey | 製品キーコード |
| 言語パッケージの選択 | SelectLanguagePack.dialog | SelectedLanguagePacks | インストールする言語パックのセットです。たとえば、"en;ja" です。言語コードの一覧については、 言語コード [50 ページ] を参照してください。 |
| インストールタイプの選択 | ChooseInstallType.dialog | InstallType | <ul style="list-style-type: none">default (フル)customwebtier |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|-------------------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|
| インストールフォルダの設定 | ChooseInstallDir.dialog | InstallDir | インストールフォルダ |
| デフォルトデータベースまたは既存データベースの選択 | SelectDataSource.dialog | SelectIntegratedDatabase | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースを使用) 1 (デフォルトデータベースをインストールして使用) |
| 拡張インストール | ExpandInstallMessage.dialog | 適用外 | 適用外 |
| Java Web アプリケーションサーバの選択 | ChooseWebAppServer.dialog | WebAppServerType | <ul style="list-style-type: none"> tomcat manual wacs |
| 機能の選択 | SelectFeatures.dialog | 適用外 | 適用外 |
| バージョン管理の選択 | SelectLCM.dialog | NewOrExistingLCM | <ul style="list-style-type: none"> existing new |
| 新規または拡張インストールの選択 | ChooseExpandInstall.dialog | NewOrExpandInstall | <ul style="list-style-type: none"> new expand |
| Subversion の設定 | SetLCMConfig.dialog | LCMName | リポジトリ名 |
| | | LCMPort | リポジトリのポート |
| | | LCMUserName | リポジトリのユーザ |
| | | LCMPassword | リポジトリのパスワード |
| | | LCMPasswordConfirm | パスワードの確認 |
| Server Intelligence Agent (SIA) の設定 | GetSIAInfo.dialog | SIAPort | SIA ポート |
| | | SIAName | ノード名 |
| Central Management Server (CMS) の設定 | GetCMSInfo.dialog | CMSPort | 任意の有効なポート番号 |
| CMS アカウントの設定 | GetCMSPassword.dialog | CMSPassword | CMS パスワード |
| | | CMSPasswordConfirm | CMS パスワード |
| | | ClusterKey | CMS クラスタキー |
| | | ClusterKeyConfirm | CMS クラスタキー |
| Sybase SQL Anywhere の設定 | GetSQLAnywhereInfo.dialog | SQLAnywhereServerName | SQL Anywhere サーバ名 (Unix および Linux のみ) |
| | | SQLAnywherePort | SQL Anywhere のポート |
| | | SQLAnywhereAdminPassword | SQL Anywhere 管理者パスワード (ユーザ名は dba) |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|---|--|--------------------------------|--|
| サーバの自動開始の選択 | ChooseToEnableServers.dialog | EnableServers | <ul style="list-style-type: none"> 0 (インストール時にサーバを停止) 1 (インストール時にサーバを起動) |
| Tomcat の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ShowTomcatInfo.dialog GetTomcatInfo.dialog <p>[Tomcat の設定] 画面を削除するには、両方のダイアログ ID を設定ファイルに含める必要があります。つまり、2 つの removeDialog 要素を設定ファイルに含める必要があります。</p> | TomcatConnectionPort | 接続ポート |
| | | TomcatShutdownPort | ポートのシャットダウン |
| | | TomcatRedirectPort | リダイレクトポート |
| Solution Manager Diagnostics (SMD) エージェントの接続の選択 | SelectSMDIntegrate.dialog | ChooseSMDIntegration | <ul style="list-style-type: none"> nointegrate (統合しない) integrate (統合する) |
| SMD エージェントへの接続を設定します | ConfigureSMDAgent.dialog | SMDAgent_HOST | SMD エージェントのホスト |
| | | SMDAgent_PORT | SMD エージェントのポート |
| Introscope Enterprise Manager への接続の選択 | SelectIntroscopeIntegrate.dialog | ChooseIntroscopeIntegration | <ul style="list-style-type: none"> nointegrate (統合しない) integrate (統合する) |
| | | Introscope_ENT_HOST | Introscope ホスト名 |
| | | Introscope_ENT_PORT | Introscope ポート番号 |
| Introscope Enterprise Manager への接続を設定します | ConfigureIntroscope.dialog | Introscope_ENT_HOST | Enterprise マネージャのホスト |
| | | Introscope_ENT_PORT | Enterprise マネージャのポート |
| | | Introscope_ENT_INSTRUMENTATION | true に設定して、このインストール画面を設定したことを示します。 |
| HTTP リスニングポートの設定 | GetWACSPort.dialog | WACSPort | Web アプリケーションコンテナサービスのポート番号 |
| 既存の監査データベースタイプの選択 | SelectAuditDatabase.dialog | UsingAuditDBType | <ul style="list-style-type: none"> sybase db2 oracle mysql mssql maxdb none |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|--|---|----------------------------|--|
| 既存の CMS データベースタイプの選択 | SelectCMSDatabase.dialog | UsingCMSDBType | <ul style="list-style-type: none"> • sybase • db2 • oracle • mysql • mssql • maxdb |
| 既存の CMS デプロイメント情報 | SetRemoteCMSInfo.dialog | RemoteCMSName | 既存の CMS 名 |
| | | RemoteCMSPort | 既存の CMS のポート番号 |
| | | RemoteCMSAdminName | 管理者のユーザ名 |
| | | RemoteCMSAdminPassword | 管理者のパスワード |
| SAP BusinessObjects BI プラットフォームは正常にインストールされました | ShowInstallCompleteLaunchWDeploy.dialog | LaunchWDeploy | <ul style="list-style-type: none"> • 0 (インストール後に WDeploy ツールを起動しない) • 1 (インストール後に WDeploy ツールを自動起動) |
| 監査データベースの設定 - DB2 | ExistingAuditDB2.dialog | ExistingAuditingDBServer | DB2 エイリアス名 |
| | | ExistingAuditingDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | パスワード |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - SQL Anywhere (ODBC) | ExistingCMSSQLAnywhere.dialog | ExistingCMSDBDSN | データソース名 |
| | | ExistingCMSDBUser | 既存のデータベースのユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | ユーザのパスワード |
| 監査データベースの設定 - SQL Anywhere (ODBC) | ExistingAuditSQLAnywhere.dialog | ExistingAuditingDBDatabase | 既存の監査データベース名 |
| | | ExistingAuditingDBUser | 既存のデータベースのユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | ユーザのパスワード |
| 監査データベースの設定 - MaxDB | ExistingAuditMaxDB.dialog | ExistingAuditingDBDatabase | 既存の監査データベース名 |
| | | ExistingAuditingDBUser | 既存のデータベースのユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | ユーザのパスワード |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|---------------------------------|----------------------------|--|-----------------|
| | | ExistingAuditingDBPort | 既存のデータベースのポート番号 |
| | | ExistingAuditingDBServer | MaxDB サーバの名前 |
| 監査データベースの設定 - SQL Server (ODBC) | ExistingAuditMSSQL.dialog | ExistingAuditingDBDatabase | SQL データベースの名前 |
| | | ExistingAuditingDBServer | SQL サーバの名前 |
| | | ExistingAuditingDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | パスワード |
| | | ExistingAuditingDBUseTrustedConnection | 信頼される接続を使用 |
| | | ExistingAuditingDBDSN | データソース名 |
| | | ExistingAuditingDBShowSysDB | システムデータベースの表示 |
| 監査データベースの設定 - MySQL | ExistingAuditMySQL.dialog | ExistingAuditingDBDatabase | 監査データベースの名前 |
| | | ExistingAuditingDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | パスワード |
| | | ExistingAuditingDBPort | MySQL ポート |
| | | ExistingAuditingDBServer | MySQL サーバ |
| 監査データベースの設定 - Oracle | ExistingAuditOracle.dialog | ExistingAuditingDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | パスワード |
| | | ExistingAuditingDBServer | Oracle TNSNAME |
| 監査データベースの設定 - Sybase | ExistingAuditSybase.dialog | ExistingAuditingDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingAuditingDBPassword | パスワード |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|---------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|---|
| | | ExistingAuditingDBServer | Sybase サービス名 |
| 監査データベースの設定 - DB2 | ExistingCMSDB2.dialog | ExistingCMSDBServer | DB2 エイリアス名 |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |
| | | ExistingCMSDBReset | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースをリセットしない) 1 (既存のデータベースをリセット) |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - MaxDB | ExistingCMSMaxDB.dialog | ExistingCMSDBServer | CMS データベース名 |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |
| | | ExistingCMSDBReset | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースをリセットしない) 1 (既存のデータベースをリセット) |
| | | ExistingCMSDBDatabase | MaxDB サーバ |
| | | ExistingCMSDBPort | MaxDB ポート |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - SQL Server | ExistingCMSMSSQL.dialog | ExistingCMSDBServer | 既存サーバの名前 |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |
| | | ExistingCMSDBReset | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースをリセットしない) 1 (既存のデータベースをリセット) |
| | | ExistingCMSDBDatabase | CMS データベース名 |
| | | ExistingCMSDBUseTrustedConnection | 信頼される接続を使用 |
| | | ExistingCMSDBDSN | データソース名 |
| | | ExistingCMSDBShowSysDB | システムデータベースの表示 |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - MySQL | ExistingCMSMySQL.dialog | ExistingCMSDBServer | MySQL サーバ |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|--|---|-----------------------|---|
| | | ExistingCMSDBReset | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースをリセットしない) 1 (既存のデータベースをリセット) |
| | | ExistingCMSDBDatabase | CMS データベース名 |
| | | ExistingCMSDBPort | MySQL ポート |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - Oracle | ExistingCMSOracle.dialog | ExistingCMSDBServer | Oracle TNSNAME |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |
| | | ExistingCMSDBReset | <ul style="list-style-type: none"> 0 (既存のデータベースをリセットしない) 1 (既存のデータベースをリセット) |
| CMS リポジトリデータベースの設定 - Sybase | ExistingCMSSybase.dialog | ExistingCMSDBServer | Sybase サービス名 |
| | | ExistingCMSDBUser | ユーザ名 |
| | | ExistingCMSDBPassword | パスワード |
| | | ExistingCMSDBReset | 既存のデータベースのリセット |
| Subversion の設定 | SetLCMConfig.dialog | LCMName | リポジトリ名 |
| | | LCMPort | リポジトリのポート |
| | | LCMUserName | リポジトリのユーザ |
| | | LCMPassword | パスワード |
| | | LCMPasswordConfirm | パスワードの確認 |
| SAP BusinessObjects BI プラットフォームは正常にインストールされました | ShowInstallComplete.dialog | 適用外 | 適用外 |
| SAP BusinessObjects BI プラットフォームは正常にインストールされました | ShowInstallCompleteMultiCheckbox.dialog | LaunchWDeploy | <ul style="list-style-type: none"> 0 (インストール後に WDeploy ツールを起動しない) 1 (インストール後に WDeploy ツールを自動起動) |
| | | LaunchSSW | <ul style="list-style-type: none"> 0 (インストール後にシステムセットアップウィザードを起動しない) 1 (インストール後にシステムセットアップウィザードを自動的に起動) |
| | | ViewLogButton | <ul style="list-style-type: none"> 0 (インストール後にログファイルを表示しない) 1 (インストール後にログファイルを自動的に表示) |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | プロパティ ID | 許容されるプロパティ値 |
|--|------------------------------|----------|-------------|
| インストールの開始 | ShowInstallSummary.dialog | 適用外 | 適用外 |
| インストール後の手順 | ShowPostInstall.dialog | 適用外 | 適用外 |
| アンインストール確認 | VerifyToRemove.dialog | 適用外 | 適用外 |
| SAP BusinessObjects BI プラットフォームは正常にアンインストールされました | ShowUninstallComplete.dialog | 適用外 | 適用外 |

関連情報

[ユーザ入力のカスタマイズ \[29 ページ\]](#)

[インストール画面の削除 \[30 ページ\]](#)

4 Web アプリケーションのカスタマイズ

4.1 概要

独自のブランド (または "スキン") を BI 起動パッド、OpenDocument、および Crystal Reports JavaScript ビューア Web アプリケーションに適用できます。たとえば、独自の企業識別の要素を適用することにより、BI プラットフォームシステムをカスタマイズできます。

以下の Web およびグラフィック要素をカスタマイズできます。

- ファビコン (ブラウザの URL バーに表示されるアイコン)
- ロゴ
- 特定の背景パターンおよび色
- 特定の動画 GIF (進行インジケータなど)
- 特定の CSS スタイル (境界線、パディング、マージンなど)
- Crystal Reports JavaScript ビューアの JavaScript ファイル

BI プラットフォーム Web アプリケーションの数多くの外観をカスタマイズしたり、これらのオプションのサブセットのみをカスタマイズしたりすることができます。

この情報の対象読者

この節は、BI プラットフォーム Web アプリケーションをカスタマイズする Web アプリケーション設計者、開発者、およびシステム管理者を対象にしています。CSS の設計および Java Web アプリケーションアーカイブの基本に習熟している必要があります。カスタマイズをデプロイする場合は、BI プラットフォーム Web アプリケーションをアプリケーションサーバにインストールしデプロイする方法も知っておく必要があります。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのインストールについては、*BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールガイド*を参照してください。

WDDeploy ツールを使用した BI プラットフォーム Web アプリケーションのデプロイメントについては、*Business Intelligence プラットフォーム Web アプリケーションデプロイメントガイド*を参照してください。

4.1.1 基本概念

カスタマイズを作成しデプロイするには、以下の概念を理解する必要があります。

インストールパッケージ

インストールパッケージとは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのインストールを開始するために SAP Service Marketplace からダウンロードされるバイナリのセットです。それには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。

カスタマイズテンプレート

template.zip ファイルは、インストールパッケージの Collaterals\CustomizationTemplate フォルダにあり、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのインストール前にカスタマイズするブランドバンドル (JAR ファイル) が含まれています。このファイルは Web アプリケーションをカスタマイズする開始点となります。

BOE WAR ファイル

BOE.war は、BI プラットフォームの主要な Web アプリケーションアーカイブです。BI 起動パッド、OpenDocument、Crystal Reports JavaScript ビューア、および template.zip に行う各ブランドバンドルの変更は、BOE.war 内のインストールプログラムに含まれます。カスタマイズをデプロイし、これらのアプリケーションを顧客に対して利用可能にするには、インストール処理中またはインストール処理後に BOE.war を Java アプリケーションサーバにデプロイする必要があります。

ブランドバンドル

ブランドバンドルは JAR ファイルで、template.zip ファイル内のインストールプログラムに含めるカスタムリソース (CSS、アイコン、イメージ、JavaScript) を含んでいます。以下のブランドバンドルが含まれます。

- com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar (BI 起動パッド)
このブランドバンドルは、2 つの主要なフォルダで構成されています。1 つはカスタム CSS ファイルを含む css フォルダ、もう 1 つはファビコンと、カスタムロゴ、イメージや動画 GIF が保存された theme サブフォルダを含む images フォルダです。

```
\com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding\web
  \css
    customize.css
  \images
    favicon.ico
  \theme
    *.png, *.gif
```

- com.businessobjects.webpath.OpenDocumentBranding.jar (OpenDocument)
このブランドバンドルは、2 つの主要なフォルダで構成されています。1 つはカスタム CSS ファイルを含む css フォルダ、もう 1 つはカスタムロゴとイメージが保存された theme サブフォルダを含む images フォルダです。

```
\com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding\web
  \service
    \css
```

```
customize.css
\images
\theme
*.png
```

- com.businessobjects.webpath.CrystalReports_oem.jar (Crystal Reports JavaScript ビューア)
このブランドバンドルは、2 つの主要なリソースで構成されています。1 つは特定のビューアイイベントの新しい動作を定義できるカスタムリスナを含む JavaScript ファイル、もう 1 つはビューアで使用するカスタム JavaScript ファイルやイメージを参照する JSON プロパティファイルです。

```
\com.businessobjects.webpath.CrystalReports_oem\web
CustomListener.js
\WEB-INF\classes
JSAPI-properties.json
\images
*.png
```

Web アプリケーションのデプロイメント

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールプログラムでは、バンドルされている Tomcat Web アプリケーションサーバのみに BOE.war をデプロイできます。サポートされているその他の Web アプリケーションサーバでは、インストール完了後に Web アプリケーションをデプロイする必要があります。WDeploy ツールを使用することをお勧めします。

4.1.2 カスタマイズのテスト

本稼動システムでカスタマイズを行う前に、最初にテストインストール環境でカスタマイズをテストするといでしょう。バンドルされた Tomcat サーバを使用するデフォルトインストールでは、Tomcat の作業ディレクトリ \SAP BusinessObjects \Tomcat\work\Catalina\localhost\BOE\eclipse\plugins\webpath.OpenDocumentBranding\web \serviceにある webpath.InfoViewBranding、webpath.OpenDocumentBranding および webpath.CrystalReports_oem フォルダを一時的に変更することにより、変更の効果をすぐに確認することができます。これらのフォルダの構造は、template.zip に含まれているブランドリソースの構造と同じです。

i 注記

Tomcat の作業ディレクトリは永続的なディレクトリではないため、Tomcat の再起動後に一時的な変更は削除されます。

4.2 クイックスタート

開始する前に、インストールパッケージから \Collaterals\Tools\CustomizationTemplate\template.zip をバックアップします。

この節では、BI プラットフォーム Web アプリケーションの 1 つである BI ラウンチパッドをカスタマイズし、デプロイするために必要な基本的なステップを示します。示されている手順は、OpenDocument および Crystal Reports JavaScript ビューアにも適用できます。

1 注記

このクイックスタートでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの完全なインストールの実行およびアプリケーションサーバへの BOE.war のデプロイメントを含む、エンドツーエンドのカスタマイズについて説明します。これらの手順は、長時間かかる場合があります。

1. SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールパッケージ内で、\Collaterals\Tools\CustomizationTemplate にある template.zip を探します。
2. template.zip のコンテンツを、作業フォルダに解凍します。
template.zip には、\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\warfiles\webapps\BOE\WEB-INF\eclipse\plugins\com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar などのブランドバンドルが含まれています。
3. BI 起動パッドのブランドバンドル com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar を解凍します。

```
jar xf com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar
```

4. BI 起動パッド用のブラウザの URL バーに表示するデフォルトのファビコンをカスタマイズします。
BI 起動パッドのブランドバンドルにはサンプルのファビコンが含まれています。web\sample\images\favicon.ico を 1 つ上の階層の web\images\favicon.ico にコピーします。
5. 新しいファビコンを含む com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar を再パッケージ化し、template.zip に含めます。
web および META-INF フォルダのコンテンツを com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar に戻して再パッケージ化するには以下を実行します。

```
jar cf com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar web META-INF
```

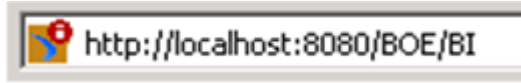
6. \OEMZips という名前のサブフォルダを \dunit\product.businessobjects64.oemzips-4.0-core-nu に作成します。
7. template.zip を \OEMZips フォルダに追加します。
カスタマイズした zip ファイルは現在 \dunit\product.businessobjects64.oemzips-4.0-core-nu\OEMZips\template.zip にあります。
8. 以下のいずれかのオプションを使用して、BOE.war を Java アプリケーションサーバにインストールし、デプロイします。

| オプション | 説明 |
|----------------------------------|---|
| バンドルされている Tomcat サーバを使用 | インストールプロセス中に選択されます。 |
| 独自にサポートされている Java アプリケーションサーバを使用 | インストールプログラムの完了後に実行されます。WDeploy ツールを使用します。 |

setup.exe (Windows) または setup.sh (Unix) を使用してインストールプロセスを開始します。

9. インストールとデプロイメントに成功した後、[http://<Web サーバ名>:<ポート>/BOE/BI](http://<Web%20サーバ名>:<ポート>/BOE/BI) で BI ラウンチパッドにアクセスして変更をテストします。

以下のように新しいファビコンをブラウザの URL バーに表示できます。



4.3 BI 起動パッドのカスタマイズ

BI 起動パッドでは、ファビコン、ロゴ、背景、スタイルなどをカスタマイズできます。これらのカスタマイズの大部分は、`customize.css` ファイル内の CSS ルールを変更して行います。すべてのカスタマイズを有効にするには、以下のように `com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar` の `web` フォルダで利用できるようにする必要があります。

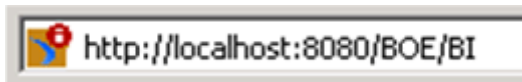
```
\web
  \css
    customize.css
  \images
    favicon.ico
  \theme
    *.png, *.gif
```

i 注記

サンプルのカスタマイズは、JAR ファイル内に提供されています。たとえば、`com.businessobjects.webpath.InfoViewBranding.jar` を開くと、サンプル CSS ファイル、サンプルイメージ、および README ファイルを含む `web\sample` フォルダがあります。

4.3.1 ファビコンイメージをカスタマイズする

ファビコンとは、BI 起動パッドを表示するとブラウザのアドレスバーに表示される小さなアイコンのことです。



`web\images` フォルダに保存されている `favicon.ico` ファイルを自身の `favicon.ico` イメージに置き換えます。

4.3.2 ロゴをカスタマイズする

BI 起動パッドで使用されるロゴは、`web\css\customize.css` ファイルの CSS ルールを編集することにより、カスタマイズできます。カスタムイメージを使用し、それらのイメージを `customize.css` ファイルで参照する場合、イメージは `web\images\theme` フォルダに配置してください。

4.3.3 その他のユーザインタフェース要素のカスタマイズ

BI 起動パッドのロゴ、背景、スタイル、およびその他のユーザインタフェース要素は、web\css\customize.css ファイルの CSS ルールを編集することにより、カスタマイズできます。カスタムイメージを使用し、それらのイメージを customize.css ファイルで参照する場合、イメージは web\images\theme フォルダに配置してください。

以下の図では、参考にサンプルのブランドバンドルでカスタマイズされた要素を示します。バルーン内の数字は、バンドルの customize.css ファイル内のセクションを指しています。



1. (0.1) ページおよびサブページの背景 (フレーム内) のカスタマイズ
2. (0.2) 入力テキストフィールド
3. (0.4) パスワードフィールド
4. (1.1) 認証フィールドコンテナ
5. (1.2) すべてのコンテナ
6. (1.3) 横罫線
7. (1.5) "ログオン" ボタン
8. (1.6) バナーの背景パターン
9. (1.7) ロゴ



10. (2.1.1) トップバナーエリア (背景パターン)
11. (2.1.2) バナーロゴ
12. (2.2.1) タブコンテナ
13. (2.2.2) アクティブタブ
14. (2.2.3) 非アクティブタブ
15. (2.3.1) BI 起動パッドアイコン



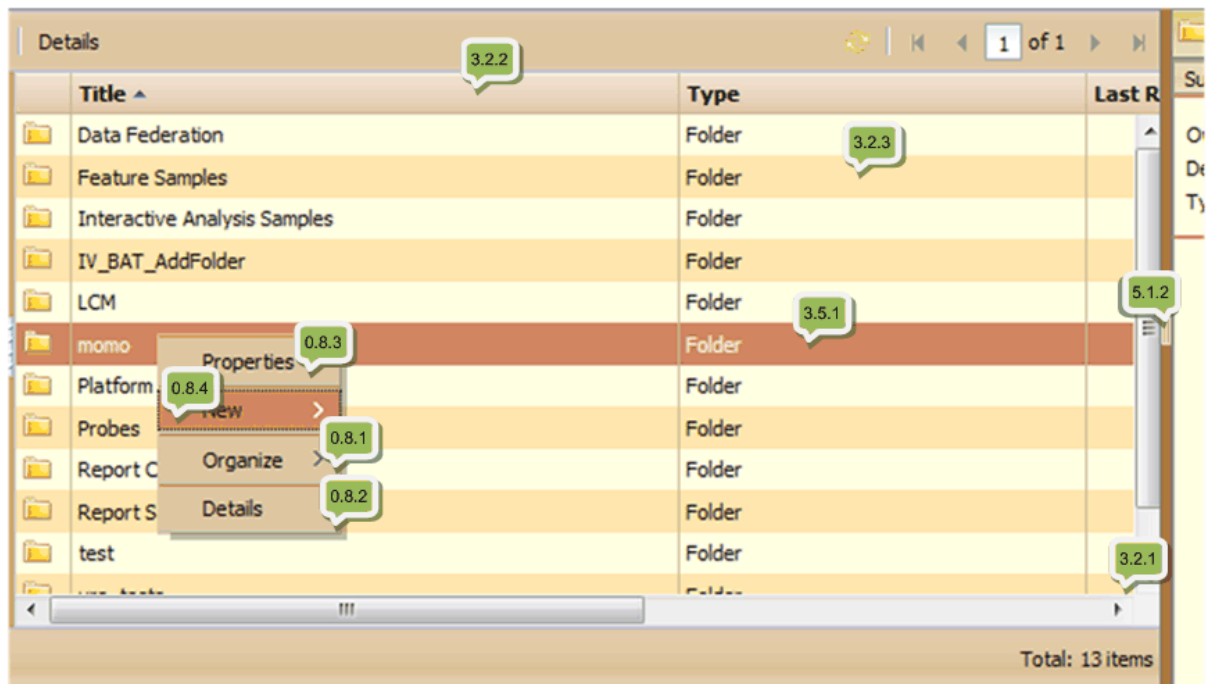
16. (2.2.4) タブボタン
17. (0.7) スピン



18. (3.1.1) アコーディオン非アクティブヘッダ
19. (3.1.2) アコーディオンアクティブヘッダ



20. (3.1.3) アコーディオンドロウ/ツリーの背景
21. (3.3.1) ツールバーの背景
22. (3.4) フッタの背景
23. (3.5.2) リストペインおよびツリービュー (左側) の両方にある選択済みでフォーカスされていない行
24. (3.6) アコーディオンリストペインのサイズ変更バー



- 25. (3.2.1) リストペインコンテナ
- 26. (3.2.2) リストペインの見出し
- 27. (3.2.3) リストペインの行
- 28. (3.5.1) リストペインおよびツリービュー (左側) の両方にある選択済みでフォーカスされている行
- 29. (5.1.2, 5.1.3, 5.1.4) サイズ変更ハンドルおよびノブ
- 30. (0.8.1) ショートカットメニューコンテナ
- 31. (0.8.2) ショートカットメニューボディ
- 32. (0.8.3) ショートカットメニュー項目
- 33. (0.8.4) ショートカットメニューの選択済み項目



- 34. (0.9) ツールヒント



- 35. (4.1) 詳細コンテナ
- 36. (5.2) 詳細ヘッダ



- 37. (6.1) 単純ダイアログコンテナ
- 38. (6.2.1) 単純ダイアログヘッダ
- 39. (6.2.2) 閉じるボタンダイアログヘッダ
- 40. (6.3) 単純ダイアログボディ
- 41. (6.4) 単純ダイアログフッタ
- 42. (6.5) 単純ダイアログテキストフィールド (通常のテキストフィールドを上書き)
- 43. (6.6) 単純ダイアログボタン



- 44.(3.3.2、3.3.3) ツールバーボタンにカーソルを合わせたとき/クリックしたとき
- 45.(3.3.4) ツールバーメニュー項目
- 46.(3.3.5) ツールバーメニュー項目にカーソルを合わせたとき
- 47.(3.3.6) ツールバーメニューの区切り
- 48.(3.3.7) ツールバーメニューのフレーム
- 49.(3.3.8) ツールバーメニューの最新表示アイコン



- 50.(7.1.1) ダイアログヘッダ (大)
- 51. (7.1.2) ダイアログヘッダ (大) – 最大化ボタン (カーソルを合わせたとき)
- 52.(7.1.3) ダイアログヘッダ (大) – 閉じるボタン (カーソルを合わせたとき)
- 53.(7.2.1) ダイアログボタン (大) パネル
- 54.(7.3.1) ダイアログフッタ (大)
- 55.(7.3.2) ダイアログフッタ (大) サイズ変更ハンドル
- 56.(7.4.1) ダイアログ (大) ボディコンテナ
- 57.(7.4.2) ダイアログ (大) フレーム
- 58.(7.4.3) ダイアログ (大) ナビゲーションペイン選択済み項目
- 59.(0.3) テキストボックス
- 60.(0.5) ボタン
- 61. (0.6) フォームラベル

4.3.4 BI ワークスペースおよび複合モジュールの操作

また、BI ワークスペースまたは複合モジュールを BI 起動パッドのホームページとして使用することもできます。BI ラUNCHパッドのスタイルと一致するように、ワークスペースまたは複合モジュールをカスタマイズできます。

i 注記

カスタマイズされたスタイルは、ホームページにのみ反映されます。同じワークスペースまたは複合モジュールが、標準ビューのホームページの外で開かれている場合、標準スタイルが使用されます。

以下の図では、参考にサンプルのブランドバンドルでカスタマイズされた要素を示します。バルーン内の数字は、バンドルの `customize.css` ファイル内のセクションを指しています。

デフォルトのホームページまたはモジュールの場合

以下の設定を使用して、デフォルトのホームページや、ホームページとして設定されている BI ワークスペースまたは複合モジュールをカスタマイズできます。



1. (8.1.2) モジュールタイトルの背景
2. (8.1.3) モジュールの境界線
3. (8.2.1) BI 起動パッドモジュールの背景
4. (8.2.2) [その他を表示] テキストの色

BI ワークスペースの標準ビューの場合

以下の設定を使用して、標準ビューでの BI ワークスペースの外観をカスタマイズできます。

1. (8.3.1) カスタマイズされたトップタブコンテナ
2. (8.3.2) カスタマイズされたサブタブコンテナ
3. (8.3.4) アクティブなトップタブ
4. (8.3.5) 非アクティブなトップタブ
5. (8.3.6) サブタブ

4.3.4.1 BI ワークスペースのスタイルを BI 起動パッドのスタイルと一致させる

1. BI ワークスペースを編集のために開きます。
2. ワークスペースの最初のタブから [プロパティ] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. (前回の) [デフォルトスタイル] オプションのすぐ前にあるオプションのアイコンを選択します。
4. [OK] をクリックします。

4.3.4.2 複合モジュールのスタイルを BI 起動パッドのスタイルと一致させる

1. BI 起動パッドのホームページで、[基本設定] をクリックします。
[基本設定 – 管理者] ダイアログボックスが表示されます。
2. [基本設定] リストから [BI ワークスペース] を選択します。
3. メインペインのリストから、[BI 起動パッド] を選択します。

4.3.5 BI 起動パッドの名前を変更する

アプリケーションを会社が使用している既存のアプリケーションセットの一部として使用できるように、BI 起動パッドの名前を変更してください。

i 注記

BI 起動パッドの名前を変更するために、ブランドバンドルを変更する必要はありませんが、関連画像も変更する場合は、ブランドバンドルで変更する必要があります。

1. BIlaunchpad.properties ファイルを、次のフォルダ

```
<INSTALLDIR>\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\warfiles\webapps\BOE\WEB-INF\config\default
```

から次のフォルダにコピーします。

```
<INSTALLDIR>\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\warfiles\webapps\BOE\WEB-INF\config\custom
```

i 注記

default フォルダでファイルを変更しないでください。変更は、必ず custom フォルダ内に保存されているファイルのコピーに対して行ってください。

2. 次のプロパティを変更します。

```
app.name=BI launch pad
app.name.greeting=BusinessObjects
app.name.short=BI launch pad
app.url.name=/BI
```

3. BOE.war を Java アプリケーションサーバに再デプロイします。

4.4 OpenDocument のカスタマイズ

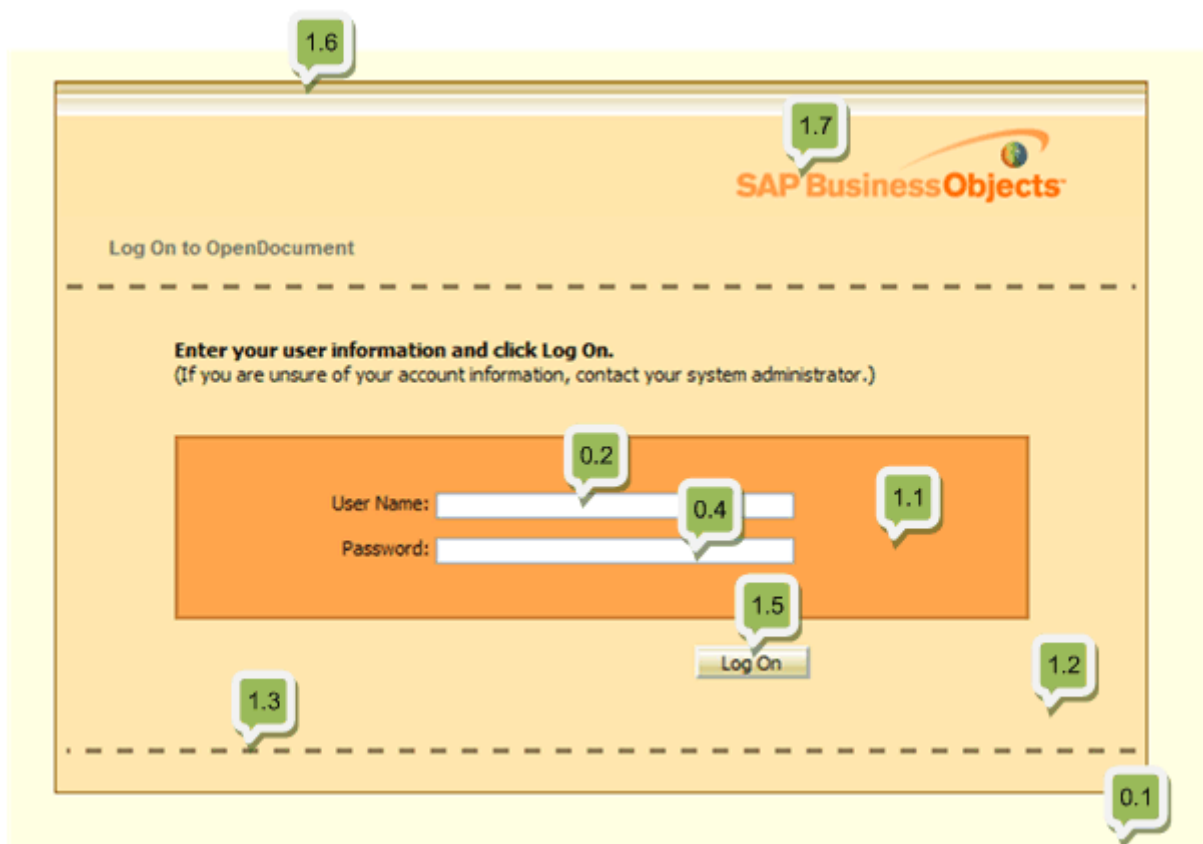
OpenDocument の場合、ログオンページのロゴ、背景、およびスタイルをカスタマイズできます。これらのカスタマイズの大部分は、customize.css ファイル内の CSS ルールを変更して行います。すべてのカスタマイズを有効にするには、以下のよう com.businessobjects.webpath.OpenDocumentBranding の web\service フォルダで利用できるようにする必要があります。

```
\web
  \service
    \css
      customize.css
    \images
      \theme
        *.png
```

i 注記

サンプルのカスタマイズは、JAR ファイル内に提供されています。たとえば、com.businessobjects.webpath.OpenDocumentBranding を開くと、サンプル CSS ファイル、サンプルイメージ、および README ファイルを含む web\sample フォルダがあります。

以下の図では、参考にサンプルのブランドバンドルでカスタマイズされた要素を示します。バルーン内の数字は、バンドルの customize.css ファイル内のセクションを指しています。



1. (0.1) ページおよびサブページの背景 (フレーム内) のカスタマイズ
2. (0.2) 入力テキストフィールド
3. (0.3) パスワードフィールド
4. (1.1) 認証フィールドコンテナ
5. (1.2) すべてのコンテナ
6. (1.3) 横罫線
7. (1.5) "ログオン" ボタン
8. (1.6) バナーの背景パターン
9. (1.7) ロゴ

4.5 Crystal Reports JavaScript ビューアのカスタマイズ

この節では、BI プラットフォームデプロイメントに含まれているレポートビューアのカスタマイズ方法を示します。

以下を追加することにより、ビューアをカスタマイズできます。

- カスタムロゴ
- SAP Crystal Reports JavaScript API イベントおよびアクションリスナ
- CSS ファイル
- 外部 JavaScript ファイルまたはライブラリ

4.5.1 ビューアのカスタマイズ

レポートビューアのカスタマイズに使用するファイルを使用して、`template.zip` ファイルを再パッケージ化できます。

ワークフローは次のとおりです。

1. `template.zip` ファイルのコンテンツを抽出します。
2. `com.businessobjects.webpath.CrystalReports_oem.jar` ファイルを変更します。
3. `SAP BusinessObjectsEnterprise XI 4.0\warfiles\webapps\config\custom\CrystalReports.properties` ファイルの `crystal_enable_jsapi` プロパティを `true` に設定して、カスタムのビューア動作を有効にします。
4. `template.zip` ファイルを再作成します。

i 注記


コンテンツを変更する前に、`template.zip` ファイルのバックアップコピーを作成することをお勧めします。

`template.zip` ファイル内で、以下のファイルを変更する必要があります。

| template.zip | 修正 |
|---|------------|
| SAP BusinessObjectsEnterprise XI 4.0\warfiles\webapps\BOE\WEB_INF\eclipse \plugins \com.businessobjects.webpath.CrystalReports_oem.jar | 展開して変更します。 |

com.businessobjects.webpath.CrystalReports_oem.jar ファイル内で、以下を変更できます。

| CrystalReports_oem.jar | 修正 |
|--|--|
| \web | カスタムまたは外部 JavaScript および CSS ファイルをこのフォルダに追加します。 |
| \web\CustomListener.js | SAP Crystal Reports JavaScript API イベントリスナを CustomListener.js ファイル内の OnViewerInit および OnViewerFail 関数に追加します。 詳細については、SAP Crystal Reports JavaScript API ガイドを参照してください。 |
| \WEB-INF\classes\JSAPI-properties.json | \web フォルダに追加されたすべてのイメージ、JavaScript ファイル、および CSS ファイルへの相対パスを追加します。ビューアによって表示されるロゴを変更することもできます。 以下の例では、ロゴ、JavaScript ファイル、フォルダとフォルダの JavaScript コンテンツ、および CSS ファイルが追加されています。 <pre> { "logo" : { "img" : "images/logo.gif", "tooltip" : "SAP Crystal Reports", "url" : "http:// www.businessobjects.com/ ipl/default.asp? destination=ViewerLogoLink &product=crystalreports&version=14%2E0" }, "scripts" : [CustomListener.js \CustomFiles*.js], "styles" : [\CustomStyle.css] }</pre> |

| CrystalReports_oem.jar | 修正 |
|------------------------|--|
| | <div data-bbox="762 360 865 398">  注記 </div> <div data-bbox="756 409 1334 512"> <p>JSAPI-properties.json ファイル内で参照されるすべてのファイルは、\web フォルダに含まれている必要があります。</p> </div> |

5 SAP Crystal Reports 2011 のカスタマイズ

5.1 概要

SAP Crystal Reports 2011 は、パートナーが再パッケージして販売することができます。インストールされた製品やインストールプログラムをカスタマイズして、お客様のシームレスな操作性を実現できます。SAP BusinessObjects カスタマイズツールは、SAP Crystal Reports およびそのインストールプログラムを、次のような変更でカスタマイズできます。

- 製品サイズの縮小
- 製品名の変更
- インストールプログラムのデフォルトプロパティの変更
- インストールプログラムの画面の非表示

カスタマイズを行うには、設定ファイルを記述してカスタマイズを指定した後、SAP BusinessObjects カスタマイズツールを実行して、カスタマイズされたインストールプログラムを作成します。その後、お客様はこのインストールプログラムを使用して、製品のカスタマイズされたバージョンをインストールできます。

カスタマイズツールは、フルインストールプログラム、サポートパッケージインストールプログラム、パッチインストールプログラムのカスタマイズに使用できます。

5.2 Crystal Reports のクイックスタート

この節では、カスタマイズツールを実行して、SAP Crystal Reports のカスタマイズされたインストールプログラムを作成する方法について説明します。このツールに付属するサンプル設定ファイルを使用します。このチュートリアルを完了すると、カスタマイズしたインストールパッケージを実行して、Crystal Reports のカスタマイズされたバージョンをインストールできます。

カスタマイズには、デフォルトのインストールタイプの変更、機能の削除、製品キーコードのハードコーディング、デフォルトのインストールフォルダの変更、製品名の変更、Windows の [\[スタート\]](#) メニューショートカットの変更が含まれます。これらのカスタマイズは、設定ファイル内により詳しく記述されています。

1. SAP BusinessObjects カスタマイズツールを設定します。

- a. デプロイメントマシン上に作業フォルダを作成します (例: C:\SAPCustomTool\packages)。
- b. Crystal Reports インストールパッケージのコンテンツを C:\SAPCustomTool\packages にコピーします。

インストールパッケージには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。手順については、[インストールプログラムをダウンロードする \[74 ページ\]](#)を参照してください。

- c. (オプション) サンプル設定ファイルにキーコードを追加します。

XML エディタで、ファイル C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_cr.xml を開き、<replaceProperty id="ProductKey" defaultValue="PLEASE SET" /> 内のフレーズ PLEASE SET を Crystal Reports キーコードに置き換えます。

- d. C:\SAPCustomTool\output フォルダを作成します。

i 注記

このフォルダは空にする必要があります。

- e. コマンドプロンプトで次のコマンド `cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool` を実行します。

CustomizationTool フォルダには、実行可能ファイル `customizationtool.exe` とサンプル設定ファイル `example_customization_win_cr.xml` が含まれています。

2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
customizationtool.exe xml=example_customization_win_cr.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:\SAPCustomTool\output logDetail=error > C:\oemlog.log
```

C:\SAPCustomTool\output に、カスタマイズされたインストールパッケージが作成されたことを確認します。ログファイル C:\oemlog.log で、報告されたエラーがないことを確認します。

i 注記

カスタマイゼーションツールの完了には数分かかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

3. C:\SAPCustomTool\output\setup.exe を使用して、カスタマイズされた Crystal Reports インストールプログラムを実行します。

設定ファイル C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_cr.xml 内に記述されているカスタマイズ内容で、Crystal Reports がインストールされます。

5.3 インストールプログラムをダウンロードする

1. <https://support.sap.com/home.html> > [ソフトウェアダウンロード] に移動します。
2. [ソフトウェアの検索] タブで [A-Z Index] の下の [Installations and Upgrades] を選択します。
3. [C] > [CRYSTAL REPORTS] > [CRYSTAL REPORTS 2011] を選択します。
4. [Installation and Upgrade] > [WINDOWS] を選択します。
5. [SAP Crystal Reports 2011 <バージョン> Windows (32B)] というタイトルのオブジェクトを選択した後、Web サイトにある指示に従って、オブジェクトをダウンロードして解凍します。

ソフトウェアのダウンロードには時間がかかる場合があります。また、システム管理者に連絡して、会社のファイアウォールによってダウンロード処理が終了されないようにする必要がある場合があります。

サポートパッケージとパッチは、SAP Crystal Reports の更新が含まれているインストールプログラムです。<https://support.sap.com/home.html> からダウンロードできます。[ソフトウェアの検索] タブで [A-Z Index] の下の [Support Packages and Patches] をクリックします。サポートパッケージとパッチのインストールの詳細については、[アップデートインストールプログラムのカスタマイズ \[99 ページ\]](#)を参照してください。

5.4 カスタマイズプロセスの計画

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを使用するには次を実行します。

1. インストールプログラムをダウンロードします。[インストールプログラムをダウンロードする \[74 ページ\]](#)を参照してください。
2. 必要なカスタマイズを決定します。[設定ファイルの作成 \[76 ページ\]](#)を参照してください。
3. 設定ファイルを作成してカスタマイズを指定します。
4. カスタマイゼーションツールを実行して、カスタマイズしたインストールプログラムを作成します。
5. カスタマイズされたインストールプログラムを実行して、SAP Crystal Reports のカスタマイズされたバージョンをインストールします。

5.4.1 ベストプラクティス

この節では、カスタマイズしたインストールプログラム作成のための推奨事項を説明します。

設定ファイルの検証

ツールを実行する前に設定ファイルを検証することをお勧めします。コマンドラインパラメータ `validate` を使用します。

製品サイズの縮小

ユーザは、より小さいインストールプログラムやより小さいインストール済み製品を好みます。製品をできるだけ小さくするために次を実行します。

- 不要な任意の言語パックを削除します。
- 不要な任意の機能を削除します。
- Collaterals フォルダから不要な任意のアイテムを削除します。

カスタマイズした名前の一貫した割り当て

製品名とバージョン番号は、インストールプログラムおよびインストールした製品の複数の場所に表示されます。次の場所でカスタマイズを確認してください。

- 製品名、製品バージョン、製品メジャーバージョン
- Windows の [\[スタート\]](#) メニューエントリおよびすべての機能のショートカット
- Windows の [\[プログラムの追加と削除\]](#) ユーティリティ

- デフォルトのインストールフォルダ

すべての言語で名前の変更を検討する

サポートされるすべての言語でカスタマイズした名前の表示を考慮することをお勧めします。

パッチインストールプログラムを、メインインストールプログラムと整合性のあるものに変更します。

サポートパッケージとパッチには、メインリリースと同じカスタマイズを適用する必要があります。カスタマイズされたメインインストールプログラムをリリースした後、異なるカスタマイズを含むサポートパッケージまたはパッチインストールプログラムをリリースした場合、予測できない結果が生じ、標準のロールバック手順では修復できなくなる可能性があります。

サポートパッケージおよびパッチのロールバックインストール、変更インストール、修正インストールのテスト

カスタマイズされたサポートパッケージとパッチのカスタマイズ方法がメインインストールパッケージと一致している場合、ロールバック、変更、および修復インストールがサポートされます。これらのシナリオをテストすることをお勧めします。

関連情報

[コマンドラインパラメータ \[97 ページ\]](#)

5.5 設定ファイルの作成

次の節では、設定ファイルの編集によるインストールプログラムのカスタマイズについて説明します。

- 製品名の変更
 - 製品名とバージョン番号のカスタマイズ
 - Windows の [\[スタート\]](#) メニューのショートカットのカスタマイズ
 - Windows の [\[プログラムの追加と削除\]](#) ユーティリティのカスタマイズ
 - 設定フォルダのカスタマイズ
- デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ
- インストール画面の削除
- キーコードの埋め込み

- 機能の削除
- 要件の確認の回避
- 言語パックの削除
- リソースの変更
 - インストールプログラム内の画像のカスタマイズ
 - 使用許諾契約のカスタマイズ
- Collaterals フォルダのアイテムの削除

5.5.1 設定ファイルの概要

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールは、設定ファイルの情報を使用してカスタマイズを実行します。設定ファイルは XML ドキュメントです。XML 要素を使用してカスタマイズを記述します。サンプル設定ファイルは、インストールプログラムの次のフォルダにあります。

Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_cr.xml

ファイルは次の形式である必要があります。

```
<oem name="<Any name>">
  <cloneProduct sourceId="product.crystalreports-4.0-core-32">
    ...
  </cloneProduct>
</oem>
```

完全インストールプログラムの設定ファイルは oem.xml などの任意の名前を持つことができます。

サポートパッケージインストールプログラムの設定ファイルは、[アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 \[101 ページ\]](#)の節で説明します。

i 注記

設定ファイルは、正しい XML 構文で記述する必要があります。XML エディタを使用してファイルの作成と編集を行い、ツールを実行する前に形式が正しいことを確認してください。

例

この例は以下のカスタマイズを指定します。

- すべての言語で、製品のロングネームを “Custom Company Crystal Reports” に変更します。
- すべての言語で、製品のショート名を “Custom CR” に変更します。
- Windows の [\[プログラムの追加と削除\]](#) エントリの発行者と製品名を変更します。
- インストール画面 [\[インストールタイプの選択\]](#) を削除し、インストールタイプを *Custom* に設定します。
- 英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語の言語パッケージのみをインストールパッケージに含めることを指定します。

```
<oem name="CustomCompanyCrystalReports">
  <cloneProduct sourceId="product.crystalreports-4.0-core-32">
    <replaceString id="product.cr_name" value="Custom Company Crystal Reports" lang="all"/>
    <replaceString id="product.cr_shortcode" value="Custom CR" lang="all"/>
  </cloneProduct>
</oem>
```

```

<arp duSourceId="product.crystalreports.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="Custom Company"/>
  <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports"/>
</arp>
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
<removeDialog id="ChooseInstallType2.dialog"/>
<languageIncludeList value="en;fr;de;it;zh_CN"/>
</cloneProduct>
</oem>

```

5.5.2 製品名の変更

製品の名前の変更は、以下をカスタマイズすることにより行うことができます。

- 製品名とバージョン番号
- Windows の [プログラムの追加と削除] エントリ
- 機能ショートカットの [スタート] メニューエントリ
- デフォルトのインストールフォルダ

次の節では、これらのカスタマイズについて説明します。

5.5.2.1 製品名とバージョン番号のカスタマイズ

製品名とバージョン番号をカスタマイズすることができます。replaceString でカスタマイズする文字列 ID を指定します。

```

<replaceString id="<string id>" value="<new value>" lang="<language list>"/>

```

製品名とバージョン番号を表す文字列は、製品ロング名、製品ショート名、製品バージョン番号、製品メジャーバージョン番号の 4 つです。製品の完全名は、製品ロング名とバージョン番号で構成されます。製品ショート名と製品メジャーバージョンは、Windows のショートカットメニューで使用されます。

表 14:製品名とバージョン番号

| 文字列の説明 | 文字列 ID | デフォルト値 |
|--------------|-------------------------|--------------|
| 製品のロング名 | product.cr_name | Crystal レポート |
| 製品のショート名 | product.cr_shortname | Crystal レポート |
| 製品のバージョン | product_cr_version | 2011 |
| 製品のメジャーバージョン | product_cr_majorversion | 2011 |

i 注記

製品バージョンと製品メジャーバージョンは同時にカスタマイズする必要があります。たとえば、製品バージョンを“1.0”に変更する場合は、製品メジャーバージョンも“1”にカスタマイズする必要があります。そうしないと、メニューのバージョン番号と製品のバージョン番号が一致しません。

言語ごとに新しい名前を指定することができます。言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

例

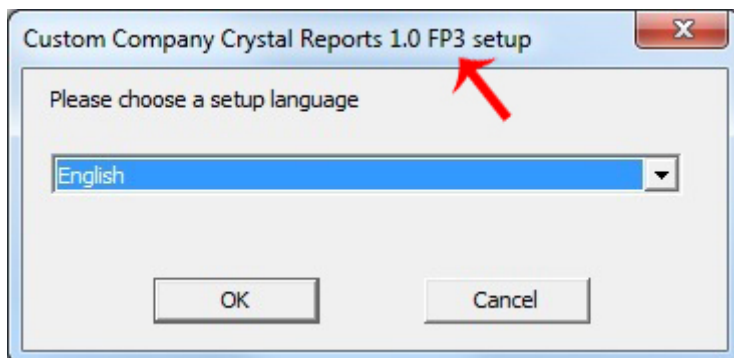
この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- 英語で、製品のロングネームを “Custom Company Crystal Reports” に変更し、ショート名を “Custom CR” に変更します。
- フランス語で、製品のロングネームを “Custom Company Crystal Reports (French)” に変更し、ショート名を “Custom CR (French)” に変更します。
- すべての言語で、製品バージョンを “1.0” に変更し、製品メジャーバージョンを “1” に変更します。

英語とフランス語以外の言語の製品名はデフォルト値のままですが、製品バージョンとメジャーバージョンはすべての言語で変更されます。

```
<replaceString id="product.cr_name" value="Custom Company Crystal Reports" lang="en"/>
<replaceString id="product.cr_shortcode" value="Custom CR" lang="en"/>
<replaceString id="product.cr_name" value="Custom Company Crystal Reports (French)" lang="fr"/>
<replaceString id="product.cr_shortcode" value="Custom CR (French)" lang="fr"/>
<replaceString id="product_cr_version" value="1.0" lang="all"/>
<replaceString id="product_cr_majorversion" value="1" lang="all"/>
```

カスタマイズの結果は以下のように表示されます。バージョン番号 “FP3” が削除されていないことに注意してください。



インストールプログラムから “FP3” のインスタンスを削除する

インストールプログラムを実行するときに、製品名に “FP3” のインスタンスが表示される場合があります。“FP3” を削除するには、次のファイルの行を修正します。

表 15:

| ファイル名 | 元の行 | 変更された行 |
|--|--|---|
| dunit \\product.crystalreports-4.0 -core-32\\setup.ui.framework \\uitext\\CrystalReports \\product.lang_<language code>.uitext.xml | <string id="productname_patch" value=" FP3"/> | <string id="productname_patch" value=""/> |
| dunit \\product.crystalreports-4.0 -core-32\\setup.ui.framework \\uitext\\framework \\setup.ui.framework.lang_<l anguage code>.uitext.xml | <string id="product_patch" value="FP3"/> | <string id="product_patch" value=""/> |
| 同上 | <string id="product_patch_prespace" value=" FP3"/> | <string id="product_patch_prespac e" value=""/> |

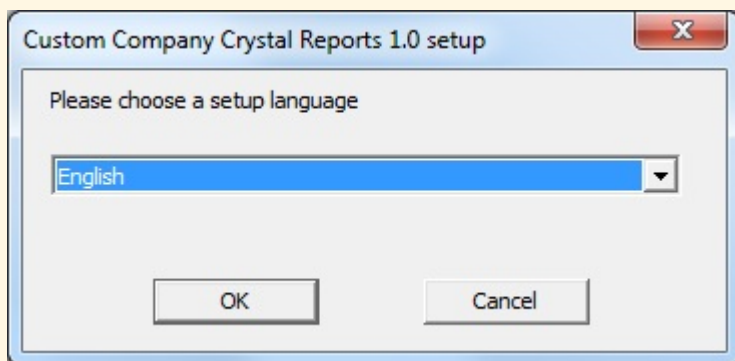
インストールプログラムでサポートされる各言語で1つのファイルを変更する必要があります。言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。カスタマイズツールを実行した後、インストールプログラムを実行すると、“FP3”のすべてのインスタンスが削除されます。このプロセスは将来のリリースで簡素化されます。

例

英語のインストールプログラムから“FP3”を削除するには、次のファイルを変更します。

- product.lang_en.uitext.xml
- setup.ui.framework.lang_en.uitext

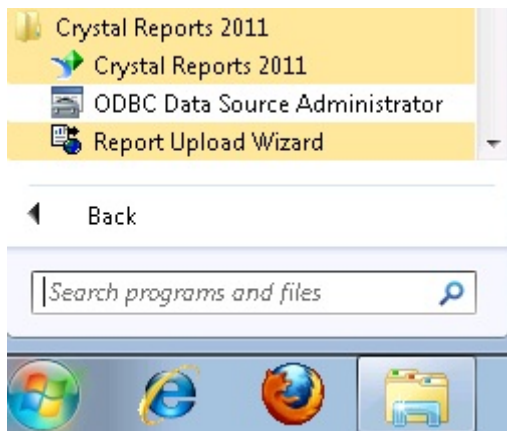
カスタマイズの結果は以下のように表示されます。



5.5.2.2 Windows の [スタート] メニューショートカットのカスタマイズ

Windows の [\[スタート\]](#) メニューには、ODBC データソースアドミニストレータなどの機能のショートカットが含まれています。各ショートカットの名前、場所、ツールヒントをカスタマイズできます。カスタマイズしなかったショートカットは、デフォルトの [\[スタート\]](#) メニューエントリ ([\[Crystal Reports 2011\]](#)) の下に分類されます。

英語のインストールでのデフォルトの **[スタート]** メニューは次のようになります。



各機能の場所、ショートカット名、ツールヒントをカスタマイズするには、`shortcut` 要素を使用します。

```
<shortcut duSourceId="<shortcut deployment unit ID>">
  <arg id="linkFullPath" value="<full path to shortcut link>" lang="<language list>" />
  <arg id="description" value="<tooltip string>" lang="<language list>" />
</shortcut>
```

表 16:

| 属性 | 値 |
|--------------|--|
| duSourceId | <p>変更するショートカットデプロイメントユニット ID。典型的な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> product.crystalreports.shortcut.crw-4.0-core Crystal Reports 2011 product.crystalreports.shortcut.odbc-4.0-core ODBC データソースアドミニストレータ product.crystalreports.shortcut.rptpubwiz-4.0-core レポートアップロードウィザード <p>duSourceId 値の完全な一覧については、ショートカットデプロイメントユニット ID [106 ページ]を参照してください。</p> |
| linkFullPath | <p>ショートカットリンクへの完全パス。ショートカットリンクには .lnk を付ける必要があります。付けなかった場合、リンクは作成されません。リンクは [スタート] メニュー内やデスクトップ上に配置できます。SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールでは、リンクが正しく作成されます。</p> <p>言語ごとに 1 つのリンクを指定することができます。言語コードの一覧については、言語コード [107 ページ]を参照してください。</p> |
| 説明 | <p>マウスをショートカットの上に置くと表示されるツールヒントの文字列。言語ごとに 1 つのツールヒントを指定することができます。</p> |

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- 英語で、Crystal Reports 2011 ショートカットの名前を “Custom Company CR” に変更します。
- 英語で、Crystal Reports 2011 ツールヒントを “Launch Custom Company CR” にカスタマイズします。

- 英語で、“ODBC Data Source Administrator” ショートカットの名前を “Custom ODBC” に変更します。
- 英語で、“ODBC Data Source Administrator” ツールヒントを “Custom ODBC” に変更します。
- “Custom Company CR” および “Custom ODBC” ショートカットを “Company Programs” という [\[スタート\]](#) メニューエントリの下に配置します。
- 英語で、“Report Upload Wizard” ショートカットの名前を “Custom Wizard” に変更します。
- “Custom Wizard” ショートカットを “Custom Wizard” という [\[Start\]](#) メニューエントリの下に配置します。
- 英語で、“Custom Wizard” ツールヒントを “Launch Custom Wizard” にカスタマイズします。

他のすべての言語に対しては、ショートカット名とツールヒントは変更されません。

i 注記

この例を使用するには、以下のリンクとフォルダを作成する必要があります。

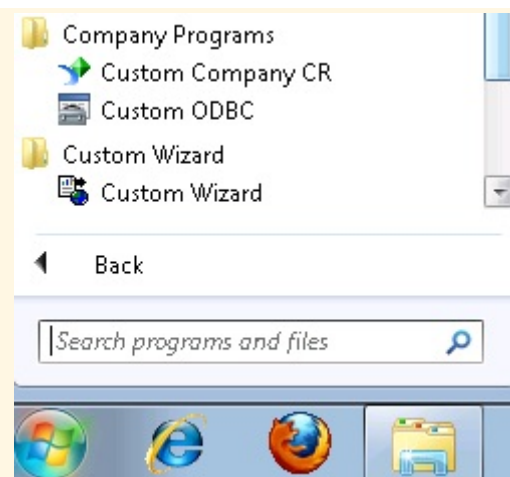
- Custom Company CR.lnk
- Custom ODBC.lnk
- Custom Wizard.lnk
- Company Programs
- Custom Wizard

Custom Company CR.lnk と Custom ODBC.lnk を Company Programs フォルダに配置し、Custom Wizard.lnk を Custom Wizard フォルダに配置します。インストールフォルダのリダイレクト先にする予定の同じ場所に、これらのフォルダを配置します。

この例では、インストールフォルダは C:\ ドライブにリダイレクトされています。詳細については、[設定フォルダのカスタマイズ \[85 ページ\]](#)を参照してください。

```
<shortcut duSourceId="product.crystalreports.shortcut.crw-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\Custom
Company CR.lnk" lang="en"/>
  <arg id="description" value="Launch Custom Company CR" lang="en"/>
</shortcut>
<shortcut duSourceId="product.crystalreports.shortcut.odbc-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Company Programs\Custom
ODBC.lnk" lang="en"/>
  <arg id="description" value="Custom ODBC" lang="en"/>
</shortcut>
<shortcut duSourceId="product.crystalreports.shortcut.rptpubwiz-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Custom Wizard\Custom
Wizard.lnk" lang="en"/>
  <arg id="description" value="Launch Custom Wizard" lang="en"/>
</shortcut>
```

カスタマイズの結果は以下のように表示されます。



例

この例では、すべての言語で、“レポートアップロードウィザード”機能ショートカットのデフォルト名はそのままですが、“Custom Wizard” という [スタート] メニューエントリの下にショートカットを配置します。また、すべての言語で、“Custom Wizard” ツールヒントを “Launch Custom Wizard” に変更します。

i 注記

この例を使用するには、Report Upload Wizard.lnk を Custom Wizard フォルダに配置する必要があります。このフォルダをインストールフォルダと同じ場所に配置します。

この例では、インストールフォルダは C:\ ドライブにリダイレクトされています。

```
<shortcut duSourceId="product.crystalreports.shortcut.rptpubwiz-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Custom Wizard\Report Upload Wizard.lnk" lang="all"/>
  <arg id="description" value="Launch Custom Wizard" lang="all"/>
</shortcut>
```

5.5.2.3 Windows の [プログラムの追加と削除] ユーティリティのカスタマイズ

[プログラムの追加と削除] (ARP) ユーティリティでの表示名、発行者、アイコンをカスタマイズできます。次の要素を使用します。

```
<arp duSourceId="product.crystalreports.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="<publisher name>"/>
  <arg id="display_name" value="<product name>" lang="<language list>"/>
  <arg id="display_icon" value="<full path to icon>"/>
</arp>
```

i 注記

表示名には lang タグを使用して、言語ごとに異なる表示名を指定する必要があります。複数の言語で同じ表示名を使用する場合はセミコロンで区切る必要があります。指定されていない言語にはデフォルト値が使用されます。

言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

i 注記

発行者のカスタマイズ値を ARP で正しく表示するには、追加手順を行う必要があります。次の手順を実行してください。

1. dunit\product.crystalreports.arp-4.0-core-32\seed.xml ファイルを開きます。
2. <action id="AddARPEntry"> 要素を検索します。複数のネストされた <arg> 要素が見つかります。
3. <arg name="DISPLAY_NAME" value="[ARP.DISPLAYNAME]" /> の下に、以下の行を追加します。
<arg name="PUBLISHER" value="SAP" />
4. ファイルを保存します。

設定ファイル内の発行者名をカスタマイズした後、カスタマイズツールを実行してカスタマイズされた製品をインストールすると、発行者のカスタマイズ値が ARP に表示されます。このプロセスは将来のリリースで簡素化されます。

通常、Windows の ARP ユーティリティに表示されるアイコンは 16x16 のサイズです。アイコン作成の詳細については Windows のドキュメントを参照してください。

例

この例は、Windows の ARP ユーティリティの以下のカスタマイズを実行します。

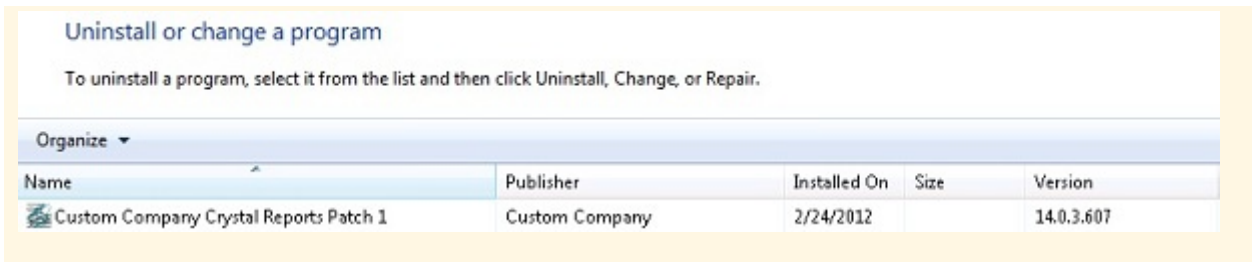
- 英語とフランス語で、製品名を “Custom Company Crystal Reports Patch 1” に変更します。
- ドイツ語で、製品名を “Custom Company Crystal Reports (German)” に変更します。
- 発行者を “Custom Company” に変更します。
- 表示アイコンを C:\SAPCustomTool\CC_logo.ico のアイコンに置き換えます。

i 注記

この例を使用するには、C:\SAPCustomTool に CC_logo.ico というアイコンを置いておく必要があります。

```
<arp duSourceId="product.crystalreports.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="Custom Company"/>
  <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports Patch 1"
lang="en;fr"/>
  <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports (German)"
lang="de"/>
  <arg id="display_icon" value="C:\SAPCustomTool\CC_logo.ico"/>
</arp>
```

カスタマイズの結果は以下のように表示されます。



5.5.2.4 設定フォルダのカスタマイズ

デフォルトのインストールフォルダの場所をカスタマイズできます。`replaceProperty` 要素に `id="<installation folder file path>"` を付けて使用します。

```
<replaceProperty id="InstallDir" defaultValue="<default installation folder>" />
```

例

デフォルトのインストールフォルダを `C:\MyInstallDir\CustomCompanyCrystalReports` に変更します。

```
<replaceProperty id="InstallDir" defaultValue="C:\MyInstallDir  
\CustomCompanyCrystalReports" />
```

5.5.3 デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ

インストールプログラムで収集されるユーザ入力のデフォルト値をカスタマイズできます。`replaceProperty` 要素で `id="<property id>"` を使用して新しいデフォルト値を指定します。

```
<replaceProperty id="<property id>" defaultValue="<value to use as default value>" />
```

プロパティ ID の一覧については、[インストール画面とプロパティ ID \[108 ページ\]](#)を参照してください。

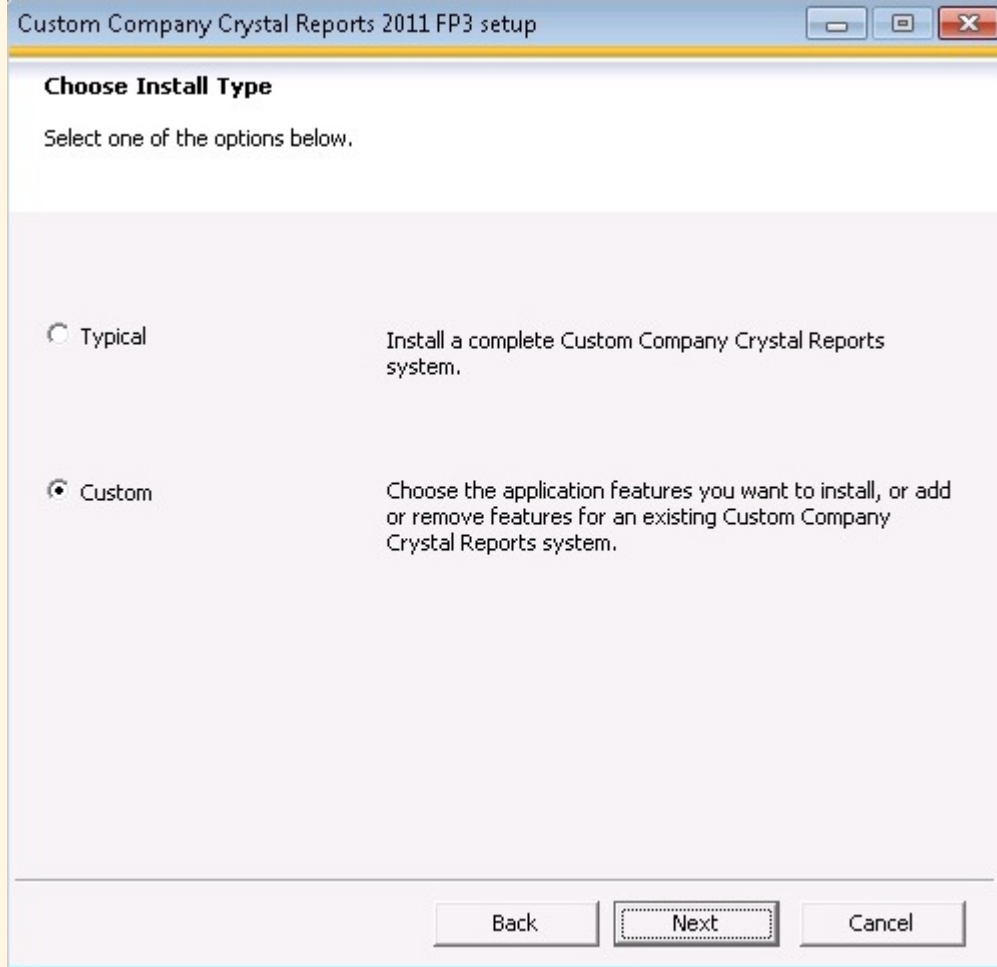
Windows のインストールプログラムは、ダイアログボックス、ラジオボタン、およびその他のユーザインタフェース要素を使用してユーザ入力を収集します。

例

[[インストールタイプの選択](#)] というインストール画面で、デフォルトのインストールタイプは [[標準](#)] です。この例は、デフォルトのインストールタイプを [[カスタム](#)] に変更します。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom" />
```

カスタマイズの結果は以下のように表示されます。



5.5.4 インストール画面の削除

インストールプログラムからインストール画面を削除することができます。`removeDialog` 要素でインストール画面 ID を使用します。

```
<removeDialog id="<installation screen ID>"/>
```

インストール画面 ID の一覧については、[インストール画面とプロパティ ID \[108 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例は、[機能の選択](#) というタイトルのインストール画面を削除する方法を示しています。

```
<removeDialog id="SelectFeatures.dialog"/>
```

5.5.5 キーコードの埋め込み

インストールプログラムにキーコードを埋め込み、ユーザが入力しないですむようにできます。必要な作業は次のとおりです。

- キーコードのデフォルト値の指定
- ユーザがキーコードを入力するインストール画面の削除

例

`replaceProperty` 要素で `id="ProductKey"` を使用してデフォルトのキーコードを指定します。キーコードの形式は `XXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XX` にする必要があります。

ライセンスキーのインストール画面を削除するには、`removeDialog` 要素に `id="CREnterProductKey.dialog"` を付けて使用します。

```
<replaceProperty id="ProductKey" defaultValue="XXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XX"/>
<removeDialog id="CREnterProductKey.dialog"/>
```

関連情報

[インストール画面とプロパティ ID \[108 ページ\]](#)

[デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ \[85 ページ\]](#)

[インストール画面の削除 \[86 ページ\]](#)

5.5.6 機能の削除

SAP Crystal Reports にはオプション機能が多く含まれています。インストールプログラムから機能を削除することができます。`removeFeature` 要素で `id="<feature id>"` を使用します。

```
<removeFeature id="<Feature ID>"/>
```

機能 ID の一覧については、[機能 ID \[103 ページ\]](#)を参照してください。

削除する機能を指定すると、SAP BusinessObjects カスタマイズツールによって、その機能に含まれるすべての実行可能ファイル、インストール画面、その他のファイルが削除されます。不要な機能を削除することは、カスタマイズしたプログラムのサイズを縮小する際に効果的です。

例

地理マップ機能を削除します。次の ID では、プログラムでデータと地域の関係を表示する機能が削除されます。

```
<removeFeature id="Mapping"/>
```

5.5.7 要件の確認の回避

要件とは、ホストマシンに必ず存在している条件で、インストールプログラムを成功させるためのものです。インストールプログラムの開始前にこれらの前提条件の有無が確認され、[\[要件の確認\]](#) 画面に結果が表示されます。[\[要件の確認\]](#) 画面を削除すると、要件の確認は実行されません。removeDialog 要素に id="CheckPreRequisites.dialog" を付けて使用します。

i 注記

要件の確認を他の手段で行う場合は、このインストール画面を削除することをお勧めします。要件が満たされない場合は、インストールプログラムは成功しません。

例

この例では、[\[要件の確認\]](#) 画面を削除し、要件の確認の実行を回避します。

```
<removeDialog id="CheckPreRequisites.dialog"/>
```

5.5.8 言語パックの削除

ユーザはインストールプログラムでインストールする言語パックを選択できます。言語パックには、インストールされている製品で使用されるすべての文字列の翻訳バージョンが含まれます。インストールプログラムには、可能な限りすべての言語パックがデフォルトで含まれます。組み入れる言語パックを指定することができます。languageIncludeList 要素で言語コードのリストを使用します。

```
<languageIncludeList value="<list of language codes>"/>
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

i 注記

言語パックはサイズが大きくなります。組み入れる言語パックを少なくすると、インストールプログラムは小さくなります。

例

英語、フランス語、およびドイツ語をインストールプログラムの言語パックに組み入れます。ユーザはインストール時にこのリストから選択できます。

```
<languageIncludeList value="en;fr;de"/>
```

5.5.9 リソースの変更

インストールプログラムは、画像ファイルおよびテキストファイルをリソースとして次のフォルダに保存します。

dunit\product.crystalreports-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources

このフォルダのリソースをカスタマイズできます。次のリソースはよくカスタマイズされます。

- インストールプログラム内の画像
- インストールプログラム内の使用許諾契約

リソースは次の方法でカスタマイズします。

1. カスタムリソースフォルダ (C:\MyResources など) を作成します。フォルダの名前は任意ですが、お客様が参照可能であることに注意してください。カスタマイズするすべてのリソースを同じフォルダに使用します。
2. 元のリソースと同じ名前とファイルパスで新しいリソースを作成し、それをカスタムリソースフォルダに配置します。具体例については、関連項目を参照してください。
3. 設定ファイルに <resources> 要素を追加し、カスタムリソースフォルダの場所を指定します。たとえば、次のようにします。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\MyResources"/>
```

cleanTarget 属性

cleanTarget='yes' を設定すると、カスタマイズツールは元の resources フォルダを削除し、カスタムリソースフォルダ内にあるリソースのみを使用します。このオプションはお勧めできません。

関連情報

[インストールプログラム内の画像のカスタマイズ \[89 ページ\]](#)

[使用許諾契約のカスタマイズ \[91 ページ\]](#)

5.5.9.1 インストールプログラム内の画像のカスタマイズ

[ようこそ] 画面、すべての画面の上部の画像、進捗ダイアログのビルボードなど、インストールプログラムの画像をカスタマイズできます。画像は resources フォルダにファイルとして保存されます。

dunit\product.crystalreports-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources

表 17:resources フォルダの画像ファイル

| 画像名 | ファイル名 | デフォルトの画像 |
|---------------|-----------------|---|
| [ようこそ] 画面 | dialogFull1.bmp |  |
| すべての画面の上部の画像 | dialogTop.bmp |  |
| 進捗ダイアログのビルボード | billboard.bmp |  |

画像をカスタマイズするには、新しい画像ファイルを作成し、カスタムリソースフォルダにファイルを配置し、設定ファイルに `resources` 要素を追加します。

例

初期画面のイメージのカスタマイズ

1. C:\ドライブに `MyResources` というフォルダを作成します。
2. `dialogFull1.bmp` という新しいイメージファイルを作成して、C:\MyResources フォルダ内に置きます。
3. 設定ファイルに以下のように `resources` 要素があることを確認します。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\MyResources"/>
```

関連情報

[リソースの変更 \[88 ページ\]](#)

5.5.9.2 使用許諾契約のカスタマイズ

インストール中にユーザに表示される使用許諾契約をカスタマイズできます。使用許諾契約は resources フォルダにテキストファイルとして保存されます。

```
dunit\product.crystalreports-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\<language code>
```

たとえば、英語の使用許諾契約書は以下の場所にあります。

```
dunit\product.crystalreports-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\en  
\license_en.rft
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

使用許諾契約書のカスタマイズするには、新しい使用許諾契約書ファイルを作成し、そのファイルをカスタムリソースフォルダ内に置いた後、設定ファイルに resources 要素を追加します。

例

英語の使用許諾契約書のカスタマイズ

英語の使用許諾契約書は以下に保存されています。

```
dunit\product.crystalreports-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\en  
\license_en.rtf
```

英語の使用許諾契約書のカスタマイズするには、以下の手順を実行します。

1. C:\ドライブに MyResources というフォルダを作成します。
2. en というフォルダを作成して、C:\MyResources フォルダ内に置きます。
3. license_en.rtf という新しい使用許諾契約書ファイルを作成し、それを C:\MyResources\en フォルダ内に置きます。
4. 設定ファイルに以下のように resources 要素があることを確認します。
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\MyResources"/>

関連情報

[リソースの変更 \[88 ページ\]](#)

5.5.10 Collaterals フォルダのアイテムの削除

SAP Crystal Reports インストールプログラムには、Collaterals フォルダにツール、サンプル、ドキュメントが含まれています。デフォルトでは、お客様に配布されるカスタマイズされたインストールプログラムにも、同じコンテンツの Collaterals フォルダが含まれます。カスタマイズされたインストールプログラムのサイズを小さくするため、Collaterals フォルダから

不要な項目を削除できます。collaterals 要素で cleanTarget="yes" および sourcePath="<full path to custom Collaterals folder>" を使用します。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="<full path to custom Collaterals folder>" />
```

i 注記

カスタマイズツールによって元のフォルダが新しいフォルダに置き換えられるようにするため、cleanTarget 属性は yes に設定する必要があります。

Collaterals フォルダからアイテムを削除する

1. 既存の Collaterals フォルダのコンテンツを、C:\MyCollaterals などの新しい場所へコピーします。
2. C:\SAPCustomTool\Collaterals から、カスタマイズされたインストールプログラムに不要な項目を削除します。
3. 設定ファイルに <collaterals> 要素を追加し、カスタム Collaterals フォルダの場所を指定します。たとえば、次のようになります。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="C:\MyCollaterals" />
```

表 18:Collaterals フォルダ内のアイテムの説明

| フォルダ | 説明 | 削除ケース |
|---|--|--|
| Collaterals > Add-Ons > SAP | SAP システムとの接続を提供します。 | このフォルダは、SAP システムに接続する必要がない場合に削除します。 |
| Collaterals > CustomizationTemplate | レポートデザイナーのカスタマイズで使用するサンプル template.zip ファイルが含まれています。 | このフォルダは、お客様がサンプル template.zip ファイルを提供する必要がない場合に削除します。 |
| Collaterals > Docs | Crystal Reports がサポートするすべての言語のドキュメントです。 | カスタマイズしたインストールプログラムに含まれていない任意の言語を削除します。言語コードの一覧については、 言語コード [107 ページ] を参照してください。 |
| Collaterals > Tools > CustomizationTool | SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールです。 | インストールプログラムをカスタマイズする必要がない場合は、このフォルダを削除します。 |

5.6 レポートデザイナーのカスタマイズ

レポートデザイナーの次のプロパティをカスタマイズできます。

- スプラッシュ画面
- 開始ページ
- メニューの文字列値

これらのカスタマイズは、プログラムをインストールした後に実行できます。また、カスタマイズされたインストールパッケージにカスタマイズをデプロイし、ユーザがプログラムをインストールするときにカスタマイズを適用できます。

5.6.1 スプラッシュ画面のカスタマイズ

Crystal Reports を実行すると、スプラッシュ画面がロードされます。このスプラッシュ画面を独自のビットマップに置き換えることができます。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports がすでにインストールされていることを前提にしています。カスタマイズされたインストールプログラムにスプラッシュ画面をデプロイする場合、スプラッシュ画面で使用するビットマップの名前を `splash.bmp` に変更し、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[95 ページ\]](#) の手順に従います。

1. スプラッシュ画面で使用するビットマップの名前を `splash.bmp` に変更します。

i 注記

ビットマップは有効な `.bmp` ファイルである必要があり、サイズは問いません。

2. `splash.bmp` を `crw32.exe` と同じフォルダ内に置きます。

デフォルトでは、`crw32.exe` は以下の場所にあります。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI
4.0\win32_x86
```

Crystal Reports を実行すると、`splash.bmp` がロードされます。ロードされない場合、デフォルトのスプラッシュ画面が代わりにロードされます。

5.6.2 開始ページのカスタマイズ

独自の HTML ファイルを使用して、開始ページのコンテンツを変更できます。カスタマイズの多くは開始ページの上の部分に影響します。SAP Crystal Reports Web ページへのリンクを含む、下の部分を削除することもできます。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports がすでにインストールされていることを前提にしています。カスタマイズされたインストールプログラムに開始ページをデプロイする場合、開始ページで使用する HTML ファイルの名前を `start.html` に変更し、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[95 ページ\]](#) の手順に従います。

1. 開始ページで使用する HTML ファイルの名前を `start.html` に変更します。
2. サポートする言語に応じた `Start Page\<language code>` サブフォルダ内に、`start.html` を置きます。

i 注記

デフォルトでは、このサブフォルダのファイルパスは以下のとおりです。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI
4.0\win32_x86\Start Page\<language code>
```

すべての言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

➡ ヒント

start.html で画像を使用する場合、画像は以下の場所に置きます。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI
4.0\win32_x86\Start Page\image
```

HTML ファイルでこのフォルダをポイントする場合、相対パスを使用する必要があります。

Crystal Reports を実行すると、start.html で行ったカスタマイズが開始ページで表示されます。

5.6.3 メニュー文字列のカスタマイズ

SAP Crystal Reports の製品名を含むメニューの文字列値を変更できます。該当する値は以下のとおりです。

表 19:

| プロパティ名 | 説明 | 場所 | デフォルト値 |
|--------------------|----------|----------------------------|-------------------------|
| ProductName | 製品名 | ウィンドウタイトル | SAP Crystal Reports |
| CrystalReportHelp | 製品ヘルプ | [ヘルプ] メニュー | SAP Crystal Reports ヘルプ |
| AboutCrystalReport | 製品ヘルプの概要 | [ヘルプ] メニュー | SAP Crystal Reports の概要 |

これらの文字列をカスタマイズするには、XML ファイルが必要です。XML ファイル名は次の形式にする必要があります。

```
crw_oem_res_<language code>.xml
```

たとえば、英語の XML ファイル名は次のとおりです。

```
crw_oem_res_en.xml
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[107 ページ\]](#)を参照してください。

i 注記

Crystal Reports がすでにインストールされている場合、XML ファイルは crw32.exe と同じフォルダにあります。デフォルトでは、以下の場所にあります。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI
4.0\win32_x86
```

特定の言語の Crystal Reports を実行する際、対応する言語の XML ファイルがロードされます。

i 注記

カスタマイズされたインストールプログラムにカスタマイズされた文字列をデプロイする場合は、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[95 ページ\]](#)の指示に従ってください。

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- ProductName 値を Custom CR に変更します。
- CrystalReportHelp 値を Custom CR help に変更します。
- AboutCrystalReport 値を About Custom CR に変更します。

```
<Root>
  <ProductName>Custom CR</ProductName>
  <MainFrameMenu>
  <Help>
    <CrystalReportHelp>Custom CR help</CrystalReportHelp>
    <AboutCrystalReport>About Custom CR</AboutCrystalReport>
  </Help>
  </MainFrameMenu>
</Root>
```

注記

- 複数の言語をサポートするには、属性のエンコードを UTF-8 にする必要があります (<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>)。また、テキストエディタで XML ファイルを保存するとき、**エンコードメニュー**で **UTF-8** を選択します。
- プロパティ名と値は同じ行になるようにしてください。たとえば、以下のようにすることができます。

```
<ProductName>Custom CR</ProductName>
```

以下のようにすることはできません。Crystal Reports の実行時に、変更された文字列内の文字が認識できなくなります。

```
<ProductName>
Custom CR
</ProductName>
```

5.6.4 OEM カスタマイズファイルのデプロイメント

カスタマイズされたファイル (スプラッシュイメージ、開始ページ、メニュー文字列) を準備した後、インストールパッケージにカスタマイズをデプロイできます。カスタマイズされたファイルを zip ファイル内に配置します。

1. template.zip という名前の zip ファイルを作成します。
2. カスタマイズされたファイルを zip ファイル内に配置します。

注記

zip ファイル内のフォルダの構造は、インストールフォルダを基準にして、ファイルを配置するフォルダの構造と一致している必要があります。ファイルは template.zip 内の SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win32_x86 に配置されている必要があります。

たとえば、以下のカスタマイズされたファイルは template.zip 内の以下の場所に配置されます。

表 20:

| カスタマイズされたファイル | template.zip 内の場所 |
|--------------------|--|
| splash.bmp | SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win32_x86 |
| start.html (英語用) | SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win32_x86\Start Page\en |
| crw_oem_res_en.xml | SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win32_x86 |

3. zip ファイルを以下の場所にコピーします。

dunit\product.crystalreports.oemzips-4.0-core-nu\OEMZips

注記

OEMZips フォルダは手動での作成が必要な場合があります。

4. インストーラを実行します。

template.zip のコンテンツがインストールフォルダに解凍されます。

注記

SAP Crystal Reports のインストールパッケージで、サンプル zip ファイルは以下の場所にあります。

Collaterals\CustomizationTemplate\template.zip

5.7 ツールの実行

SAP BusinessObjects カスタマイズツール (customizationtool.exe) は、SAP Crystal Reports インストールパッケージ内の以下の場所に含まれています。

Collaterals\Tools\CustomizationTool

この節では、このツールに使用するコマンドラインパラメータについて説明します。

注記

SAP BusinessObjects カスタマイズツールの処理の完了には、しばらく時間がかかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

例

この例は、カスタマイズツールを実行し、C:\ ドライブにログファイルを作成します。この例を使用するには、以下を実行する必要があります。

- C:\SAPCustomTool に、設定ファイル oem.xml を作成します。

- Crystal Reports インストールパッケージを C:\SAPCustomTool\packages にダウンロードします。[インストールプログラムをダウンロードする \[74 ページ\]](#)を参照してください。
- C:\SAPCustomTool に output フォルダを作成します。
- コマンドプロンプトで次のコマンド `cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools`
`\CustomizationTool` を実行します。

```
customizationtool.exe xml=C:\SAPCustomTool\oem.xml packageDir=C:\SAPCustomTool
\packages
outputDir=C:\SAPCustomTool\output logDetail=error > C:\oemlog.log
```

SAP BusinessObjects カスタマイズツールの実行方法の詳細については、[Crystal Reports のクイックスタート \[73 ページ\]](#)を参照してください。

5.7.1 コマンドラインパラメータ

表 21: 必須パラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 |
|------------|--|--------------------------------------|
| xml | 設定ファイルへの完全パス フルインストールプログラムの設定ファイルは、任意の名前にすることができます。 | xml=C:\SAPCustomTool\oem.xml |
| packageDir | 変更するインストールプログラムを含むフォルダへの完全パスです。 インストールプログラムは、SAP Crystal Reports のインストールを開始するために SAP Service Marketplace からダウンロードされます。それには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。 | packageDir=C:\SAPCustomTool\packages |
| outputDir | カスタマイズしたインストールプログラムが作成されるフォルダへの完全パスです。ツール実行前は空である必要があります。 | outputDir=C:\SAPCustomTool\output |

表 22:オプションパラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 |
|--------------|---|--|
| baselinePath | <p>カスタマイズした以前の完全インストールプログラムまたはアップデートインストールプログラムのすべてに関するオリジナルのカスタマイズされていないバージョンを含むルートフォルダの完全パス。</p> <p>セミコロン (;) を使用して、複数のルートフォルダを区切ります。</p> | <p>SAP Crystal Reports 2011 サポートパッケージ 5 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 2011 (完全インストール)、2011 SP4 をすでにカスタマイズしているとします。この場合、2011 サポートパッケージ 5 をカスタマイズし、2011 メジャーリリースおよびサポートパッケージ 4 リリースのカスタマイズされていないパッケージのルートフォルダパスを指定します。たとえば、カスタマイズされていないパッケージが次のディレクトリ構造内にあるとします。</p> <pre>C:\productUpdates\2011\ \2011 Full\ \SP4\</pre> <p>この場合、値を baselinePath=C:\productUpdates\2011\ に設定します。</p> <p>baselinePath パラメータの詳細および例については、アップデートインストールプログラムのカスタマイズ [99 ページ]を参照してください。</p> |
| logDetail | <p>ログファイルに記録される情報のレベルです。デフォルト値は info です。使用できる値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> error warn info debut trace | logDetail=warn |
| action | <p>ツールモード。使用できる値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> generate (デフォルト値) ツールは指定したカスタマイズを実行します。 validate ツールは設定ファイルを検証しますが、カスタマイズは実行しません。 | action=validate |

関連情報

[Crystal Reports のクイックスタート \[73 ページ\]](#)

5.8 アップデートインストールプログラムのカスタマイズ

アップデートインストールプログラムとは、既存の SAP Crystal Reports ソフトウェアに対するアップデートを含むサポートパッケージまたはパッチのことです。サポートパッケージはパッチより多くの更新が含まれますが、更新頻度は少なくなります。SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを使用してこれらのインストールプログラムをカスタマイズできますが、コマンドラインおよび設定ファイルの修正が必要になります。

5.8.1 アップデートインストールプログラムに関するよくある質問

サポートパッケージとパッチの入手場所

1. <https://support.sap.com/home.html> > [Software Downloads] に移動します。
2. ソフトウェアの検索タブで A-Z Index の下の Support Packages and Patches をクリックします。
3. [C] > [CRYSTAL REPORTS] > [CRYSTAL REPORTS 2011] > [構成ソフトウェアコンポーネントバージョン] > [CRYSTAL REPORTS 2011] > [IA32 32 ビット上の Windows Server] を選択します。
4. サポートパッケージまたはパッチを選択し、Web サイトの説明に従ってオブジェクトをダウンロードおよび抽出します。

カスタマイズできるのはアップデートインストールプログラムのどの部分ですか。

アップデートインストールプログラムにもメインインストールプログラムでのカスタマイズと同様のカスタマイズを行うことができます。サポートパッケージおよびパッチアップデートにあるインストール画面の数が少ないため、すべてのカスタマイズ手順を適用できるわけではありません。サポートパッケージやパッチは、必要なカスタマイズを判断するため、カスタマイズする前にそれらを実行することをお勧めします。

アップデートインストールプログラムはどのようにカスタマイズできますか。

アップデートインストールプログラムは Crystal Reports (完全インストール) のメインインストールプログラムと同じアーキテクチャを使用しているため、コマンドラインと設定ファイルを一部変更することで、[設定ファイルの作成 \[76 ページ\]](#)および[ツールの実行 \[96 ページ\]](#)に記載されているようにカスタマイズツールを使用できます。詳細については、この節の[アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法 \[101 ページ\]](#)を参照してください。

すべてのサポートパッケージおよびパッチアップデートのカスタマイズとインストールが必要ですか。

いいえ。Crystal Reports のカスタマイズされていないバージョンでは、必要な更新のインストールのみでかまいません。サポートパッケージ、パッチ、またはその両方です。

Crystal Reports のカスタマイズされたインストールに対してカスタマイズされていないアップデートをインストールできますか。

はい。カスタマイズの有無に関係なくサポートパッケージまたはパッチが、カスタマイズされたインストールに適用される可能性があります。ただし、カスタマイズされていないサポートパッケージまたはパッチのインストールプログラムには、ユーザのブランドまたはメインのインストールプログラム向けに作成したインストールのカスタマイズは表示されません。

Crystal Reports のカスタマイズされたバージョンをお客様に配布していますが、アップデートインストールプログラムのカスタマイズを変更したいと思います。これは可能でしょうか。

このシナリオはサポートされていません。サポートパッケージおよびパッチに対して行ったカスタマイズは、オリジナルのカスタマイズと整合する必要があります。

5.8.2 アップデートインストールプログラムのクイックスタート

[Crystal Reports のクイックスタート \[73 ページ\]](#)の説明に従ってメイン (完全) インストールプログラム (SAP Crystal Reports) のカスタマイズとインストールが完了しており、カスタマイズされていないインストールパッケージが C:\SAPCustomTool\packages にあることを確認します。

この節では、SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールを実行して、サポートパッケージのインストールプログラムをカスタマイズする方法を説明します。カスタマイゼーションツールに付属するサンプル設定ファイルを使用します。サンプル設定ファイルに、メインインストールプログラムの <cloneProduct> 要素、サポートパッケージインストールプログラムの <clonePatchProduct> 要素があることを確認します。

i 注記

この例は、サポートパッケージが <https://support.sap.com/home.html> で利用できる場合にのみ実行できます。

1. Crystal Reports サポートパッケージのインストールプログラムを C:\SAPCustomTool\SupportPackage フォルダへダウンロードします。
2. 設定ファイル内の <clonePatchProduct> 要素の product_cr_version が、ダウンロードしたサポートパッケージのバージョン番号と一致していることを確認します。[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[78 ページ\]](#)を参照してください。
3. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。`cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool`
4. Crystal Reports サポートパッケージをカスタマイズし、以下のコマンドを使用して、カスタマイズしたインストールプログラムを C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage に置きます。
`customizationtool.exe xml=example_customization_win_cr.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\SupportPackage baselinePath=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage logDetail=error > C:\oemlog_SP02.log`
5. C:\SAPCustomTool\output\SupportPackage\setup.exe を使用して、Crystal Reports サポートパッケージ用にカスタマイズしたインストールプログラムを実行します。

5.8.3 アップデートインストールプログラムのカスタマイズ方法

設定ファイルの作成 [76 ページ] および ツールの実行 [96 ページ] に記載の設定ツールを使用して、以下の相違点を踏まえて、サポートパッケージとパッチのアップデートインストールプログラムをカスタマイズします。

- 設定ファイルには、cloneProduct 要素ではなく、正しい製品 ID の clonePatchProduct 要素が必要です。
- 設定ファイルには、更新するメインインストールパッケージの完全な <cloneProduct> 要素が含まれている必要があります。含まれていない場合、特に機能の削除などのカスタマイズを実行している場合に予測できない結果が生じる場合があります。
- 設定ファイルには複数の clonePatchProduct を含めることができません。サポートパッケージとパッチの両方をカスタマイズする場合、2 つの設定ファイル (サポートパッケージの cloneProduct と clonePatchProduct がある設定ファイルと、パッチの cloneProduct と clonePatchProduct がある設定ファイル) を作成する必要があります。
- baselinePath コマンドを使用して、前提条件となるすべてのインストールプログラムのパスを指定してください。

すべての設定ファイル要素およびコマンドラインパラメータをアップデートインストールプログラムのカスタマイズに使用できますが、それらすべてがサポートパッケージとパッチに適用されるわけではありません。最初にサポートパッケージまたはパッチのインストールプログラムを実行してカスタマイズする個所を判断し、[設定ファイルの作成 \[76 ページ\]](#) および [Crystal Reports のカスタマイズで使用する ID とコード \[103 ページ\]](#) に記載の情報を使用してカスタマイゼーションファイルを作成します。

設定ファイルで製品バージョンを指定する

アップデートインストールプログラムの設定ファイルには、次のように clonePatchProduct 要素に製品バージョンを含める必要があります。

```
<oem name="<any name>">
  <clonePatchProduct sourceId="<product version>">
    ...
  </clonePatchProduct>
</oem>
```

設定ファイルの product version は、カスタマイズするインストールプログラムのバージョン番号と一致している必要があります。バージョン番号を参照するには、dunit フォルダで次の形式の名前のフォルダを検索します。

product.cr.patch-4.x.x.x-core-32

このフォルダの名前を product version として使用できます。

例

この例の設定ファイルは、製品バージョンが product.cr.patch-4.1.0.1-core-32 の SAP Crystal Reports 2011 パッチ 1 をカスタマイズします。また、製品のロングネームを *Custom Company Crystal Reports* に変更し、ショート名を *Custom CR* に変更します。

```
<oem name="Custom Patch Tool">
  <clonePatchProduct sourceId="product.cr.patch-4.1.0.1-core-32">
    ...
  </clonePatchProduct>
</oem>
```

baselinePath パラメータを使用する

コマンドラインパラメータの `baselinePath` を使用して、カスタマイズした以前の完全インストールプログラムまたはアップデートインストールプログラムのすべてに関するオリジナルのカスタマイズされていないバージョンを含むルートフォルダのパスを指定します。そのため、オリジナルのインストールパッケージを保管する必要があります。

i 注記

このパラメータは、2011 Feature Pack 3 で導入された `baselinePackages` パラメータに置き換わるものです。

`baselinePath` パラメータの値を単純化するために、1つのルートフォルダのパスを指定します。この場合、カスタマイゼーションツールでは不要なファイルとフォルダが無視されます。または、`baselinePath` の値でセミコロン (;) を使用して、複数のルートフォルダを指定します。次の例を考えてみます。

例

Crystal Reports 2011 SP5 のカスタマイズ

Crystal Reports 2011 サポートパッケージ 5 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 2011 (完全インストール)、2011 SP4 をすでにカスタマイズしているとします。また、カスタマイズされていないインストールプログラムが次のディレクトリ構造内にあるとします。

```
C:\productUpdates\2011\  
  \2011 Full\  
  \SP4\
```

`baselinePath` パラメータを次の値に設定します。

```
baselinePath=C:\productUpdates\2011\  

```

例

Crystal Reports 2011 SP5 Patch 2 のカスタマイズ

Crystal Reports 2011 サポートパッケージ 5 パッチ 2 をカスタマイズしようとしており、以前のプログラム 2011 (完全インストール)、2011 SP4、2011 SP5、2011 SP5 Patch 1 をすでにカスタマイズしているとします。また、カスタマイズされていないインストールプログラムが次のディレクトリ構造内にあるとします。

```
C:\productUpdates\2011\  
  \2011 Full\  
  \SP4\  
  \SP5\  
  \SP5 Patch 1\  

```

`baselinePath` パラメータを次の値に設定します。

```
baselinePath=C:\productUpdates\2011\  

```

関連情報

[コマンドラインパラメータ \[97 ページ\]](#)

5.9 Crystal Reports のカスタマイズで使用する ID とコード

次の節には、インストールプログラムのカスタマイズに使用できるすべての ID とコードの一覧があります。

- 機能 ID
- ショートカットデプロイメントユニット ID
- 文字列 ID
- 言語コード
- インストール画面とプロパティ ID

5.9.1 機能 ID

`removeFeature` 要素で機能 ID を使用して、機能とそのコンポーネントをインストールプログラムおよびインストール済み製品から削除します。

たとえば、`<removeFeature id="Mapping"/>` という ID では、データと地域の関係の表示のサポートが削除されます。

以下のコンポーネントの機能を削除できます。

- データアクセス
- エンタープライズシステム統合
- エクスポートサポート
- その他

表 23: データアクセス

| 機能 ID | 説明 |
|------------------|--------------------------|
| DataAccess | データアクセス |
| Access | Microsoft Access |
| ADO.NET | ADO.NET |
| BDE | IDAPI データベース DLL |
| Btrieve | 一般的なデータベースドライバ (Btrieve) |
| COMData | COM データプロバイダ |
| Comm_Rep | リポジトリのコマンド |
| DB2 | IBM DB2 |
| dBase | dBase |
| Exchange | Microsoft Exchange |
| FieldDefinitions | フィールド定義 |
| FileSystem | ファイルシステム |
| HPNeoview | HP Neoview |

| 機能 ID | 説明 |
|------------------------|-----------------------|
| Informix | Informix |
| JavaData | Java データプロバイダ |
| JDBC | JDBC (JNDI) データドライバ |
| MicrosoftOutlook | Microsoft Outlook |
| MyCube | OLAP キューブ |
| MYSQL_DataAccess | MySQL |
| NCRTeradata | NCRTeradata |
| NETEZZA | NETEZZA |
| NTEventLog | NT イベントログ |
| OLE_DB_Data | OLE DB データ |
| OptionalDataDirectODBC | DataDirect ODBC |
| Oracle | Oracle |
| Progress.OpenEdge | Progress OpenEdge |
| RDO | ODBC RDO |
| SFORCE | Salesforce.com ドライバ |
| SIEBEL | Siebel |
| Sybase | Sybase |
| SymantecACT | ACT! |
| ユニバース | BusinessObjects ユニバース |
| UWSC | ユニバーサル Web サービスコネクタ |
| WebActivityLog | Web 利用状況ログ |
| XML | XML ドライバ |

表 24:エンタープライズシステム統合

| 機能 ID | 説明 |
|--------------------|--------------------------|
| IntegrationOptions | 統合オプション |
| EBS | Oracle E-Business Suite |
| JDE | JD Edwards EnterpriseOne |
| PSFT | PeopleSoft Enterprise |
| SAP | SAP ソリューション |
| SIEBEL | Siebel |

表 25:エクスポートサポート

| 機能 ID | 説明 |
|--------------------|----------------------------------|
| アプリケーション | アプリケーションへのエクスポート |
| CharacterSeparated | 文字区切り形式 |
| CrystalReports | Crystal Reports 形式 |
| DiskFile | ファイルへのエクスポート |
| Excel | Microsoft Excel 97-2003 形式 |
| ExchangeFolders | Exchange フォルダ |
| HTML | HTML 3.2 および HTML 4.0 (DHTML) 形式 |
| LegacyXMLExport | レガシー XML 形式 |
| LotusNotes | Lotus Notes ドキュメント |
| LotusNotesMail | Lotus Domino |
| ODBC | インストールされている ODBC 形式へのエクスポート |
| PDF | PDF 形式 |
| Record | レコードスタイル形式 |
| ReportDefinition | レポート定義形式 |
| RichTextFormat | リッチテキスト形式 |
| テキスト | テキスト形式 |
| WordforWindows | Microsoft Word 97-2003 形式 |
| XMLExport | XML ドキュメント |

表 26:その他

| 機能 ID | 説明 |
|--------------------|--------------------------|
| CrystalReportsRoot | Crystal Reports 2011 |
| crw | Crystal Reports Designer |
| Mapping | 地理マップ |
| MicrosoftMail | Microsoft Mail 送信先 |
| PGEEditor | カスタムチャート |
| UploadWizard | レポートアップロードウィザード |

関連情報

[機能の削除 \[87 ページ\]](#)

5.9.2 ショートカットデプロイメントユニット ID

shortcut 要素でデプロイメントユニット ID を使用して、Windows の [\[スタート\]](#) メニューに表示されるプログラムショートカットの場所と名前を変更します。

表 27: ショートカットデプロイメントユニット ID

| ショートカットデプロイメントユニット ID | ショートカットターゲット |
|--|----------------------|
| product.crystalreports.shortcut.crw-4.0-core | Crystal Reports 2011 |
| product.crystalreports.shortcut.odbc-4.0-core | ODBC データソースアドミニストレータ |
| product.crystalreports.shortcut.rptpubwiz-4.0-core | レポートアップロードウィザード |

関連情報

[Windows の \[スタート\] メニューショートカットのカスタマイズ \[80 ページ\]](#)

5.9.3 文字列 ID

インストールプログラムのすべての文字列の値を変更できます。すべての言語および特定の言語に対して文字列を置き換えることができます。たとえば、replaceString 要素を使用して、次のように設定します。

```
<replaceString id="product.cr_name" value="Custom Company Crystal Reports lang="all"/>
```

表 28: よく変更される文字列

| 文字列 ID | 説明 |
|-------------------------|--------------|
| product.cr_name | 製品のロング名 |
| product.cr_shortcode | 製品のショート名 |
| product_cr_version | 製品のバージョン |
| product_cr_majorversion | 製品のメジャーバージョン |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[78 ページ\]](#)

5.9.4 言語コード

SAP BusinessObjects カスタマイゼーションツールでは、これらの言語コードを使用して、次のサポートされている言語を表します。

表 29:

| 言語 | コード |
|-----------------|-------|
| 英語 | EN |
| チェコ語 | CS |
| デンマーク語 | DA |
| オランダ語 | NL |
| フィンランド語 | FI |
| フランス語 | FR |
| ドイツ語 | DE |
| ハンガリー語 | HU |
| イタリア語 | IT |
| 日本語 | JA |
| 韓国語 | KO |
| ノルウェー語 (ブークモール) | NB |
| ポーランド語 | PL |
| ポルトガル語 | PT |
| ルーマニア語 | RO |
| ロシア語 | RU |
| 簡体字中国語 | zh_CN |
| スロバキア語 | SK |
| スペイン語 | ES |
| スウェーデン語 | SV |
| タイ語 | TH |
| 繁体字中国語 | zh_TW |
| トルコ語 | TR |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[78 ページ\]](#)

[Windows の \[スタート\] メニューショートカットのカスタマイズ \[80 ページ\]](#)

[Windows の \[プログラムの追加と削除\] ユーティリティのカスタマイズ \[83 ページ\]](#)

[言語パックの削除 \[88 ページ\]](#)

[使用許諾契約のカスタマイズ \[91 ページ\]](#)

[メニュー文字列のカスタマイズ \[94 ページ\]](#)

5.9.5 インストール画面とプロパティ ID

インストールプログラムから画面を削除するには、removeDialog 要素でインストール画面 ID を使用します。たとえば、次の要素を使用して [機能の選択](#) 画面を削除します。

```
<removeDialog id="SelectFeatures.dialog"/>
```

プロパティ ID とプロパティ値を使用して、ユーザ入力を事前設定します。たとえば、この要素を使用して、デフォルトのインストールタイプを [\[custom\]](#) に設定するには、次のようにします。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
```

表 30:画面 ID

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | インストール画面内のプロパティ ID | プロパティ値 |
|-------------------|-----------------------------|-------------------------------|---|
| セットアップ言語を選択してください | SelectUILanguage.dialog | SortedAvailableSetupLanguages | サポートされている設定言語を表す言語コードのセット |
| | | SetupUILanguage | 設定言語を表す単一の言語コード |
| インストールが続行できません | SharedAlwaysFailure.dialog | 適用外 | 適用外 |
| インストールタイプの選択 | ChooseInstallType2.dialog | InstallType | <ul style="list-style-type: none">default (標準)custom |
| 要件の確認 | CheckPreRequisites.dialog | 適用外 | 適用外 |
| インストールウィザードへようこそ | ShowWelcomeScreen.dialog | 適用外 | 適用外 |
| 使用許諾契約 | ShowLicenseAgreement.dialog | 適用外 | 適用外 |
| ユーザ情報 | CREnterProductKey.dialog | RegisteredUser | ユーザ名 |
| | | RegisteredCompany | 会社名 |
| | | ProductKey | 製品キーコード |
| インストール先フォルダの指定 | ChooseInstallDir.dialog | InstallDir | インストールフォルダのファイルパス |
| 言語パックの選択 | SelectLanguagePack.dialog | SelectedLanguagePacks | 言語コードの配列 |
| 機能の選択 | SelectFeatures.dialog | 適用外 | 適用外 |

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | インストール画面内のプロパティ ID | プロパティ値 |
|--|--|-------------------------|--|
| SAP Crystal Reports 2011 は正常にインストールされました | ShowInstallComplete.dialog | 適用外 | 適用外 |
| SAP Crystal Reports 2011 は正常にインストールされました | ShowInstallComplete_PatchUpdate.dialog | 適用外 | 適用外 |
| インストールの開始 | ShowInstallSummary.dialog | 適用外 | 適用外 |
| アンインストール確認 | VerifyToRemove.dialog | 適用外 | 適用外 |
| Web アップデートサービスオプション | ShowPrivacyStatement.dialog | DisableWebUpdateService | <ul style="list-style-type: none"> 0 (Web アップデートサービスを有効にする) 1 (Web アップデートサービスを無効にする) |
| SAP Crystal Reports 2011 は正常にアンインストールされました | ShowUninstallComplete.dialog | 適用外 | 適用外 |

6 SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズ

6.1 はじめに

SAP Crystal Reports for Enterprise は、パートナーが再パッケージして販売することができます。特定の顧客ベースをターゲットにしたり、独自の製品として再販するために、インストールされている製品およびインストールプログラムをカスタマイズすることができます。SAP BusinessObjects カスタマイズツールは、SAP Crystal Reports for Enterprise およびそのインストールプログラムを、次のような変更でカスタマイズできます。

- 製品サイズの縮小
- 製品名の変更
- インストールプログラムのデフォルトプロパティの変更
- インストールプログラムの画面の非表示

カスタマイズを行うには、設定ファイルを記述してカスタマイズを指定した後、SAP BusinessObjects カスタマイズツールを実行して、カスタマイズされたインストールプログラムを作成します。その後、お客様はこのインストールプログラムを使用して、製品のカスタマイズされたバージョンをインストールできます。

6.2 Crystal Reports for Enterprise のクイックスタート

この節では、カスタマイズツールを実行して、SAP Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズされたインストールプログラムを作成する方法について説明します。カスタマイズには、デフォルトのインストールタイプの変更、いずれかのインストール画面の削除、および製品名の変更が含まれます。このチュートリアルを完了すると、カスタマイズしたインストールパッケージを実行して、Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズされたバージョンをインストールできます。

1. SAP BusinessObjects カスタマイズツールを設定します。
 - a. 開発マシン上に C:\SAPCustomTool\packages の作業フォルダを作成します。
 - b. Crystal Reports for Enterprise インストールパッケージのコンテンツを C:\SAPCustomTool\packages にコピーします。

インストールプログラムには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。インストールプログラムのダウンロード手順については、[インストールプログラムのダウンロード \[112 ページ\]](#) を参照してください。
 - c. BI プラットフォームインストールパッケージから、Collaterals\Tools フォルダをコピーして、これを C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals に貼り付けます。

ツールフォルダには、Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズで使用する SAP BusinessObjects カスタマイズツールが含まれます。BI プラットフォームインストールパッケージのダウンロードの詳細については、[サーバイnstallプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#) を参照してください。
 - d. 次のフォルダを作成します。C:\SAPCustomTool\output

i 注記

カスタマイズツールを実行するために、このフォルダを空にする必要があります。

2. 設定ファイルを作成します。

- a. 以下のコードをコピーして、これをテキストエディタに貼り付けます。

```
<oem name="CustomCompanyCrystalReports">
  <cloneProduct sourceId="product.crystalreportsjava-4.0-core-32">

    <!-- Remove the ProductKey dialog and set the default product key -->
    <removeDialog id="CREnterProductKey.dialog"/>
    <replaceProperty id="ProductKey" defaultValue="PLEASE SET"/>

    <!-- Set the default installation type to "Custom" -->
    <replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>

    <!-- Specify the languages to keep in the OEM package. All other
    language packs will be removed -->
    <languageIncludeList value="en;fr;de"/>
    <!-- Update the product name in each language. Rebrands the UI dialog
    title. -->
    <!-- The value for the lang attribute can be a single language code,
    "all", or a CSV "en;fr;ja" -->
    <replaceString id="product.crjava_name" value="Custom Company Crystal
    Reports" lang="all"/>

    <!-- Create a custom Windows Add/Remove Programs entry with a new
    display name and publisher -->
    <arp duSourceId="product.crystalreportsjava.arp-4.0-core">
      <arg id="publisher" value="Custom Company"/>
      <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports for
    Enterprise" lang="all"/>
    </arp>

    <!-- Create a new Crystal Reports shortcut in the Start menu by
    specifying where you want it with the fullLinkPath argument. Set its tooltip
    description with the description argument -->
    <shortcut duSourceId="product.crystalreportsjava.shortcut-4.0-
    core">
      <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Custom Company
    \Custom CR for Enterprise.lnk" lang="en"/>
      <arg id="description" value="Launch Custom CR for Enterprise"
    lang="en"/>
    </shortcut>

  </cloneProduct>
</oem>
```

- b. ファイルを C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_cre.xml という名前で保存します。

3. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool
```

CustomizationTool フォルダには、customizationtool.exe という実行可能ファイルと、前のステップで作成した設定ファイル (example_customization_win_cre.xml) が含まれます。

4. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
customizationtool.exe xml=example_customization_win_cre.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\packages outputDir=C:\SAPCustomTool\output logDetail=error > C:\oemlog.log
```

注記

カスタマイゼーションツールの完了には数分かかる場合があります。ログファイル (C:\oemlog.log) を表示して進捗状況を確認することができます。

C:\SAPCustomTool\output フォルダに、カスタマイズされたインストールパッケージが作成されたことを確認します。ログファイルにエラーが記録されていないことを確認します。

5. C:\SAPCustomTool\output\setup.exe を使用して、カスタマイズされた Crystal Reports for Enterprise インストールプログラムを実行します。

インストールプログラムを実行すると、Crystal Reports for Enterprise が、C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool\example_customization_win_cre.xml に格納されている設定ファイルに記載されているカスタマイズでインストールされます。

6.3 インストールプログラムのダウンロード

1. <https://support.sap.com/home.html> に移動して、[ソフトウェアダウンロード] を選択します。
2. [ソフトウェアの検索] タブで [A-Z Index] の下の [Installations and Upgrades] を選択します。
3. ▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ を選択します。
4. SBOP BI Platform 4.1 を選択します。
5. ▶ Installation and Upgrade ▶ WINDOWS ▶ を選択します。
6. [SAP Crystal Reports for Enterprise 4.1 <version> Windows (32B)] というタイトルのオブジェクトを選択した後、Web サイトにある指示に従ってオブジェクトをダウンロードし、解凍します。

注記

ソフトウェアのダウンロードには時間がかかる場合があります。また、システム管理者に連絡して、会社のファイアウォールによってダウンロード処理が終了されないようにする必要がある場合があります。

6.4 カスタマイズプロセスの計画

SAP BusinessObjects カスタマイズツールを使用するには次を実行します。

1. SAP Crystal Reports for Enterprise インストールプログラムをダウンロードします。
詳細については、[インストールプログラムのダウンロード \[112 ページ\]](#) を参照してください。

2. Collaterals\Tools フォルダを BI プラットフォームインストールプログラムから作業フォルダの Collaterals サブフォルダにコピーすることで、SAP BusinessObjects カスタマイズツールを設定します。
BI プラットフォームインストールプログラムのダウンロードの詳細については、[サーバインストールプログラムをダウンロードする \[17 ページ\]](#) を参照してください。
3. 必要なカスタマイズを決定します。
4. 設定ファイルを作成してカスタマイズを指定します。
詳細については、[設定ファイルの作成 \[114 ページ\]](#) を参照してください。
5. カスタマイズツールを実行して、カスタマイズしたインストールプログラムを作成します。
6. カスタマイズしたインストールプログラムを実行して、カスタマイズされたバージョンの SAP Crystal Reports for Enterprise をインストールします。

6.4.1 ベストプラクティス

この節では、カスタマイズしたインストールプログラム作成のための推奨事項を説明します。

設定ファイルの検証

ツールを実行する前に設定ファイルを検証することをお勧めします。コマンドラインパラメータ `validate` を使用します。

製品サイズの縮小

ユーザは、より小さいインストールプログラムやより小さいインストール済み製品を好みます。製品をできるだけ小さくするために次を実行します。

- 不要な任意の言語パックを削除します。
- Collaterals フォルダから不要な任意のアイテムを削除します。

カスタマイズした名前の一貫した割り当て

製品名とバージョン番号は、インストールプログラムおよびインストールした製品の複数の場所に表示されます。次の場所のカスタマイズを確認してください。

- インストールプログラムおよび製品の製品名と製品バージョン
- Windows の [スタートメニューエントリ](#)
- Windows の [プログラムの追加と削除](#) ユーティリティ

すべての言語で名前の変更を検討する

サポートされるすべての言語でカスタマイズした名前の表示を考慮することをお勧めします。

関連情報

[コマンドラインパラメータ \[135 ページ\]](#)

6.5 設定ファイルの作成

次の節では、設定ファイルの編集によるインストールプログラムのカスタマイズについて説明します。

- 製品名の変更。次の項目が関連します。
 - 製品名とバージョン番号のカスタマイズ
 - Windows の [スタートメニュー](#) のショートカットのカスタマイズ
 - Windows の [プログラムの追加と削除](#) ユーティリティのカスタマイズ
- デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ
- インストール画面の削除
- 要件の確認の回避
- 言語パックの削除
- リソースの変更。次の項目が関連します。
 - インストールプログラム内の画像の変更
 - 使用許諾契約の変更
- Collaterals フォルダのアイテムの削除

6.5.1 設定ファイルの概要

SAP BusinessObjects カスタマイズツールは、設定ファイルの情報をを使用してカスタマイズを実行します。設定ファイルは XML ドキュメントです。XML 要素を使用してカスタマイズを記述します。

ファイルは次の形式である必要があります。

```
<oem name="<Any name>">
  <cloneProduct sourceId="product.crystalreportsjava-4.0-core-32">
    ...
  </cloneProduct>
</oem>
```

フルインストールプログラムの設定ファイルは、任意の名前にすることができます。たとえば、`oem.xml` のような名前にすることができます。

i 注記

設定ファイルは、正しい XML 構文で記述する必要があります。XML エディタを使用してファイルの作成と編集を行い、ツールを実行する前に形式が正しいことを確認してください。

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- 製品ロング名をすべての言語で *Custom Company Crystal Reports for Enterprise* に変更します。
- *Windows のプログラムの追加と削除* エントリの発行者と製品名を変更します。
- インストール画面 *インストールタイプの選択* を削除し、インストールタイプを *カスタム* に設定します。
- 英語、フランス語、ドイツ語の言語パッケージのみをインストールパッケージに含めることを指定します。

```
<oem name="CustomCompanyCrystalReportsforEnterprise">
  <cloneProduct sourceId="product.crystalreportsjava-4.0-core-32">
    <replaceString id="product.crjava_name" value="Custom Company Crystal
Reports for Enterprise" lang="all"/>
    <arp duSourceId="product.crystalreportsjava.arp-4.0-core">
      <arg id="publisher" value="Custom Company"/>
      <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports for
Enterprise" lang="all"/>
    </arp>
    <replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
    <removeDialog id="ChooseInstallType2.dialog"/>
    <languageIncludeList value="en;fr;de"/>
  </cloneProduct>
</oem>
```

6.5.2 製品名の変更

製品の名前の変更は、以下をカスタマイズすることにより行うことができます。

- 製品名とバージョン番号
- *スタートメニュー* エントリおよびショートカット
- *Windows のプログラムの追加と削除* エントリ

次の節では、これらのカスタマイズについて説明します。

6.5.2.1 製品名とバージョン番号のカスタマイズ

製品名とバージョン番号をカスタマイズすることができます。replaceString 要素でカスタマイズする文字列 ID を指定します。

```
<replaceString id="<string id>" value="<new value>" lang="<language list>"/>
```

製品の完全名は、製品ロング名とバージョン番号で構成されます。

表 31:製品名とバージョン番号

| 文字列の説明 | 文字列 ID | デフォルト値 |
|----------|---------------------|--------------------------------|
| 製品のロング名 | product.crjava_name | Crystal Reports for Enterprise |
| 製品のバージョン | product_version | 4.1 |

言語ごとに異なる名前とバージョン番号を指定することができます。言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- 製品ロング名を英語で“Custom Company Crystal Reports for Enterprise”に変更します。
- 製品ロング名をフランス言で“Custom Company Crystal Reports for Enterprise (French)”に変更します。
- 製品バージョンをフランス語と英語の両方で 1.0 に変更します。

英語とフランス語以外の言語では、製品名とバージョン番号はデフォルト値のままです。

```
<replaceString id="product.crjava_name" value="Custom Company Crystal Reports for Enterprise" lang="en"/>
<replaceString id="product.crjava_name" value="Custom Company Crystal Reports for Enterprise (French)" lang="fr"/>
<replaceString id="product_version" value="1.0" lang="en;fr"/>
```

インストールプログラムから“SP3”のインスタンスを削除する

インストールプログラムを実行するときに、製品名に“SP3”のインスタンスが表示される場合があります。“SP3”を削除するには、次のファイルの行を修正します。

表 32:

| ファイル名 | 元の行 | 変更された行 |
|---|---|---|
| dunit \product.crystalreportsjava -4.0- core-32\setup.ui.framework \uitext\CrystalReportsJava \product.lang_<language code>.uitext.xml | <string id="productname_patch" value="#product_patch#"/> | <string id="productname_patch" value=""/> |
| dunit \product.crystalreportsjava -4.0- core-32\setup.ui.framework \uitext\framework \setup.ui.framework.lang_<l anguage code>.uitext.xml | <string id="product_patch" value=" SP3"/> | <string id="product_patch" value=""/> |

| ファイル名 | 元の行 | 変更された行 |
|-------|--|---|
| 同上 | <string id="product_patch_prespace" value=" SP3"/> | <string id="product_patch_prespac e" value=""/> |

インストールプログラムでサポートされる各言語で 1 つのファイルを変更する必要があります。言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。カスタマイズツールを実行し、次にインストールプログラムを実行すると、すべての“SP3”インスタンスが削除されます。

例

英語のインストールプログラムから“SP3”を削除するには、次のファイルを変更します。

- product.lang_en.uitext.xml
- setup.ui.framework.lang_en.uitext

6.5.2.2 Windows のスタートメニューショートカットのカスタマイズ

Windows の[スタートメニュー](#)には、SAP Crystal Reports for Enterprise のショートカットが含まれます。このショートカットは、*SAP Crystal Reports for Enterprise 4* という名前で[スタートメニュー](#)エントリに配置されます。各言語で、ショートカットの名前、場所、ツールヒントをカスタマイズできます。

ショートカットの名前、場所、ツールヒントをカスタマイズするには、`shortcut` 要素を使用します。

```
<shortcut duSourceId="<shortcut deployment unit ID>">
  <arg id="linkFullPath" value="<full path to shortcut link>" lang="<language list>" />
  <arg id="description" value="<tooltip string>" lang="<language list>" />
</shortcut>
```

表 33:

| 属性 | 値 |
|--------------|---|
| duSourceId | 変更するショートカットデプロイメントユニット ID product.crystalreportsjava.shortcut-4.0 |
| linkFullPath | ショートカットリンクへの完全パス。ショートカットリンクには .lnk を付ける必要があります。付けなかった場合、リンクは作成されません。リンクは スタートメニュー 内やデスクトップ上に配置できます。SAP BusinessObjects カスタマイズツールで、リンクが正しく作成されます。 言語ごとに 1 つのリンクを指定することができます。言語コードの一覧については、 言語コード [137 ページ] を参照してください。 |
| description | マウスをショートカットの上に置くと表示されるツールヒントの文字列。 言語ごとに 1 つのツールヒントを指定することができます。言語コードの一覧については、 言語コード [137 ページ] を参照してください。 |

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- 英語で、ショートカットの名前を “Custom CR for Enterprise” に変更します。
- 英語で、“Custom CR for Enterprise” のツールヒントを “Launch CR for Enterprise” と表示するようにカスタマイズします。
- “Custom CR for Enterprise” のショートカットを “Custom Company” という名前の [スタートメニューエントリ](#) に配置します。

他のすべての言語に対しては、ショートカット名とツールヒントは変更されません。

```
<shortcut duSourceId="product.crystalreportsjava.shortcut-4.0-core">
  <arg id="linkFullPath" value="[programmenufolder]\Custom Company\Custom CR for Enterprise.lnk" lang="en"/>
  <arg id="description" value="Launch Custom CR for Enterprise" lang="en"/>
</shortcut>
```

6.5.2.3 Windows のプログラムの追加と削除ユーティリティのカスタマイズ

Windows の [プログラムの追加と削除](#) (ARP) ユーティリティでの表示名、発行者、アイコンをカスタマイズできます。次の要素を使用します。

```
<arp duSourceId="product.crystalreportsjava.arp-4.0-core">
  <arg id="publisher" value="<publisher name>"/>
  <arg id="display_name" value="<product name>" lang="<language list>"/>
  <arg id="display_icon" value="<full path to icon>"/>
</arp>
```

注記

言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

Windows ARP ユーティリティに表示されるアイコンのサイズは、16 x 16 ピクセルです。アイコン作成の詳細については Windows のドキュメントを参照してください。

例

この例は、Windows の ARP ユーティリティの以下のカスタマイズを実行します。

- Windows の ARP ユーティリティ内の製品名を “Custom Company Crystal Reports for Enterprise” に変更します。
- 発行者を “Custom Company” に変更します。
- 表示アイコンを C:\SAPCustomTool\CC_logo.ico にあるアイコンに置き換えます。

i 注記

この例を使用するには、C:\SAPCustomTool に CC_logo.ico というアイコンを置いておく必要があります。

```
<arp duSourceId="product.crystalreportsjava.arp-4.0-core">
  <arg id="display_name" value="Custom Company Crystal Reports for Enterprise"
  lang="all"/>
  <arg id="publisher" value="Custom Company"/>
  <arg id="display_icon" value="C:\SAPCustomTool\CC_logo.ico"/>
</arp>
```

6.5.3 デフォルトのユーザ入力のカスタマイズ

インストールプログラムは、ダイアログボックス、ラジオボタン、およびその他のユーザインタフェース要素を使用してユーザ入力を収集します。このユーザ入力のデフォルト値をカスタマイズできます。replaceProperty 要素でプロパティ ID を使用して新しいデフォルト値を指定します。

```
<replaceProperty id="<property id>" defaultValue="<value to use as default value>"/>
```

プロパティ ID の一覧については、[インストール画面 ID とプロパティ ID \[138 ページ\]](#)を参照してください。

例

インストール画面 [インストールタイプの選択](#) では、デフォルトのインストールタイプは [標準](#) です。この例では、デフォルトのインストールタイプを [カスタム](#) に変更しています。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
```

6.5.4 インストール画面の削除

インストールプログラムからインストール画面を削除することができます。removeDialog 要素でインストール画面 ID を使用します。

```
<removeDialog id="<インストール画面 ID>"/>
```

インストール画面 ID の一覧については、[インストール画面 ID とプロパティ ID \[138 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例は、[機能の選択](#) というタイトルのインストール画面を削除する方法を示しています。

```
<removeDialog id="SelectFeatures.dialog"/>
```

6.5.5 要件の確認の回避

要件とは、ホストマシンに必ず存在している条件で、インストールプログラムを成功させるためのものです。インストールプログラムの開始前にこれらの前提条件の有無が確認され、[要件の確認](#)画面に結果が表示されます。[要件の確認](#)画面を削除すると、要件の確認は実行されません。画面を削除するには、`removeDialog` 要素で `id="CheckPreRequisites.dialog"` を使用します。

i 注記

要件の確認を他の手段で行う場合は、このインストール画面を削除することをお勧めします。要件が満たされない場合は、インストールプログラムは成功しません。

例

この例では、[要件の確認](#)画面を削除し、要件の確認の実行を回避します。

```
<removeDialog id="CheckPreRequisites.dialog"/>
```

6.5.6 言語パックの削除

ユーザはインストールプログラムでインストールする言語パックを選択できます。言語パックには、インストールされている製品で使用されるすべての文字列の翻訳バージョンが含まれます。インストールプログラムには、可能な限りすべての言語パックがデフォルトで含まれます。組み入れる言語パックを指定することができます。`languageIncludeList` 要素で言語コードのリストを使用します。

```
<languageIncludeList value="<list of language codes>"/>
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

i 注記

言語パックはサイズが大きくなります。組み入れる言語パックを少なくすることで、インストールプログラムのサイズを小さくすることができます。

例

この例では、英語、フランス語、およびドイツ語の言語パックをインストールプログラムに組み入れます。ユーザはインストール時にこのリストから選択できます。

```
<languageIncludeList value="en;fr;de"/>
```


6.5.7 リソースの変更

インストールプログラムは、画像ファイルおよびテキストファイルをリソースとして次のフォルダに保存します。

dunit\product.crystalreportsjava-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources

このフォルダのリソースをカスタマイズできます。次のリソースはよくカスタマイズされます。

- インストールプログラム内の画像
- 使用許諾契約

リソースをカスタマイズするには、次の操作を行います。

1. カスタムリソースフォルダを作成します。
たとえば、C:\MyResources を作成します。
フォルダの名前は任意ですが、お客様が参照可能であることに注意してください。カスタマイズするすべてのリソースを同じフォルダで使用します。
2. 元のリソースと同じ名前とファイルパスで新しいリソースを作成し、それをカスタムリソースフォルダに配置します。
このステップの個別の例については、“関連情報”の節を参照してください。
3. 設定ファイルに <resources> 要素を追加し、カスタムリソースフォルダの場所を指定します。
たとえば、次のようにします。<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\MyResources"/>

i 注記

cleanTarget="yes" と設定すると、カスタマイズツールはオリジナルの resources フォルダを削除し、カスタムリソースフォルダ内のリソースのみを使用します。このオプションはお勧めできません。

関連情報

[インストールプログラム内の画像のカスタマイズ \[121 ページ\]](#)

[使用許諾契約のカスタマイズ \[122 ページ\]](#)

6.5.7.1 インストールプログラム内の画像のカスタマイズ

初期画面、すべての画面の上部の画像、進捗ダイアログボックスのビルボードなど、インストールプログラムの画像をカスタマイズできます。画像は、次の場所にあるリソースフォルダに、ファイルとして保存されます。

dunit\product.crystalreportsjava-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources

表 34:resources フォルダの画像ファイル

| 画像 | ファイル名 | 解像度 |
|--------------|----------------|----------------|
| 初期画面 | dialogFull.bmp | 500 x 400 ピクセル |
| すべての画面の上部の画像 | dialogTop.bmp | 500 x 83 ピクセル |

| 画像 | ファイル名 | 解像度 |
|---------------|---------------|----------------|
| 進捗ダイアログのビルボード | billboard.bmp | 500 x 193 ピクセル |

画像を変更するには、新しい画像ファイルを作成し、カスタムリソースフォルダにファイルを配置し、設定ファイルに `resources` 要素を追加します。

例

初期画面のイメージの変更

1. 次のフォルダを作成します。C:\MyResources
2. 新しい画像ファイル `dialogFull.bmp` を作成し、C:\MyResources フォルダに配置します。
3. 設定ファイルに次のような `resources` 要素があることを確認します。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\MyResources"/>
```

関連情報

[リソースの変更 \[121 ページ\]](#)

6.5.7.2 使用許諾契約のカスタマイズ

インストールプログラムでユーザーに表示される使用許諾契約を変更できます。使用許諾契約は次の場所にある `resources` フォルダにテキストファイルとして保存されます。

```
dunit\product.crystalreportsjava-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\<language code>
```

たとえば、英語の使用許諾契約は以下の場所にあります。

```
dunit\product.crystalreportsjava-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\en
\license_en.rft
```

言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

使用許諾契約を変更するには、新しい使用許諾ファイルを作成し、カスタムリソースフォルダにファイルを配置し、設定ファイルに `resources` 要素を追加します。

例

英語の使用許諾契約の変更

英語の使用許諾契約は以下に保存されています。

```
dunit\product.crystalreportsjava-4.0-core-32\setup.ui.framework\resources\en
\license_en.rtf
```

英語の使用許諾契約を変更するには、以下の手順を実行します。

1. 次のフォルダを作成します。C:\MyResources
2. フォルダ en を作成し、C:\MyResources フォルダに配置します。
3. 新しい使用許諾契約ファイル license_en.rtf を作成し、C:\MyResources\en フォルダに配置します。
4. 設定ファイルに次のような resources 要素があることを確認します。

```
<resources cleanTarget="no" sourcePath="C:\SAPCustomTool\MyResources"/>
```

関連情報

[リソースの変更 \[121 ページ\]](#)

6.5.8 Collaterals フォルダのアイテムの削除

SAP Crystal Reports for Enterprise インストールプログラムは、ツール、サンプル、およびドキュメントをインストールプログラムの Collaterals フォルダに保存します。デフォルトでは、お客様に配布されるカスタマイズされたインストールプログラムにも、同じコンテンツの Collaterals フォルダが含まれます。カスタマイズしたインストールプログラムのサイズを削減するため、Collaterals フォルダから不要なアイテムを削除できます。collaterals 要素で cleanTarget="yes" および Collaterals カスタムフォルダのフルパスを使用します。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="<full path to custom Collaterals folder>" />
```

i 注記

カスタマイズツールがオリジナルフォルダをカスタムフォルダに置き換えるためには、cleanTarget 属性を yes に設定する必要があります。

Collaterals フォルダからアイテムを削除する

1. 既存の Collaterals フォルダのコンテンツを新しい場所にコピーします。
たとえば、コンテンツを C:\MyCollaterals にコピーします。
2. C:\MyCollaterals から、カスタマイズされたインストールプログラムに不要なアイテムを削除します。
3. 設定ファイルに <collaterals> 要素を追加し、collaterals カスタムフォルダの場所を指定します。
たとえば、次のようにします。

```
<collaterals cleanTarget="yes" sourcePath="C:\MyCollaterals"/>
```

表 35:Collaterals フォルダ内のアイテムの説明

| フォルダ | 説明 | 削除ケース |
|--|--|--|
| Collaterals > Docs | Crystal Reports for Enterprise がサポートするすべての言語のドキュメントです。 | カスタマイズしたインストールプログラムに含まれていない任意の言語を削除します。言語コードの一覧については、 言語コード [137 ページ] を参照してください。 |
| Collaterals > Tools > CustomizationTool | SAP BusinessObjects カスタマイズツールです。 | インストールプログラムをカスタマイズする必要がない場合は、このフォルダを削除します。 |

6.6 レポートデザイナーのカスタマイズ

Crystal Reports for Enterprise レポートデザイナーの次のパーツをカスタマイズできます。

- スプラッシュ画面
- 開始ページ
- メニュー (次のパーツを含む):
 - 製品名 “Crystal Reports for Enterprise” を含むメニュー文字列
 - [登録メニュー項目](#)
 - [ヘルプメニューの項目リンク](#)

これらのカスタマイズは、プログラムをインストールした後に実行できます。また、カスタマイズされたインストールパッケージにカスタマイズをデプロイし、ユーザがプログラムをインストールするときにカスタマイズを適用できます。

6.6.1 スプラッシュ画面のカスタマイズ

Crystal Reports for Enterprise を実行すると、スプラッシュ画面がロードされます。このスプラッシュ画面を独自のビットマップに置き換えることができます。スプラッシュ画面を置換すると、デフォルトのスプラッシュ画面で表示されるデフォルトテキスト (バージョン番号と著作権文) も削除されます。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports for Enterprise がすでにインストールされていることを前提にしています。カスタマイズされたインストールプログラムにスプラッシュ画面をデプロイする場合、スプラッシュ画面で使用するビットマップの名前を splash.bmp に変更し、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#)の手順に従います。

1. ビットマップの名前を splash.bmp に変更します。
ビットマップは有効な .bmp ファイルである必要があり、サイズは問いません。ビットマップのサイズを 410 x 253 ピクセルに設定することを推奨します。
2. splash.bmp を CrystalReports.exe と同じフォルダ内に置きます。
デフォルトでは、CrystalReports.exe は以下の場所にあります。

C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0

Crystal Reports for Enterprise を実行すると、splash.bmp がロードされます。デフォルトテキストは表示されません。ビットマップがロードされない場合、代わりにデフォルトのスプラッシュ画面がロードされ、デフォルトテキストが表示されます。

6.6.1.1 スプラッシュ画面の進捗バーの削除

スプラッシュ画面をカスタマイズする際、スプラッシュ画面から進捗バーを削除することもできます。このカスタマイズは、.properties ファイルに show_splash_progressbar 属性を指定することで行います。このファイルの名前は cr_oem_config.properties とする必要があり、configuration フォルダに配置する必要があります。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports for Enterprise がすでにインストールされていることを前提にしています。このカスタマイズをカスタマイズされたインストールプログラムにデプロイする場合は、show_splash_progressbar=no を cr_oem_config.properties という名前のファイルで指定した後に、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#) の説明に従います。

1. (オプション) cr_oem_config.properties ファイルがない場合、このファイルを作成して、これを configuration フォルダに保存します。

i 注記

- デフォルトでは、configuration フォルダのファイルパスは次のとおりです。
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration
- この .properties ファイルは、ローカライズされた文字列が不要なカスタマイズで 사용되는ため、言語コードを含みません。
- このファイルで複数の言語をサポートするには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。

2. テキストエディタで cr_oem_config.properties ファイルを開き、以下の属性を追加します。

```
show_splash_progressbar=no
```

3. ファイルを保存します。

Crystal Reports for Enterprise を実行する際、進捗バーはスプラッシュ画面に表示されません。

関連情報

[.properties ファイルの属性 \[132 ページ\]](#)

6.6.2 開始ページのパーツの非表示

開始ページの上部または下部、あるいはこの両方を非表示にすることができます。

このカスタマイズは、.properties ファイルに属性を指定することで行います。このファイルの名前は cr_oem_config.properties とする必要があり、configuration フォルダに配置する必要があります。

注記

- デフォルトでは、configuration フォルダのファイルパスは次のとおりです。
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration
- この .properties ファイルは、ローカライズされた文字列が不要なカスタマイズで 사용되는ため、言語コードを含みません。
- このファイルで複数の言語をサポートするには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。

開始ページの上部に表示されるファイル履歴を非表示または表示するには、show_startpage_history 属性を使用します。

```
show_startpage_history=<yes or no>
```

開始ページの下部に表示されるオンラインフィードを非表示または表示するには、show_startpage_onlinefeed 属性を使用します。

```
show_startpage_onlinefeed=<yes or no>
```

独自の HTML ファイルを使用して開始ページの内容を変更する場合は、.properties ファイルで show_startpage_onlinefeed=yes と指定していても、HTML ファイルでオンラインフィードを置き換えます。このカスタマイズの詳細については、[開始ページのカスタマイズ \[127 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例では、開始ページの上部と下部の両方を非表示にします。

独自の HTML ファイルを使用して開始ページの内容を変更すると、HTML ファイルの内容がページの上部に表示されます。変更していない場合は、開始ページは空白になります。

```
show_startpage_history=no  
show_startpage_onlinefeed=no
```

注記

これらのカスタマイズをカスタマイズされたインストールプログラムにデプロイする場合は、cr_oem_config.properties という名前のファイルに属性を追加した後に、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#)の説明に従います。

関連情報

[.properties ファイルの属性 \[132 ページ\]](#)

6.6.2.1 開始ページのカスタマイズ

独自の HTML ファイルを使用して、開始ページのコンテンツを変更できます。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports for Enterprise がすでにインストールされていることを前提にしています。カスタマイズされたインストールプログラムに開始ページをデプロイする場合、開始ページに表示する言語に応じて、開始ページで使用する HTML ファイルの名前を `startpage_<language code>.html` に変更し、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#) の説明に従います。

1. HTML ファイルの名前を `startpage_<language code>.html` に変更します。

たとえば、英語の開始ページでは HTML ファイルは `startpage_en.html` となります。

i 注記

言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#) を参照してください。

2. `startpage_<language code>.html` を `configuration` フォルダに置きます。

デフォルトでは、`configuration` フォルダのファイルパスは次のとおりです。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI  
4.0\configuration
```

Crystal Reports for Enterprise を実行すると、`startpage_<language code>.html` で行ったカスタマイズが開始ページで表示されます。このカスタムコンテンツにより、デフォルトで開始ページ下部に表示されるオンラインフィードが置き換えられます。

開始ページの上部を非表示にすると、`startpage_<language code>.html` のコンテンツが開始ページ上部に表示されます。このカスタマイズの詳細については、[開始ページのパーツの非表示 \[125 ページ\]](#) を参照してください。

6.6.3 プログラム内の文字列のカスタマイズ

プログラム内の次の文字列を変更できます。これらの文字列はデフォルトでは、製品名 “SAP Crystal Reports for Enterprise” を含みます。

表 36:

| プロパティ名 | 説明 | 場所 | デフォルト値 |
|-----------------------------------|---|-------------------------|---|
| <code>product_name</code> | 製品名。 | ウィンドウタイトル | SAP Crystal Reports for Enterprise |
| <code>help_help_menutitle</code> | 製品のヘルプメニュー項目。 | ヘルプメニュー | SAP Crystal Reports for Enterprise ヘルプ |
| <code>help_about_menutitle</code> | <code><product name></code> のバージョン情報メニュー項目。 | ヘルプメニュー | SAP Crystal Reports for Enterprise のバージョン情報 |

これらの文字列は、言語固有の .properties ファイルに属性を指定することでカスタマイズします。このファイルの名前は cr_oem_config_<language code>.properties とする必要があり、configuration フォルダに配置する必要があります。

i 注記

- デフォルトでは、configuration フォルダのファイルパスは次のとおりです。
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration
- 言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- ウィンドウタイトルの製品名を “Custom CR for Enterprise” に変更します。
- 製品のヘルプメニュー項目のテキストを “Custom CR for Enterprise help” に変更します。
- <product name> のバージョン情報メニュー項目のテキストを “About Custom CR for Enterprise” に変更します。

```
product_name=Custom CR for Enterprise  
help_help_menutitle=Custom CR for Enterprise help  
help_about_menutitle=About Custom CR for Enterprise
```

i 注記

これらのカスタマイズをカスタマイズされたインストールプログラムにデプロイする場合は、cr_oem_config.properties という名前のファイルに属性を追加した後に、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#)の説明に従います。

関連情報

[.properties ファイルの属性 \[132 ページ\]](#)

6.6.4 ヘルプメニューのカスタマイズ

ヘルプメニューに次の変更を行うことができます。

- 登録メニュー項目を非表示にする。
- 次の項目リンクをリダイレクトする。
 - ▶ [ヘルプ](#) ▶ [お問い合わせ](#) ▶
 - ▶ [ヘルプ](#) ▶ [マニュアル](#) ▶

6.6.4.1 登録メニュー項目の非表示

顧客に製品の登録を求めない場合は、**ヘルプ** > **登録** メニュー項目を非表示にすることができます。このカスタマイズは、.properties ファイルに show_help_register_menu 属性を指定することで行います。

```
show_help_register_menu=<yes or no>
```

.properties ファイルの名前は cr_oem_config.properties とする必要があり、configuration フォルダに配置する必要があります。

i 注記

- デフォルトでは、configuration フォルダのファイルパスは次のとおりです。
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration
- この .properties ファイルは、ローカライズされた文字列が不要なカスタマイズで使用されるため、言語コードを含みません。
- このファイルで複数の言語をサポートするには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。

例

この例では、**ヘルプ** > **登録** メニュー項目を非表示にします。

```
show_help_register_menu=no
```

i 注記

このカスタマイズをカスタマイズされたインストールプログラムにデプロイする場合は、cr_oem_config.properties という名前のファイルに属性を追加した後に、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#)の説明に従います。

関連情報

[.properties ファイルの属性 \[132 ページ\]](#)

6.6.4.2 ヘルプメニューの項目リンクのリダイレクト

デフォルトでは、ヘルプメニューの**お問い合わせ**項目と**マニュアル**項目は、SAP コンテンツにリンクされています。これらの項目をリダイレクトして、自分のコンテンツにリンクすることができます。

どちらの項目も、URL またはファイルパスのどちらかにリンクできます。使用できるファイルタイプに制限はありませんが、相対ファイルパスは指定できません。

このカスタマイズは、.properties ファイルに属性を指定することで行います。このファイルの名前は cr_oem_config.properties とする必要があり、configuration フォルダに配置する必要があります。

注記

- デフォルトでは、configuration フォルダのファイルパスは次のとおりです。
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration
- この .properties ファイルは、ローカライズされた文字列が不要なカスタマイズで使われるため、言語コードを含みません。
- このファイルで複数の言語をサポートするには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。

お問い合わせメニュー項目のリンクをリダイレクトするには、help_contactus_location 属性を使用します。

```
help_contactus_location=<URL or file path>
```

マニュアルメニュー項目のリンクをリダイレクトするには、help_documentation_location 属性を使用します。

```
help_documentation_location=<URL or file path>
```

例

この例は、以下のカスタマイズを実行します。

- お問い合わせメニュー項目を SAP ホームページのリンクにリダイレクトします。
- マニュアルメニュー項目を C:\example.txt のリンクにリダイレクトします。

この例を使用するには、example.txt という名前のテキストファイルを作成して、C:\ ドライブに配置する必要があります。

```
help_contactus_location=http://www.sap.com/index.html  
help_documentation_location=C:\example.txt
```

注記

これらのカスタマイズをカスタマイズされたインストールプログラムにデプロイする場合は、cr_oem_config.properties という名前のファイルに属性を追加した後に、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#)の説明に従います。

関連情報

[.properties ファイルの属性 \[132 ページ\]](#)

6.6.5 概要ダイアログボックスのイメージの変更

概要ダイアログボックスは、**ヘルプ > 概要<製品名>** をクリックすると表示されます。これは、上部に表示される “SAP Crystal Reports for Enterprise” と記載されたバナーと、下部に表示される SAP ロゴの 2 つの SAP ブランドイメージで構成されます。

これらの 2 つのイメージを独自のビットマップに置き換えることができます。

i 注記

以下の手順は、Crystal Reports for Enterprise がすでにインストールされていることを前提にしています。カスタマイズされたインストールプログラムにバナーおよびロゴをデプロイする場合は、使用するビットマップの名前を `about_banner.bmp` および `about_logo.bmp` に変更してから、[OEM カスタマイズファイルのデプロイメント \[131 ページ\]](#) の説明に従います。

1. 置換バナーの名前を `about_banner.bmp` に変更します。

ビットマップは有効な `.bmp` ファイルである必要があり、サイズは問いません。バナーのサイズを 500 x 90 ピクセルに設定することを推奨します。このサイズに設定されていないビットマップについては、そのサイズがこれらのディメンションに変更されます。

2. 置換ロゴの名前を `about_logo.bmp` に変更します。

ビットマップは有効な `.bmp` ファイルである必要があり、サイズは問いません。ロゴのサイズを 100 x 100 ピクセルに設定することを推奨します。このサイズに設定されていないビットマップについては、そのサイズがこれらのディメンションに変更されます。

3. 両方のビットマップを `CrystalReports.exe` と同じフォルダ内に置きます。

デフォルトでは、`CrystalReports.exe` は以下の場所にあります。

```
C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\Crystal Reports for Enterprise XI 4.0
```

Crystal Reports for Enterprise で **ヘルプ > 概要<製品名>** をクリックすると、概要ダイアログボックスが表示され、ビットマップがロードされます。ビットマップがロードされない場合は、代わりにデフォルトバナーとロゴがロードされます。

6.6.6 OEM カスタマイズファイルのデプロイメント

カスタマイズされたファイル (例: スプラッシュイメージ、開始ページ、`.properties` ファイル) を準備した後、インストールパッケージにカスタマイズをデプロイできます。

1. `template.zip` という名前の `.zip` ファイルを作成します。
2. カスタマイズされたファイルを `.zip` ファイル内に配置します。

i 注記

`.zip` ファイル内のフォルダの構造は、インストールフォルダを基準にして、ファイルを配置するフォルダの構造と一致する必要があります。ファイルは `template.zip` 内の Crystal Reports for Enterprise XI 4.0 に配置されている必要があります。

たとえば、以下のカスタマイズされたファイルは `template.zip` 内の以下の場所に配置されている必要があります。

表 37:

| カスタマイズされたファイル | template.zip 内の場所 |
|-----------------------------|---|
| splash.bmp | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0 |
| about_banner.bmp | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0 |
| about_logo.bmp | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0 |
| startpage_en.html | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration |
| cr_oem_config.properties | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration |
| cr_oem_config_en.properties | Crystal Reports for Enterprise XI 4.0\configuration |

3. `.zip` ファイルをカスタマイズされたインストールパッケージの以下の場所にコピーします。

`dunit\product.crystalreportsjava.oemzips-4.0-core-nu\OEMZips`

i 注記

OEMZips フォルダをマニュアルで登録しなければならない場合があります。

4. インストーラを実行します。

`template.zip` のコンテンツがインストールフォルダに解凍されます。

6.6.7 .properties ファイルの属性

Crystal Reports for Enterprise では、レポートデザイナーのさまざまな属性を変更できます。ローカライズされた文字列が不要な属性は、ローカライズされた文字列が必要な属性とは異なる `.properties` ファイルに指定します。

ローカライズされた文字列が不要な属性

この属性を使用すると、レポートデザイナーのパーツを非表示にするなどの変更を行うことができます。たとえば、`show_startpage_history=no` で開始ページの上部に表示されるファイル履歴を非表示にし、`show_startpage_onlinefeed=no` で開始ページの下部のオンラインフィードを非表示にすることができます。

ローカライズされた文字列が不要な属性は、`cr_oem_config.properties` ファイルに指定します。このファイルで複数の言語をサポートするには、UTF-8 エンコーディングを使用する必要があります。

表 38:ローカライズされた文字列が不要な属性

| 属性 | 入力される値 | 説明 |
|-----------------------------|---------------------|--|
| show_splash_progressbar | =yes | スプラッシュ画面に進捗バーを表示します。 |
| | =no | スプラッシュ画面の進捗バーを非表示にします。 |
| show_startpage_history | =yes | 開始ページ上部のセクションを表示します。 |
| | =no | 開始ページ上部のセクションを非表示にします。 |
| show_startpage_onlinefeed | =yes | 開始ページ下部のセクションを表示します。 |
| | =no | 開始ページ下部のセクションを非表示にします。 |
| show_help_register_menu | =yes | ▶ ヘルプ ▶ 登録 ▶メニュー項目を表示します。 |
| | =no | ▶ ヘルプ ▶ 登録 ▶メニュー項目を非表示にします。 |
| help_contactus_location | =<URL or file path> | ▶ ヘルプ ▶ お問い合わせ ▶メニュー項目をカスタム URL またはファイルパスにリダイレクトします。 <div> <i>i</i> 注記 <ul style="list-style-type: none"> 使用できるファイルタイプに制限はありません。 相対ファイルパスはサポートされていません。 </div> |
| help_documentation_location | =<URL or file path> | ▶ ヘルプ ▶ マニュアル ▶メニュー項目をカスタム URL またはファイルパスにリダイレクトします。 <div> <i>i</i> 注記 <ul style="list-style-type: none"> 使用できるファイルタイプに制限はありません。 相対ファイルパスはサポートされていません。 </div> |

ローカライズされた文字列が必要な属性

この属性を使用すると、Crystal Reports for Enterprise の文字列を変更できます。たとえば、product_name=Custom CR for Enterprise でウィンドウタイトルに表示される製品名を変更できます。

ローカライズされた文字列が必要な文字列は、言語固有の .properties ファイルに指定します。このファイルの名前は、cr_oem_config_<language code>.properties とする必要があります。

i 注記

言語コードの一覧については、[言語コード \[137 ページ\]](#)を参照してください。

表 39:ローカライズされた文字列が必要な属性

| 属性 | 入力される値 | 説明 |
|----------------------|-----------------------|---|
| product_name | =<Product Name> | ウィンドウタイトルの <i>SAP Crystal Reports for Enterprise</i> を <Product Name> に置き換えます。 |
| help_help_menutitle | =<Product Name Help> | ヘルプメニューの <i>SAP Crystal Reports for Enterprise ヘルプ</i> を <Product Name Help> に置き換えます。 |
| help_about_menutitle | =About <Product Name> | ヘルプメニューの <i>SAP Crystal Reports for Enterprise のバージョン情報</i> を About <Product Name> に置き換えます。 |

関連情報

[スプラッシュ画面の進捗バーの削除 \[125 ページ\]](#)

[開始ページのカスタマイズ \[127 ページ\]](#)

[プログラム内の文字列のカスタマイズ \[127 ページ\]](#)

[登録メニュー項目の非表示 \[129 ページ\]](#)

[ヘルプメニューの項目リンクのリダイレクト \[129 ページ\]](#)

6.7 ツールの実行

SAP BusinessObjects カスタマイズツール (customizationtool.exe) は、SAP Crystal Reports for Enterprise インストールパッケージ内の以下の場所に含まれています。

Collaterals\Tools\CustomizationTool

例

この例では、カスタマイズツールを実行し、C:\ドライブにログファイルを作成します。この例を使用するには、以下を実行する必要があります。

- 設定ファイル oem.xml を作成して、C:\SAPCustomTool に配置します。
- Crystal Reports for Enterprise インストールパッケージを C:\SAPCustomTool\packages にダウンロードします。
詳細については、[インストールプログラムのダウンロード \[112 ページ\]](#)を参照してください。
- C:\SAPCustomTool 内に output というフォルダを作成します。
- コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd C:\SAPCustomTool\packages\Collaterals\Tools\CustomizationTool
```

上述のタスクが完了したら、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行することでカスタマイズツールを実行します。

```
customizationtool.exe xml=C:\SAPCustomTool\oem.xml packageDir=C:\SAPCustomTool\packages  
outputDir=C:\SAPCustomTool\output logDetail=error > C:\oemlog.log
```

i 注記

SAP BusinessObjects カスタマイズツールの処理の完了には、しばらく時間がかかる場合があります。ログファイルを表示して進捗状況を確認することができます。

SAP BusinessObjects カスタマイズツールの実行方法の詳細については、[Crystal Reports for Enterprise のクイックスタート \[110 ページ\]](#)を参照してください。

6.7.1 コマンドラインパラメータ

この節では、カスタマイズツールで使用するコマンドラインパラメータについて説明します。パラメータには、必須のものとオプションのものがあります。

表 40: 必須パラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 |
|------------|---|--------------------------------------|
| xml | 設定ファイルへの完全パス。 フルインストールプログラムの設定ファイルは、任意の名前にすることができます。 | xml=C:\SAPCustomTool\oem.xml |
| packageDir | 変更するインストールプログラムを含むフォルダへの完全パス。 インストールプログラムは、SAP Service Marketplace からダウンロードします。それには、他のバイナリ以外にも Collaterals、dunit、langs、および setup.engine というフォルダが含まれています。 | packageDir=C:\SAPCustomTool\packages |
| outputDir | カスタマイズしたインストールプログラムが作成されるフォルダへの完全パス。 このフォルダは、ツールを実行する前は、空にしておく必要があります。 | outputDir=C:\SAPCustomTool\output |

表 41:オプションパラメータ

| パラメータ | 説明 | 例 |
|-----------|--|-----------------|
| logDetail | <p>ロギングレベルの詳細。</p> <p>デフォルト値は info です。使用できる値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • error • warn • info • debug • trace | logDetail=warn |
| action | <p>ツールモード。</p> <p>デフォルト値は generate です。使用できる値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • generate ツールは指定したカスタマイズを実行します。 • validate ツールは設定ファイルを検証しますが、カスタマイズは実行しません。 | action=validate |

関連情報

[Crystal Reports for Enterprise のクイックスタート \[110 ページ\]](#)

6.8 Crystal Reports for Enterprise のカスタマイズで使用する ID とコード

次の節には、インストールプログラムのカスタマイズに使用できる、以下を含むすべての ID とコードの一覧があります。

- 文字列 ID
- 言語コード
- インストール画面 ID とプロパティ ID

6.8.1 文字列 ID

インストールプログラムの製品名およびバージョン番号の文字列を変更できます。すべての言語および特定の言語に対して文字列を置き換えることができます。

文字列を置き換えるには、`replaceString` 要素を使用します。たとえば、次のようにします。

```
<replaceString id="product.crjava_name" value="Custom Company Crystal Reports" lang="all"/>
```

表 42:よく変更される文字列

| 文字列 ID | 説明 |
|---------------------|----------|
| product.crjava_name | 製品のロング名 |
| product_version | 製品のバージョン |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[115 ページ\]](#)

6.8.2 言語コード

SAP BusinessObjects カスタマイズツールでは、これらの言語コードを使用して、次のサポートされている言語を表します。

i 注記

- 同一の要素に複数の言語を含める場合は、各言語コードをセミコロンで区切る必要があります。
- サポートされている言語すべてにカスタマイズを適用する場合は、値として言語コードの代わりに `all` を使用します。

表 43:

| 言語 | コード |
|-----------------|-----|
| 英語 | EN |
| チェコ語 | CS |
| デンマーク語 | DA |
| オランダ語 | NL |
| フィンランド語 | FI |
| フランス語 | FR |
| ドイツ語 | DE |
| ハンガリー語 | HU |
| イタリア語 | IT |
| 日本語 | JA |
| 韓国語 | KO |
| ノルウェー語 (ブークモール) | NB |

| 言語 | コード |
|---------|-------|
| ポーランド語 | PL |
| ポルトガル語 | PT |
| ルーマニア語 | RO |
| ロシア語 | RU |
| 簡体字中国語 | zh_CN |
| スロバキア語 | SK |
| スペイン語 | ES |
| スウェーデン語 | SV |
| タイ語 | TH |
| 繁体字中国語 | zh_TW |
| トルコ語 | TR |

関連情報

[製品名とバージョン番号のカスタマイズ \[115 ページ\]](#)

[Windows のスタートメニューショートカットのカスタマイズ \[117 ページ\]](#)

[Windows のプログラムの追加と削除ユーティリティのカスタマイズ \[118 ページ\]](#)

[言語パックの削除 \[120 ページ\]](#)

[使用許諾契約のカスタマイズ \[122 ページ\]](#)

[プログラム内の文字列のカスタマイズ \[127 ページ\]](#)

6.8.3 インストール画面 ID とプロパティ ID

インストール画面 ID は、`removeDialog` 要素で使われます。この要素を使用して、インストールプログラムから画面を削除します。たとえば、この要素を使用して[機能の選択](#)画面を削除するには、次のようにします。

```
<removeDialog id="SelectFeatures.dialog"/>
```

プロパティ ID は、`replaceProperty` 要素で使われます。この要素を使用して、インストールプログラムのフィールドおよび設定のデフォルトのユーザ入力を変更します。たとえば、この要素を使用して、デフォルトのインストールタイプを[カスタム](#)に設定するには、次のようにします。

```
<replaceProperty id="InstallType" defaultValue="custom"/>
```

表 44:画面 ID

| インストール画面のタイトル | インストール画面 ID | インストール画面内のプロパティ ID | プロパティ値 |
|--|---|--------------------|--|
| セットアップ言語を選択します | SelectUILanguage.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| インストールが続行できません | SharedAlwaysFailure.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| 前提条件のチェック | CheckPreRequisites.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| インストールウィザードへようこそ | ShowWelcomeScreen.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| 使用許諾契約 | ShowLicenseAgreement.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| 製品登録の設定 | CREnterProductKey.dialog | ProductKey | 製品キーコード |
| 言語パッケージの選択 | SelectLanguagePack.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| インストールタイプの選択 | ChooseInstallType2.dialog | InstallType | <ul style="list-style-type: none"> • default (標準) • custom |
| 機能の選択 | SelectFeatures.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| インストールの開始 | ShowInstallSummary.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| SAP Crystal Reports for Enterprise 4.1 SP3 は正常にインストールされました | ShowInstallComplete.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| SAP Crystal Reports for Enterprise 4 FP3 は正常にインストールされました | ShowInstallComplete_Patch Update.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| アプリケーションのメンテナンス | RunMaintenance.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| アンインストール確認 | VerifyToRemove.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |
| SAP Crystal Reports for Enterprise 4.1 SP3 はアンインストールされました | ShowUninstallComplete.dialog | 使用できません。 | 使用できません。 |

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。



www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。